2022年度
大学院経営学研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2022/5/2］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

修士課程（昼間）授業科目【X7002】経営管理特論［洞口　治夫］秋学期授業/Fall 1
修士課程（昼間）授業科目【X7006】人的資源管理特論［藤本　真］秋学期授業/Fall 3
修士課程（昼間）授業科目【X7008】経営戦略特論［孫　徳峰、李　瑞雪］年間授業/Yearly 5
修士課程（昼間）授業科目【X7010】国際経営特論［安藤　直紀］年間授業/Yearly 6
修士課程（昼間）授業科目【X7011】マーケティング特論［竹内　淑恵］春学期授業/Spring 8
修士課程（昼間）授業科目【X7013】会計学入門［筒井　知彦］春学期授業/Spring 10
修士課程（昼間）授業科目【X7015】財務会計論Ⅰ［川島　健司］春学期授業/Spring 11
修士課程（昼間）授業科目【X7016】財務会計論Ⅱ［川島　健司］秋学期授業/Fall 12
修士課程（昼間）授業科目【X7018】経営分析論Ⅰ［福多　裕志］春学期授業/Spring 14
修士課程（昼間）授業科目【X7019】経営分析論Ⅱ［福多　裕志］秋学期授業/Fall 15
修士課程（昼間）授業科目【X7020】財務諸表分析［髙橋　美穂子］春学期授業/Spring 17
修士課程（昼間）授業科目【X7031】金融論［片桐　満］年間授業/Yearly 18
修士課程（昼間）授業科目【X7033】ファイナンス入門［岸本　直樹］春学期授業/Spring 19
修士課程（昼間）授業科目【X7034】ポートフォリオ理論入門［岸本　直樹］秋学期授業/Fall 20
修士課程（昼間）授業科目【X7035】デリバティブ入門Ⅰ［山嵜　輝］春学期授業/Spring 22
修士課程（昼間）授業科目【X7036】デリバティブ入門Ⅱ［山嵜　輝］秋学期授業/Fall 23
修士課程（昼間）授業科目【X7037】国際経済学Ⅰ［髙橋　理香］春学期授業/Spring 24
修士課程（昼間）授業科目【X7038】国際経済学Ⅱ［髙橋　理香］秋学期授業/Fall 25
修士課程（昼間）授業科目【X7039】国際金融論特論［横内　正雄］年間授業/Yearly 27
修士課程（昼間）授業科目【X7042】産業組織論［大木　良子］年間授業/Yearly 28
修士課程（昼間）授業科目【X7045】日本経済特論Ⅰ［平田　英明］春学期授業/Spring 30
修士課程（昼間）授業科目【X7046】日本経済特論Ⅱ［平田　英明］秋学期授業/Fall 31
修士課程（昼間）授業科目【X7049】リサーチ・メソッド［田路　則子］春学期授業/Spring 33
修士課程（昼間）授業科目【X7052】経営学演習［吉田　健二］年間授業/Yearly 34
修士課程（昼間）授業科目【X7054】経営学演習［福島　英史］年間授業/Yearly 35
修士課程（昼間）授業科目【X7055】経営学演習［猪狩　良介］年間授業/Yearly 36
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7063】企業家養成演習［金　容度］春学期授業/Spring 37
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7064】企業家養成演習［金　容度］秋学期授業/Fall 38
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7065】企業家養成演習［近能　善範］春学期授業/Spring 39
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7066】企業家養成演習［近能　善範］秋学期授業/Fall 40
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7069】企業家養成演習［二階堂　行宣］春学期授業/Spring 41
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7070】企業家養成演習［二階堂　行宣］秋学期授業/Fall 42
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7073】企業家養成演習［稲垣　京輔］春学期授業/Spring 43
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7074】企業家養成演習［稲垣　京輔］秋学期授業/Fall 44
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7075】ワークショップ（企業家養成）［近能　善範］春学期授業/Spring 45
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7076】企業家活動［稲垣　京輔］春学期授業/Spring 46
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7077】企業家史［二階堂　行宣］春学期授業/Spring 47
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7078】経営史［韓　載香］秋学期授業/Fall 49
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7079】経営戦略論［吉田　健二］春学期授業/Spring 51
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7081】イノベーション・マネジメント概論［近能　善範］秋学期授業/Fall 52
修士課程（夜間）授業科目_国際経営コース【X7090】国際経営論［安藤　直紀］春学期授業/Spring 53
修士課程（夜間）授業科目_国際経営コース＆人材・組織マネジメントコース【X7094】国際人事［戎谷　梓］春学期授業/Spring 55
修士課程（夜間）授業科目_国際経営コース＆マーケティングコース【X7096】国際物流論［李　瑞雪］秋学期授業/Fall 56
修士課程（夜間）授業科目_国際経営コース＆アカウンティング・ファイナンスコース【X7097】国際会計論［松井　泰則］秋学期授業/Fall 59
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7103】人材・組織マネジメント演習［西川　真規子］春学期授業/Spring 61
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7104】人材・組織マネジメント演習［西川　真規子］秋学期授業/Fall 62
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7105】人材・組織マネジメント演習［奥西　好夫］春学期授業/Spring 63

修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7106】人材・組織マネジメント演習［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 64
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7107】人材・組織マネジメント演習［長岡　健］春学期授業/Spring 65
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7108】人材・組織マネジメント演習［長岡　健］秋学期授業/Fall 66
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7109】人材・組織マネジメント演習［小川　憲彦］春学期授業/Spring 67
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7110】人材・組織マネジメント演習［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 68
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7111】人材・組織マネジメント演習［岸　眞理子］春学期授業/Spring 70
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7112】人材・組織マネジメント演習［岸　眞理子］秋学期授業/Fall 71
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7113】人材・組織マネジメント演習［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 72
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7114】人材・組織マネジメント演習［佐野　嘉秀］秋学期授業/Fall 73
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7117】人材・組織マネジメント演習［戎谷　梓］春学期授業/Spring 74
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7118】人材・組織マネジメント演習［戎谷　梓］秋学期授業/Fall 75
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7120】人的資源管理論［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 76
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7122】キャリアマネジメント論［小川　憲彦］春学期授業/Spring 77
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7123】人事制度論［奥西　好夫］春学期授業/Spring. 79
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7124】労働市場論［藤本　真］秋学期授業/Fall 80
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7125】労使コミュニケーション論［呉　学殊］秋学期授業/Fall 82
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7126】経営組織論［長岡　健］秋学期授業/Fall 84
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7128】経営情報論［岸　眞理子］秋学期授業/Fall . . . 85
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7133】マーケティング演習［田路　則子］春学期授業/Spring. 86
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7134】マーケティング演習［田路　則子］秋学期授業/Fall . . . 87
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7131】マーケティング演習［西川　英彦］春学期授業/Spring. 88
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7135】マーケティング演習［木村　純子］春学期授業/Spring. 89
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7132】マーケティング演習［西川　英彦］秋学期授業/Fall . . . 90
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7136】マーケティング演習［木村　純子］秋学期授業/Fall . . . 91
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7137】マーケティング演習［横山　斉理］春学期授業/Spring. 92
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7138】マーケティング演習［横山　斉理］秋学期授業/Fall . . . 93
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7139】マーケティング演習［長谷川　翔平］春学期授業/Spring 94
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7140】マーケティング演習［長谷川　翔平］秋学期授業/Fall . 95
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7144】ワークショップ（マーケティング）［朝岡　崇史］秋学期授業/Fall 96
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7145】マーケティング論［竹内　淑恵］春学期授業/Spring . . 98
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7147】マーケティング・リサーチ論［西川　英彦］秋学期授業/Fall100
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7149】マーケティング・サイエンス論［長谷川　翔平］秋学期授業/Fall 102
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7150】サービス・マネジメント論［木村　純子］春学期授業/Spring103
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7156】アカウンティング･ファイナンス演習［福田　淳児］春学期授業/Spring 104
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7160】アカウンティング･ファイナンス演習［川島　健司］春学期授業/Spring 106
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7157】アカウンティング･ファイナンス演習［福田　淳児］秋学期授業/Fall 107
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7161】アカウンティング･ファイナンス演習［川島　健司］秋学期授業/Fall 109

修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7158】アカウンティング･ファイナンス演習（代表シラバス）［岸本　直樹］春学期授業/Spring 110
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7159】アカウンティング･ファイナンス演習（代表シラバス）［岸本　直樹］秋学期授業/Fall 111
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7164】ワークショップ（アカウンティング・ファイナンス）［川島　健司、福田　淳児］春学期授業/Spring 112
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7166】財務会計論［倉田　幸路］春学期授業/Spring 113
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7167】税務会計論［金子　友裕］秋学期授業/Fall114
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7168】会計情報論［坂上　学］秋学期授業/Fall115
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7169】経営分析［福多　裕志］春学期授業/Spring117
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7171】基礎ファイナンス［山嵜　輝］春学期授業/Spring 118
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7172】実証ファイナンス入門［金　璿晋］秋学期授業/Fall 120
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7175】コーポレート・ファイナンス［岸本　直樹］秋学期授業/Fall 121
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7180】経営学基礎［福島　英史］春学期授業/Spring 122
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7181】会計学基礎［筒井　知彦］春学期授業/Spring 123
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7183】経済学基礎［宮澤　信二郎］春学期前半/Spring(1st half) 124
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7189】ｅ-ビジネス論［入戸野　健］秋学期後半/Fall(2nd half) 125
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7191】定性的方法論［田路　則子］春学期授業/Spring 126
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7196】外国語経営学特殊講義１［ジョナサン・エイブル］春学期授業/Spring127
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7197】外国語経営学特殊講義２［ジョナサン・エイブル］秋学期授業/Fall 128
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7401】博士演習ＩＡ（履修登録用代表コード）［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 129
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7410】博士演習ＩＡ［坂上　学］春学期授業/Spring 130
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7412】博士演習ＩＡ［北田　皓嗣］春学期授業/Spring 131
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7402】博士演習ＩＢ（履修登録用代表コード）［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 132
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7411】博士演習ＩＢ［坂上　学］秋学期授業/Fall 133
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7413】博士演習ＩＢ［北田　皓嗣］秋学期授業/Fall 134
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7403】博士演習ⅡＡ（シラバス用代表コード）［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 135
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7404】博士演習ⅡＢ（シラバス用代表コード）［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 136
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7405】博士演習ⅢＡ（シラバス用代表コード）［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 137
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7406】博士演習ⅢＢ（シラバス用代表コード）［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 138
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7421】博士演習ⅡＡ［西川　英彦］春学期授業/Spring 139
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7422】博士演習ⅡＢ［西川　英彦］秋学期授業/Fall 140
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7423】博士演習ⅡＡ［小川　憲彦］春学期授業/Spring 141
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7424】博士演習ⅡＢ［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 142
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7425】博士演習ⅡＡ［新倉　貴士］春学期授業/Spring 143
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7426】博士演習ⅡＢ［新倉　貴士］秋学期授業/Fall 144
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7432】博士演習ⅢＡ［田路　則子］春学期授業/Spring 145
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7433】博士演習ⅢＢ［田路　則子］秋学期授業/Fall 146
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7436】博士演習ⅢＡ［金　容度］春学期授業/Spring 147
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7437】博士演習ⅢＢ［金　容度］秋学期授業/Fall 148
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7430】博士演習ⅢＡ［西川　英彦］春学期授業/Spring 149
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7438】博士演習ⅢＡ［新倉　貴士］春学期授業/Spring 150
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7431】博士演習ⅢＢ［西川　英彦］秋学期授業/Fall 151
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7439】博士演習ⅢＢ［新倉　貴士］秋学期授業/Fall 152
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7440】博士演習ⅢＡ［長岡　健］春学期授業/Spring 153
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7441】博士演習ⅢＢ［長岡　健］秋学期授業/Fall 154
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7442】博士演習ⅢＡ［安藤　直紀］春学期授業/Spring 155

博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7443】博士演習ⅢＢ［安藤　直紀］秋学期授業/Fall 156
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7444】博士演習ⅢＡ［金　瑢晋］春学期授業/Spring 157
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7445】博士演習ⅢＢ［金　瑢晋］秋学期授業/Fall 158
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7446】博士演習ⅢＡ［横山　斉理］春学期授業/Spring 159
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7450】博士コースワークショップＩＡ［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 160
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7451】博士コースワークショップＩＢ［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 161
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7452】博士コースワークショップⅡＡ［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 162
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7453】博士コースワークショップⅡＢ［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 163
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7454】博士コースワークショップⅢＡ［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 164
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7455】博士コースワークショップⅢＢ［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 166

MAN500F1 － 0126

経営管理特論

洞口　治夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営管理特論の授業では、昼間修士課程１年次の留学生、研修生、日本人学生、および、社会人夜間修士課程１年次生を対象に、経営に関する修士論文作成に必要な研究方法論について学習します。大学院入学試験の段階で提出した研究テーマをもとにして、それを修正し、研究を進めていく方法を学びます。仮説と命題、演繹と帰納、理論と実証といった科学的な考え方を学習し、学会、学術雑誌、レフェリー制度など、経営学研究の成果発表方法についても学習します。学術的な研究を将来にわたって進めていきたいと考える修士課程二年生の学生諸君、博士課程に在籍する学生諸君の参加も歓迎します。

【到達目標】
日本語検定１級を取得した留学生、あるいは、それと同等の日本語力を有する留学生、また、日本国内で大学を卒業した日本人学生を対象として、修士論文を書くためのアカデミックな日本語文章力の向上を目標とします。半期授業での少人数クラス指導を通じて、学術的に見て価値の高い経営に関する修士論文を完成させるために必要な技能の習得を目指します。研究課題の発見能力、先行研究の理解力、英語・日本語文献の読解力、インタビュー調査での質問構成力、ノートテイキング、図表の作成能力、統計的分析力、日本語文章力、論理的思考能力など高度な思考能力を養い、経営に関する修士論文作成に役立つ能力の獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
修士課程・研修生のなかには留学生も多数いるため、日本語教科書の音読を中心に授業を進めます。日本語を見て意味がわかるだけではなく、正確に読めることが大切です。そのうえで日本語文章力を高めます。参加学生諸君の論文作成準備状況に応じて、論文作成の段階を想定して必要な準備について学習します。修士論文の執筆を予定している１年次生は、各コースごとに毎年１月頃に修士論文のテーマに関する報告を行うことが求められており、そこで指導教員が決まります。また修士論文を作成する２年次生は、その作成過程でコースの院生全員が参加する修士論文の中間発表会で報告します。そうした報告の準備として経営に関する研究方法を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	科目の意義についてのイントロダクション Introduction to the subject	修士論文執筆の年間計画を確認する。教科書①はじめに、第１章。 Create and confirm an annual plan for writing the master's thesis. Textbook ① Introduction, Chapter 1.
第２回	研究計画の作成指導 Guidance on developing a research plan	修士論文のテーマと執筆計画の概要作成。ケース・スタディとケース・ディスカッション。教科書①第２章、第３章。 Prepare an outline of your master's thesis topic and writing plan. Case study and case discussion. Textbook 1) Chapters 2 and 3.
第３回	研究方法論の検討 Discussion on research methodology	理論研究と実証研究。アンケート調査と参与観察。教科書①第４章、第５章。 Theoretical research and empirical research. Questionnaire survey and participant observation. Textbook 1) Chapters 4 and 5.
第４回	ロジカルシンキングと仮説 Logical thinking and hypothesis	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。教科書①第６章、第７章。 Examine, report, and discuss previous research on the topic of the master's thesis. Textbook 1) Chapters 6 and 7.
第５回	研究成果の表現技術 Techniques for expressing research findings	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。教科書①第８章、第９章。 Research, report, and discuss prior research on the topic of the master's thesis. Textbook 1) Chapters 8 and 9.
第６回	調査計画の作成指導 Guidance on developing a fieldwork plan	修士論文のテーマに関する調査計画を報告し、議論する。教科書①第 10 章、第 11 章。 Report and discuss the research plan for the topic of the master's thesis. Textbook 1) Chapters 10 and 11.
第７回	フィールドワークの発表 Presentation of fieldwork	フィールドワークの発表をして議論する。教科書①第 12 章、あとがき。 Students will present and discuss their fieldwork. Textbook 1) Chapter 12, Afterword.
第８回	ケーススタディの発表 Presentation of case studies	ケーススタディに関する発表をして議論する。教科書②第１章、第２章。 Presentation and discussion of the case study. Textbook 2: Chapters 1 and 2.
第９回	調査データ収集の方法 Methods of survey data collection	調査結果の有効性について議論する。教科書②第３章。 Discuss the validity of the research results. Textbook 2, Chapter 3.
第 10 回	経営管理研究の視角 Perspectives on business management research	経営管理の研究テーマに適合的な調査の仕方について議論する。教科書②第４章。 Discuss how to conduct a survey that fits the research theme of business management. Textbook 2, Chapter 4.
第 11 回	アンケート調査とグループインタビュー Questionnaire survey and group interview	経営管理の研究テーマに適合的な調査の仕方について議論する。教科書②第５章。 To discuss how to conduct a survey suitable for an academic paper. Textbook (2), Chapter 6.
第 12 回	証拠分析の方法 Methods of evidence analysis	学術論文に適合的な調査の仕方について議論する。教科書②第６章。 Discussion on how to conduct research suitable for academic papers. Textbook 2, Chapter 6.

第 13 回	経営管理研究論文の構想 Conception of a business management research paper	論文の論理構成と表現について検討する。教科書②の総復習。引用論文の確認。 To discuss the logical structure and expression of academic papers. Review of Textbook 2. Review of cited papers.
第 14 回	授業内試験。研究報告の準備。 In-class examination. Preparation of research report.	期末レポート提出。所属コースで行われる中間報告会での報告の準備を行う。 Submission of final report. Prepare for the mid-term report meeting in your course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。
第 1 回　修士論文のテーマを構想する。
第 2～3 回　修士論文のテーマと執筆計画の概要を作成する。
第 4～8 回　小売店ないし飲食店を 2 店舗以上比較して発見した事実を発表し、そのレポートを作成する。
第 9～13 回　修士論文のテーマに関連した先行研究を収集し、報告レジュメを作成する。具体的な調査方法を考案する。
第 14 回　修士論文中間報告のための資料を作成してレポートを提出する。

【テキスト（教科書）】
教科書①、洞口治夫著『ＭＢＡのナレッジ・マネジメント－集合知創造の現場としての社会人大学院－』文眞堂、2018 年、2400 円＋税。
教科書②、ロバート・Ｋ・イン著『新装版　ケース・スタディの方法　第２版』近藤公彦訳、千倉書房、2011 年、3500 円＋税。
＜アマゾンなどで中古本も購入できます。＞
その他、必要な教材は授業内ないし学習支援システムによって配布します。

【参考書】
①小池和男・洞口治夫編『経営学のフィールド・リサーチ－「現場の達人」の実践的調査手法』日本経済新聞社、2006 年。＜調査と参与観察の現場を知る。＞
②洞口治夫編著『ファカルティ・ディベロプメント』白桃書房、2008 年。＜とくに第 11 章。＞
③小池和男『聞きとりの作法』東洋経済新報社、2000 年。

【成績評価の方法と基準】
評価方法と配分: 出席と授業参加（42 %）、授業内報告（18 %）、期末試験 (レポート提出)(40 %)。
評価基準：出席と授業内での発言を重視します。授業内の報告については満たすべき基準を授業内で指示します。期末試験 (レポート提出) の評価基準は、理論的なフレームワークの確かさ、実証分析の手堅さ、論理的な首尾一貫性、テーマの斬新性、日本語文章力などです。

【学生の意見等からの気づき】
本科目は 2022 年度新設科目であるため、本項目は該当しません。授業参加学生からの要望を聞きながら学期中の授業改善に努めていきます。
Since this course is newly established in 2022, this item is not applicable. We will try to improve the class during the semester by listening to the requests from students participating in the class.

【学生が準備すべき機器他】
日本語の漢字を調べることのできる電子辞書、あるいは、その機能をもったスマホ。課題をワードファイルでダウンロード、アップロードできるインターネット端末に接続したパソコンの利用も必須です。
An electronic dictionary that can look up Japanese kanji, or a smart phone with that function. The use of a computer is also required. It must be connected to Internet that can download and upload assignments as word files.

【その他の重要事項】
本科目は、修士課程一年次の秋学期から修士論文構想を考えたいと思う学生諸君の準備を助けることを目的にしています。修士課程二年次で修士論文作成に取り組んでいる学生諸君の参加も歓迎します。スタートが早い場合には、完成した修士論文の評価も高いものになるでしょう。修士課程一年次にたくさんの科目を履修しすぎて修士論文作成の準備がまったくできなくなるのは、賢い選択とは言えません。修士課程一年次から調査データを積み上げることで優れた研究成果を提出することが可能になります。
洞口は法政大学経営学部教授であるとともに、東証プライム市場上場企業の社外取締役を拝命しています。つまり、社会人大学院生のみなさんと同様に、経営理論と実務の関係を考察しています。取締役会のメンバーとして現時点の企業実務に関わることで、現在の経営課題を知ることができ、コーポレートガバナンスという単語の意味を実感を持って理解できます。この授業では、社外取締役という仕事での経験をもとに経営管理の現代的課題を指摘し、研究課題の設定に活かす方法を探求します。
The purpose of this course is to help prepare students who want to start thinking about their master's thesis concept in the fall semester of their first year of the master's program. Students who are in their second year of the master's course and are working on their master's thesis are also welcome to participate. The earlier you start, the higher the evaluation of your completed master's thesis will be. It is not a wise choice to take too many courses in the first year of a master's program and be completely unprepared to write a master's thesis. By accumulating research data from the first year of the master's program, you will be able to submit excellent research results.
In addition to being a professor at Hosei University's Faculty of Business Administration, Prof. Horaguchi is also an outside director of a company listed on the prime market of the Tokyo Stock Exchange. In other words, he examines the relationship between management theory and practice in the same way as working graduate students. By being involved in current corporate practice as a member of the board of directors, I am able to learn about current management issues and gain a real understanding of the meaning of the word "corporate governance. In this class, we will use our experiences in our work as outside directors to point out contemporary issues in business management and explore ways to apply them to the setting of our research agenda.

【Outline (in English)】
In the Study in Business Administration class, daytime master's students, trainees, and first-year evening master's students who are working adults learn about the research methods required to write a master's thesis on management.
Based on the research topic submitted for the graduate school entrance exam, students will learn how to revise it and conduct further research. Students will learn scientific concepts such as hypothesis and proposition, deduction and induction, and theoretical and empirical research, as well as how to present the results of their management research at conferences, academic journals, and referee systems.
【Learning Objectives】
This course aims to improve academic Japanese writing skills for writing master's theses for international students who have passed Level 1 of the Japanese Language Proficiency Test or have equivalent Japanese language skills, as well as for Japanese students who have graduated from universities in Japan. Through small-group instruction in semester-long classes, students aim to acquire the skills necessary to complete an academically valuable master's thesis on management. The course aims to develop advanced thinking skills such as the ability to find research topics, understanding of previous research, reading comprehension of English and Japanese literature, question construction skills for interview surveys, note-taking, charting, statistical analysis, Japanese writing skills, logical thinking skills, and other skills useful for writing a master's thesis on management.
【Methods】

Since there are many international students in the master's program and trainees, the class will be conducted mainly by reading Japanese textbooks aloud. It is important not only to be able to understand the meaning of Japanese, but also to be able to read it accurately. In addition, students will improve their Japanese writing skills. Depending on the participating students' preparations for writing their thesis, we will study the necessary preparations assuming the thesis writing stage. First-year students who are planning to write their master's thesis are required to present a report on the theme of their master's thesis in January of each year for each course, and their supervisors will be decided there. Second-year students who will write their master's thesis are required to present their thesis at an interim master's thesis presentation attended by all graduate students in their course. In preparation for such a presentation, students study research methods related to management.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Class 1: Conceptualize the theme of the master's thesis.

Class 2-3: Create an outline of the master's thesis theme and writing plan.

Class 4-8: Students will compare two or more retail stores or restaurants, present their findings, and write a report on their findings.

Class 9-13: Collect prior research related to the theme of the master's thesis and prepare a report resume. Students will devise specific research methods.

Class 14: Prepare materials for the interim report of the master's thesis and submit the report.

【Textbooks】

Textbook (1), Haruo Horaguchi, MBA no Narejji Manejiment: Shugochi Souzou no Genba toshiteno Shakaijin Daigakuin (Knowledge Management in MBA: Graduate School for Working Adults as a Site of Collective Knowledge Creation), Bunshindo, 2018, 2,400 yen plus tax.

Textbook (2), Robert K. Yin, Shinsoban Kesu Sutadii no Houhou, Dai 2-han, (Newly Revised version, Case Study Research, 2nd Edition, SAGE Publications, 1994), translated by Kimihiko Kondo, Chikura Shobo, 2011, 3,500 yen plus tax.

< You can also buy used books from Amazon.com. > In addition, other necessary materials will be provided in class.

Other necessary materials will be distributed in class or through the learning support system.

【Grading Criteria / Policy】

Evaluation method and distribution: Attendance and class participation (42%), in-class reporting (18%), final exam (report submission) (40%).

Evaluation criteria: Emphasis will be placed on attendance and in-class comments. The criteria to be met for in-class reports will be indicated in class. The evaluation criteria for the final exam (report submission) will be: solidity of the theoretical framework, solidity of the empirical analysis, logical coherence, novelty of the theme, and Japanese writing ability.

MAN500F1 － 0124

人的資源管理特論

藤本　真

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業が実践する人的資源管理の基本的な考え方を学び、その特殊性（海外の企業及び制度との国際比較）について議論していきます。

取り上げるテーマは、人材の募集・採用、人材の配置・異動、評価・賃金制度、能力開発、労働時間管理、労使関係管理、人材の多様化管理（非正規化・国際化）、退職・解雇などです。これらの領域について現状と歴史、主要な議論を把握するとともに、参加者は、各領域に対応するケースや論文を取りまとめ、その構造や課題について報告・議論します。

こうした学習活動を通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人的資源管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としています。

【到達目標】

①人的資源管理論の対象領域の広がりと基本的な考え方を知る。
②人的資源管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。
③そのうえで、日本企業における人的資源管理の特殊性について理解・評価する。
④身近な人的資源管理の事例について考察する視点を得る。
⑤人的資源管理に関連する論文について批判的に検討する視点を得る。
⑥修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

１．本授業は、対面型授業として、実施します。
２．授業は、①人的資源管理の各領域に関する基本的な考え方や、議論の動向についての講義と、②参加者による課題についての報告・ディスカッション、とを組み合わせて進める予定です。毎回、講義形式の部分に加えて、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・議論の準備が課題となります。
３．およそのスケジュールは授業計画のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明
第 2 回	オリエンテーション	参加者の問題関心の共有と、人的資源管理の基本枠組みについての説明
第 3 回	採用のマネジメント	採用の目的、採用管理の基本、新卒採用・中途採用の意義、採用と定着
第 4 回	配置と異動	配置・異動の目的、初任配置、企業を超えた配転
第 5 回	昇進と昇格	昇進管理の目的、昇進における「選抜」「育成」「動機づけ」の関係、社員の格付け、昇格と昇進
第 6 回	多様な雇用・就業形態の活用	正社員以外の雇用・就業形態で働く人々の配置と処遇、「同一労働・同一賃金」に向けた取り組み

第 7 回	働く時間のマネジメント	労働時間管理の基本的枠組み、長時間労働・「サービス残業」の背景、ワーク・ライフ・バランス
第 8 回	仕事ぶりの評価	人事評価の目的・方法、様々な評価要素（コンピテンシーなど）、人事評価に伴う課題
第 9 回	賃金管理 (1) －賃金決定と福利厚生の枠組み－	賃金の基本的な枠組み、賃金がもつ機能、賃金の総額管理と個別賃金管理、福利厚生
第 10 回	賃金管理 (2) －様々な給与形態－	「年功主義的」賃金の成立過程と課題、近年における評価・賃金制度の模索と課題
第 11 回	能力開発とキャリア形成のマネジメント (1)	仕事上の能力開発の目的、能力開発の方法、能力開発とキャリア形成・管理
第 12 回	能力開発とキャリア形成のマネジメント (2)	配置・異動とキャリア形成、「新しい」異動の仕組みと課題、「キャリア自律」に向けた取組み
第 13 回	女性の仕事とキャリア形成	女性の採用・配置・処遇の現状、性別職域分離とその解消に向けた取組み
第 14 回	退職のマネジメント	退職管理、早期退職優遇制度、定年制、「70 歳までの雇用・就業」に向けての取組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各回の事前に配布する講義用のレジュメを熟読しておくこと。特に、留学生の参加者は、自国の制度・実態との差異と今後の課題について、意見・議論できるように準備しておくこと。
また、各回で発表の指名を受けた参加者は、発表課題について内容をまとめたレジュメを作成しておくこと。

【テキスト（教科書）】
講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。各回の授業の前に、講義で用いるレジュメを配布します。

【参考書】
各回のテーマによって、以下の文献を参考文献として使用します。
①今野浩一郎、佐藤博樹 [2020]『人事管理入門（第 3 版）』，日本経済新聞社.
②佐藤博樹、藤村博之、八代充史 [2019]『新しい人事労務管理（第 6 版）』，有斐閣.
③平野光俊、江夏幾多郎 [2018]『人事管理～人と企業，ともに活きるために』，有斐閣ストゥディア.
④守屋貴司・中村艶子・橋場俊展編著 [2018]『価値創発 (EVP) 時代の人的資源管理』，ミネルヴァ書房.
⑤八代充史 [2019]『人的資源管理論～理論と制度 (第 3 版)』, 中央経済社.
⑥上林千恵子編著 [2012]『よくわかる産業社会学』, ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
１．第２回以降の出席を「授業における学習姿勢」として評価 (40%)
２．報告の担当回での報告内容の評価 (30%)
３．授業における議論への参加の評価：内容、積極性を評価 (30%)
以上の３項目を総合して、最終的な評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
１．人的資源管理とは、「①社会環境上の、または組織における様々な制約条件のもと、②人材と仕事・役割をマッチングしつつ、③個々の人材がパフォーマンスを発揮できるように取り組み、④組織としてのパフォーマンスを挙げる」ための営みと、捉えることができます。授業の中では、各回のテーマに沿う形で、この①～④の要素についての理解が進むように、講義で話題提供と問題提起を行い、報告・ディスカッションを通じて、検討を行っていきます。
２．この授業は、海外から進学してきた大学院生が多く履修しているため、日本企業の人的資源管理についての理解を深めるとともに、海外企業と日本企業との共通点や違いがなぜ生まれるのかについて、考察できる機会にしていきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業社会学、人的資源管理論
＜研究テーマ＞
①環境変化のもとでの日本企業における能力開発活動、キャリア管理
②中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動
③転職・中途採用と能力開発・キャリア形成
④能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能
＜主要研究業績＞
（書籍）
○労働政策研究・研修機構編 [2012]『中小企業における人材育成・能力開発』(共著), 労働政策研究・研修機構.
○藤本真・佐野嘉秀・高見具広・山口塁 [2017]『日本企業における人材育成・能力開発・キャリア管理』, 労働政策研究・研修機構.
○梅崎修・池田心豪・藤本真編著 [2019]『労働・職場調査ガイドブック』, 中央経済社.
○藤本真・田中秀樹・清原悠［2022］『ミドルエイジ層の転職と能力開発・キャリア形成』, 労働政策研究・研修機構.
（論文）
○藤本真・大木栄一 [2010]「ものづくり現場における技能者育成方法の変化―「OJT 中心・Off-JT 補完型」から「OJT・Off-JT 併用型」へ」, 日本労働研究雑誌 No.595.
○藤本真 [2011]「60 歳以降の勤続をめぐる実態―企業による継続雇用の取組みと高齢労働者の意識・行動」, 日本労働研究雑誌 No.616.
○藤本真 [2018]「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」, 日本労働研究雑誌 No.691.

【Outline (in English)】
【Outline】
Students will learn the basic concept of human resource management practiced by Japanese companies and discuss their characteristics through international comparison with overseas companies and systems.
The topics covered in this class are recruitment, placement/transfer, evaluation, wage system, human resource development, working time management, industrial relations, diversification of human resources, retirement, and so on. Participants are required to understand the main issues on these topics, and to report and discuss examples and papers corresponding to each topic.
Through these learning activities, the goal is for participants to acquire the ability to think about the current status and issues of human resource management.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
(1) To understand the breadth of the subject area of human resource management theory and its basic concepts.
(2) To understand the basic theories and discussions on individual areas of human resource management.
(3) To understand and evaluate the particularities of human resource management in Japanese companies.
(4) To gain a perspective from which to examine familiar human resource management case studies.
(5) To gain a viewpoint from which to critically examine papers related to human resource management.
(6) To obtain hints for research themes for master's thesis.
【Learning activities outside of classroom)】
Before each class meeting, students are expected to do the followings. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
(1) Students are expected to read carefully the lecture resume distributed in advance.
(2) International students should be prepared to discuss the differences between the system and the actual situation in their home countries and the future issues.
(3) Participants who are appointed to give a presentation in each session should prepare a resume summarizing the contents of the presentation topic.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30% and in-class contribution ： 70%.

MAN500F1 － 0007

経営戦略特論

孫　徳峰、李　瑞雪

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業はどのように自社の事業範囲を決めるか、どのように競合に対して持続的な競争優位を獲得するか、どのように効率的かつ有効なオペレーション・システムを構築し改善していくか。こういった問題を中心に、企業の全社戦略、競争戦略、イノベーション戦略を検討します。ケースメソッドを用いて具体的な企業事例の分析を通して理論の理解を深めます。

【到達目標】
本授業では、全社戦略、競争戦略（事業戦略）、イノベーション戦略に関する基本的な理論、概念、分析手法を学びます。既存の理論と分析フレームワークを援用して現実の経営戦略を説明し、考察する能力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義方式とケーススタディ方式を併用して授業を進めます。プレゼンテーションとグループ・ディスカッションを求めることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	経営戦略とは	経営戦略の定義と階層、戦略と組織、戦略とオペレーション。
第 2 回	競争優位と一般戦略	戦略と競争優位、一般戦略（コストリーダーシップ、差別化、集中化）、差別化の類型、持続的競争優位のメカニズム。
第 3 回	ポジショニング・アプローチ（Ⅰ）	SCP モデル、ファイブ・フォース・モデル、参入障壁、戦略グループ、移動障壁。
第 4 回	ポジショニング・アプローチ（Ⅱ）	バリューチェーン、ピムズ・デル、SWOT 分析、戦略策定手順、PPM、ビジネススクリーン。
第 5 回	1 回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第 6 回	産業構造と戦略的機会（Ⅰ）	集約・統合戦略、先行者優位の戦略、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収穫戦略、撤退戦略、勝者総取り戦略。
第 7 回	産業構造と戦略的機会（Ⅱ）	トランスナショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、先制破壊戦略。
第 8 回	リソース・ベース・ビュー（RBV）	VRIO フレームワーク、競争戦略と経営資源、コア・コンピタンス、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積メカニズム、イノベーションと競争優位。
第 9 回	ゲーム論アプローチ（Ⅰ）	価値相関図（バリュー・ネット）、コーピティション（競争と協調）、「付加価値」と価値工限度、ネットワークの外部性と競争優位。
第 10 回	2 回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第 11 回	ゲーム論アプローチ（Ⅱ）	MFC 条項と MCC 条項、戦略的補完関係、意図的抑止。
第 12 回	創発戦略と学習アプローチ	創発戦略、学習の「場」の設定、実験による学習、ダイナミック・シナジー。
第 13 回	競争戦略パラダイムの転換	イノベーション戦略、プラットフォーム戦略、シェアリング・ビジネスの戦略など。
第 14 回	競争戦略のまとめ、中間テスト	競争戦略のまとめ、中間テスト。
第 15 回	企業戦略の基本	ドメイン、製品・市場ポートフォリオ、シナジー、成長ベクトル。
第 16 回	多角化戦略	多角化戦略の定義、多角化の誘因・動機、多角化の類型、多角化度、多角化ディスカウント、ダイナミックな学習プロセス。
第 17 回	垂直統合の戦略	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buy の意思決定、第 3 の取引形態、取引統治メカニズムの類型など。
第 18 回	国際化戦略	国際化の類型、国際化戦略における範囲の経済、海外顧客の購入意思と購入能力、輸入障壁、OLI フレームワーク、統合化と適応化、国際企業の類型、CAGE フレームワーク、AAA 戦略、ボーングローバル戦略。
第 19 回	M&A 戦略と PMI 戦略	M&A の類型、戦略的関連性の源泉、M&A 戦略の動機、ターゲット企業とビディング戦略の行動規範と原則、買収後のプロセス統合戦略。
第 20 回	戦略的提携	戦略的提携の定義と形態、戦略的提携と業界構造、提携におけるリスクなど。
第 21 回	3 回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第 22 回	イノベーション（Ⅰ）	イノベーションの定義、イノベーションのプロセス、イノベーションのジレンマなど。
第 23 回	イノベーション（Ⅱ）	イノベーションの実現プロセス、資源動員、オープン・イノベーションなど。
第 24 回	新規事業創造（Ⅰ）	ベンチャー企業とは何か、新規事業創造における製品開発モデルと顧客開発モデルについて説明。
第 25 回	新規事業創造（Ⅱ）	アントレプレナーシップとはなにか、アントレプレナーシップの二つの特徴的なアプローチについて説明。
第 26 回	新規事業創造（Ⅲ）	ビジネスモデルとはなにか、ビジネスモデルの構成要素およびビジネスモデルキャンバスについて説明し、さまざまな形態での企業の収益化、課金モデルの仕組みについて解釈。
第 27 回	4 回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第 28 回	全社戦略とイノベーション戦略のまとめ	全社戦略とイノベーション戦略のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
毎回授業に先立って、レジュメなどの資料を事前に予習し、指定されたリーディングを読みディスカッションに備えます。ケーススタディに際しては、プレゼンの資料（パワーポイント）を事前に作成します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

【参考書】
『企業戦略論』ジェイ B. バーニー著、ダイヤモンド社.
『戦略サファリ』ヘンリー・ミンツバーグ著、東洋経済新聞社.
『競争の戦略』M・E・ポーター著、ダイヤモンド社.

『戦略経営論』ガース・サローナーほか著、東洋経済新聞社.
『リーン・スタートアップ』エリック・リース著、日経 BP 社.

【成績評価の方法と基準】
授業中の参加の度合いと貢献度（20 %）、ケーススタディの討論と発表（25 %）、中間テストの成績（25 %）、期末テストの成績（30 %）を総合して成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替え速度に気をつけます。授業中、随時質問を受け付けます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経営論、経営戦略論
＜研究テーマ＞新興国市場における製品開発戦略、親会社と海外子会社間関係、新規事業創造
＜主要研究業績＞『日系企業の知識と組織のマネジメント－境界線のマネジメントからとらえた知識移転メカニズム－』白桃書房.
「新興国市場戦略における現地での能力開発と本国資産の選択的利用－中国における日本アパレル企業 AB 社の事例分析－」『国際ビジネス研究』.
「海外製品開発拠点の能力構築における探索と活用の順序－日本分析計測機器メーカーの中国開発拠点の事例分析－」『国際ビジネス研究』など.

【Outline (in English)】
How do companies determine their business domain and scope; how do companies try to acquire and maintain their sustainable competitive advantage against competitors; how do companies establish and improve efficient and effective operation system. Focusing on these issues, we will examine and discuss corporate strategy, business strategy and innovation strategy in this class. Case method will be used to analyze real cases in order to help understand the relative theories deeply. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 30%, Mid-term examination: 25%, in class contribution: 45%.

MAN500F1 － 0009

国際経営特論

安藤　直紀

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げてしまうことが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。これが国際経営の主要な研究課題です。本講義では、国際経営において伝統的に重要な研究領域、および近年注目されている研究領域を概観します。学生は、国際経営における重要なトピックを、経営学で頻繁に適用される理論と関連させながら学びます。

【到達目標】
１．国際経営における主要な研究分野で、どのようなトピックが近年研究されているのかを理解し、各トピックに関する知識を深めます。
２．国際経営の研究に活用される主要な理論を理解し、自らの研究に活用できるようになります。
３．国際経営の研究方法を理解し、理論を活用して仮説構築や事例分析ができるようになります。
４．国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義の授業形態は、対面形式（ハイフレックス）とします。ですが、内容により、一部、リアルタイムオンラインでも行います。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム（Hoppii）内でお知らせします。
授業計画に示したトピックについて、ます基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連した課題やディスカッションを行います。また、トピックに関連した調査を行い、報告を行います。
秋学期の初めに、プロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果の中間及び最終プレゼンテーションを行います。
課題の提出等は学習支援システムを通した提出と E メールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	講義概要とオリエンテーション
2	Methodology	社会科学の研究方法の検討
3	The environment of international business (1)	制度的環境に関する検討
4	The environment of international business (2)	文化的環境に関する検討
5	Institutional theory	制度理論の検討
6	Emerging economies	新興経済における制度の検討
7	Studies on the environment of international business	制度的環境に関する研究事例の検討
8	FDI	FDI を説明する理論の検討
9	Strategies of MNEs	多国籍企業の戦略類型の検討

10	Emerging economies' MNEs	新興国を本国とする多国籍企業の検討
11	Studies on strategies of MNCs	多国籍企業の戦略に関する研究事例の検討
12	Internationalization and the performance of MNCs	多国籍企業の国際化の程度とパフォーマンスとの関係に関する検討
13	Regional diversification	多国籍企業の地域内拡大に関する検討
14	Transaction cost theory	取引費用理論の検討
15	Entry mode(1)	参入方式の類型の検討
16	Entry mode(2)	参入方式の効果の検討
17	Isomorphism	多国籍企業の同型化の検討
18	International HRM	海外子会社の人材戦略の検討
19	Agency theory	Agency theory の検討
20	Language barriers	多国籍企業が直面する言葉の壁の検討
21	Research proposal	プロジェクトの中間プレゼンテーション
22	Localization(1)	海外子会社の現地化の検討
23	Localization(2)	現地化の効果の検討
24	Studies on International HRM	多国籍企業の人材戦略に関する研究事例の検討
25	International alliance(1)	国際戦略的提携の検討
26	International alliance(2)	Joint ventures の検討
27	Studies on international alliances	国際戦略的提携に関する研究事例の検討
28	Presentation	プロジェクトの最終プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、資料を読んだり、課題に取り組んだり、プレゼンテーションの準備をしたりすることが求められます。
講義のための準備・復習時間は、各回２時間を標準とします。
下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1 回　学部で学習したことを復習する
2 回　社会科学の方法論に関して調査する
3-4 回　多国籍企業が海外で直面する制度的、文化的環境を調査する
5 回　Institutional theory に関して調査する
6 回　多国籍企業が新興国で直面する制度的環境に関して調査する
7 回　制度的環境の多国籍企業への影響に関する論文を読む
8 回　FDI の理論に関して調査する
9 回　多国籍企業の戦略の類型に関して調査する
10 回　新興国を本国とする多国籍企業に関して調査する
11 回　多国籍企業の戦略に関する論文を読む
12 回　国際化の程度が多国籍企業の業績に与える影響を調査する
13 回　多国籍企業の地域内拡大に関して調査する
14 回　Transaction cost theory に関して調査する
15-16 回　エントリー・モードに関して調査する
17 回　多国籍企業の同型化に関して調査する
18 回　国際人材戦略に関して調査する
19 回　Agency theory に関して調査する
20 回　多国籍企業における言語の役割に関して調査する
21 回　プロジェクトの中間発表の準備をする
22-23 回　人材の現地化に関して調査する
24 回　国際人材戦略に関する論文を読む
25-26 回　国際戦略的提携に関して調査する
27 回　国際戦略的提携に関する論文を読む
28 回　プロジェクトの最終発表の準備をする

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

【参考書】
下記に参考書を示しますが、より新しい版が出版されているものもあります。
Cavusgil, S.T., Knight, G. & Riesenberger, J.R.2008. International Business: The New Realities (2nd ed.). Prentice Hall: NJ.
Cullen, J.B. & Parboteeah, K.P. 2008. Multinational Management: A Strategic Approach. South-Western: OH.
Collinson, S., Narula, R., & Rugman, A.M. 2020. International Business. Pearson Education: Harlow, UK.
Peng M. & Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.
Shenkar, O. & Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
下記の比率で評価します。
プロジェクト：５０％
クラスへの貢献：５０％
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。クラスへの貢献に含まれる課題は、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

【学生の意見等からの気づき】
理論と関連したケースをより多く紹介します。
ケース分析及びディスカッションに配分する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
② Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)
③ Intra-organizational communication and its consequences. 2019. Management Decision, 57(1): 71-85. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)

【Outline (in English)】
(Course outline)
Firms that are competitive in their home country often fail overseas. This is partially because the environment of the host country, which is different from that of the home country, reduces the value of their firm-specific advantages. How should firms compete overseas? This is a primary research agenda in international business studies. This course introduces students to traditional and new research topics in international business studies. They will learn key concepts and frameworks of international business studies and theories behind them.
(Learning objectives)
The goal of this course is to understand basics of international business studies. Students will gain a better understanding of primary research topics in international business studies. They will also understand theories used in international business studies and build skills to read academic papers. At the end of this course, students are expected to improve an ability to develop hypotheses of and analyze firms' success and failure in foreign countries, applying theories of international business.
(Learning activities outside of classroom)
Students are required to read materials, complete assignments, and prepare for presentations and discussions. Time for preparatory study and review will be at least 2 hours for each class.
(Grading Criteria/Policies)
Students will be evaluated on a term project (50%) and in-class contribution (50%).

MAN500F1 － 0010

マーケティング特論

竹内　淑恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
製品やブランドを日常生活の一部にする消費者の、活発でインタラクティブなコミュニティづくりを行うことは、今日のマーケティング上の課題である。本講義では、顧客価値の創造とロイヤル顧客獲得の方法を学び、今日のマーケティングの本質を捉える顧客価値と顧客とのリレーションシップに関する革新的なフレームワークを理解する。また、発表の機会を通じてプレゼンテーション・スキルの向上を図るとともに、ディスカッションによって多面的な角度から問題を掘り下げる能力を身につける。

【到達目標】
・マーケティングの基本概念や理論について、自ら説明できるレベルに達する。
・マーケティングの理論を実務に応用し、マーケティング戦略を検討できるようになる。
・ディスカッションの場において、実践的かつ批判的な視点から討議できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で春学期の土曜日 1・2 時限に実施します。
ただし、初回とゲストスピーカーによる講義の回 (第 13 回を予定) にはオンラインで実施することを計画しています。Zoom の ID、パスコードは学習支援システムの「お知らせ」で確認ください。
・2 時限続きで 14 回開講します。
・テキストの第 1 章～第 14 章はレクチャー形式で行います。
・受講生には各章末にある「ディスカッション」を担当していただきます。予めプレゼンテーションファイルを用意し、討議のためのケースを紹介してください。その後、クラス全員で発表内容などについて検討します。
・「マーケティングと社会的責任」（第 15 章）をテーマに、革新的なマーケティング事例に関するグループワークをしていただきます。その内容を第 14 回授業でプレゼンテーションしてください。
・提出物やプレゼンテーションの内容に対して個別評価や全体講評を行い、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	①イントロダクション、オリエンテーション ②第 1 章：マーケティングの本質	①授業の進め方、文献の調査方法などを説明し、分担決定を行う。 ②マーケティングの定義、およびマーケティングの 5 つのステップについて学ぶ。
第 2 回	①第 2 章：企業とマーケティング戦略 ②第 3 章：競争優位の創造	①マーケティングのステップ 2「顧客主導型マーケティング戦略の設計」およびステップ 3「マーケティング・プログラムの設計」について学ぶ。 ②競合分析と競争的マーケティング戦略に関して学ぶ。
第 3 回	①第 4 章：マーケティングの基本枠組み ②ディスカッション	①顧客主導型マーケティングの基本的枠組みである STP(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング) について学ぶ。 ②ニッチマーケティング実践企業等のディスカッション。
第 4 回	①第 5 章：マーケティング情報とカスタマー・インサイト ②ディスカッション	①様々なマーケティング情報とその情報収集方法であるマーケティング・リサーチに関して学ぶ。 ②マーケティング・リサーチ等のケース・スタディ・ディスカッション。
第 5 回	①第 6 章：消費者の購買行動 ②ディスカッション	①消費者の購買行動に影響を与える文化的・社会的・個人的・心理的要因について学ぶ。 ②新製品の普及速度と製品特性等のディスカッション。
第 6 回	①第 7 章：製品、サービス、ブランド ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P の内の一つ、Product(製品・サービス・ブランド) 戦略に関して学ぶ。 ②ブランド拡張の成功例・失敗例等のディスカッション。
第 7 回	①第 8 章：新製品開発と製品ライフサイクル戦略 ②ディスカッション	① Product 戦略において重要な役割を担う新製品開発のプロセスについて学ぶ。 ②製品ライフサイクルの延命成功事例等のディスカッション。
第 8 回	①第 9 章：マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P の内の一つ、Place(チャネル) 戦略に関して学ぶ。 ②開放的流通、排他的流通、選択的流通の長所と短所等のディスカッション。
第 9 回	①第 10 章：価格設定 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P の内の一つ、Price(価格) 戦略に関して学ぶ。 ②コストベース、顧客価値ベース、競争ベースの価格設定の長所と短所等のディスカッション。
第 10 回	①第 11 章：コミュニケーションによる顧客価値の説得 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P の内の一つ、Promotion(コミュニケーション) 戦略に関して学ぶ。 ②購買準備段階に応じたマーケティング・コミュニケーション事例等のディスカッション。
第 11 回	①第 12 章：広告とパブリック・リレーションズ ②ディスカッション	① Promotion 戦略において重要な役割を担う広告、PR(パブリック・リレーションズ) について学ぶ。 ②消費者生成型広告の長所と短所等のディスカッション。
第 12 回	①第 13 章：人的販売と販売促進 ②ディスカッション	① Promotion 戦略において重要な役割を担う人的販売、販売促進について学ぶ。 ②モバイルを用いた消費者向けセールス・プロモーション事例等のディスカッション
第 13 回	①第 14 章：ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング ②研究手法と修論について	①近年の ICT の進展に伴って急成長しているダイレクト・マーケティング、オンライン・マーケティングに関して学ぶ。 ② OB・OG をゲストスピーカーとして迎え、修論完成に至るスケジュールやプロセス、心構えについて学ぶ。
第 14 回	グループワーク発表会	「マーケティングと社会的責任」（第 15 章）をテーマに、グループワークによる研究結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・テキストの予習をして内容を理解しておいてください。
・テキストにあるディスカッションテーマについて目を通し、ディスカッションに備えてください。
・プレゼンテーションを担当する回には pdf ファイルを作成し、遅くとも授業前日の 18 時までに提出してください。
・「マーケティングと社会的責任」をテーマに革新的なマーケティング事例を選定し、グループワークを行ってください。

【テキスト（教科書）】
フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版、2014/3/4. ISBN-10:4621066226 ISBN-13:978-4621066225 ￥5,184

【参考書】
・授業では原著を使用しません。以下の書籍を参考にしてください。
Kotler, Philip & Gary Armstrong, Principles of Marketing, Global ed, Pearson Education, 2015/4/2 ISBN-10:1292092483, ISBN-13:978-1292092485 ￥11,653
・マーケティング・コースの修了生 (OB・OG) が執筆した以下の書籍を修士論文 (研究) の参考にしてください。
竹内淑恵編著 (2014)『リレーションシップのマネジメント』文眞堂, 2014/4/8. ISBN-10:4830947977 ISBN-13:978-4830947971 ￥2,808

【成績評価の方法と基準】
・担当する各章のプレゼンテーション内容 (40%)
・クラス討議への参加度、貢献度 (30%)
・グループワークによる事例発表 (30%)

【学生の意見等からの気づき】
本講義を受講した学生からの意見は以下の通りです。
・翻訳文をテキストとし、英語の原著は参考書とした方が良い。
・ゲストスピーカーとして OB・OG を招いた講義において、研究手法について説明してほしい。
・毎回のディスカッションで実務との関連が明確になった。

【学生が準備すべき機器他】
繰り返しになりますが、担当回に使用する pdf ファイルを発表の前日 18 時までに、担当教員にメール添付ファイルにて提出してください。担当教員のメールアドレスは学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で確認ください。

【その他の重要事項】
・マーケティング・コースの学生は、ワークショップ (マーケティング)、消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、流通システム論、サービス・マネジメント論、製品開発論を履修することをお勧めします。
・修士論文において、定量分析を活用した研究を計画している学生は、統計データ解析を履修することをお勧めします。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論に焦点を当てて講義します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞マーケティング論、ブランド論、消費者行動論
＜研究テーマ＞広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、ソーシャルメディアにおけるブランド・コミュニケーション
＜主要研究業績＞
①竹内淑恵 (2021)「Facebook ページにおけるネガティブ効果の発生とリレーションシップへの影響」『イノベーション・マネジメント』No.18, pp.55-88.
②竹内淑恵 (2020)「Facebook ページにおける消費者エンゲージメント行動：「いいね」とコメントの差異」『イノベーション・マネジメント』No.17, pp.59-88.
③竹内淑恵 (2019)「ブランド・コミュニティ研究へのマルチレベル分析の適用可能性－ Facebook ページへのリレーションシップがロイヤルティに及ぼす影響の検討－」『イノベーション・マネジメント』No.16, pp.53-78.
④竹内淑恵 (2018)「Facebook ページにおける消費者とブランドとのリレーションシップ構築」『イノベーション・マネジメント』No.15, pp.43-63.
他の研究業績等の詳細は以下を参照ください。
http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001706/profile.html

【Outline (in English)】
Course outline: Today's marketing challenge is to create a lively and interactive communities of consumers who make products and brands a part of their daily lives. This course will help students learn how to create customer value and acquire loyal customers.
Learning Objectives: The students will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing. They will develop the presentation skills through presentation opportunities and acquire the ability to delve into problems from a multifaceted angle through discussions.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term presentation (40%), term-end presentation (30%,) and in class contribution (30%).

MAN500F1 － 0127

会計学入門

筒井　知彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、会計学の入門的な内容を学ぶ。財務諸表 (貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書) の仕組みと見方、資産評価、収益や費用の認識と測定、財務分析の手法を学ぶ。学習を通じて財務諸表を読めるようになること、また、実際の財務諸表データを利用して基本的な財務分析を行えるようになることを目的とする。

【到達目標】
①貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書が読める。
②基本的な財務指標の知識が増える。
③企業の財務データを利用して基本的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
①講義と質疑応答、ディスカッションにより進めます。
②第 12 回～第 14 回では各学生に財務分析のプレゼンテーションを行ってもらい、それをもとにディスカッションをします。
③毎回、リアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の全体の概要を説明します。
第 2 回	財務諸表の見方 (その 1)	貸借対照表の構造および役割等について講義し、具体的な事例で見方を学びます。
第 3 回	財務諸表の見方 (その 2)	損益計算書の構造、役割および貸借対照表との関係等について講義し、具体的な事例で見方を学びます。
第 4 回	財務諸表の見方 (その 3)	キャッシュ・フロー計算書の構造、役割並びに貸借対照表および損益計算書との関係等について講義し、具体的な事例で見方を学ぶ。
第 5 回	財務諸表の見方 (その 4)	財務諸表を利用した分析手法を講義し、具体的な事例で実践します。
第 6 回	制度会計 (その 1)	わが国の制度会計 (金融商品取引法会計・会社法会計・税務会計) の概要を理解します。
第 7 回	制度会計 (その 2)	わが国の制度会計 (金融商品取引法会計・会社法会計・税務会計) の相互の関係と、国際的基準の影響について講義します。
第 8 回	利益計算の構造 (その 1)	伝統的な利益計算構造と財務会計の諸概念について講義します。
第 9 回	利益計算の構造 (その 2)	資産・負債アプローチに基づく利益計算構造と財務会計の諸概念について講義します。
第 10 回	利益計算の構造 (その 3)	伝統的な利益計算と資産・負債アプローチに基づく利益計算が現代の企業会計においてどのように統合されているかを理解します。
第 11 回	経営分析 (1)	具体的な事例により、収益性、効率性、安全性を分析します。
第 12 回	経営分析 (2)	財務分析のプレゼンテーション
第 13 回	経営分析 (3)	財務分析のプレゼンテーション
第 14 回	経営分析 (4)	財務分析のプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
①財務分析の手法に関する資料は復習してください。
②また、各自が選んだ企業の財務データについて、レポートをまとめてもらう予定です。
③それをもとにプレゼンテーションを行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】
Hoppii により講義資料を配布します。

【参考書】
特に指定はしませんが、会計学または財務会計の入門書が参考になります。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション 40 %およびレポート 60%により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例の紹介を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
講義は ZOOM によりオンラインで実施しますのでソフトをダウンロードしておいてください。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 財務会計
< 研究テーマ> 会計規制論
< 主要研究業績>
①『企業分析入門』(共訳，東京大学出版会，2001 年 3 月)
②『財務会計通論』(分担執筆, 税務経理教会，2009 年 3 月)
③『収益の会計』（日本証券アナリスト協会）

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class focuses on financial literacy and aims to provide students with the knowledge, understandings and a range of skills that enables them to make basic financial analysis.
（Learning Objectives）
① Understand the basic accounting concepts and rules.
② Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.
（Learning activities outside of classroom）
Review each lesson’s Power Point.　Preparing for your presentation and report.
（Grading Criteria /Policy）
Presentation:30% , Report:70%

MAN500F1 － 0128

財務会計論Ⅰ

川島　健司

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。財務会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して会計実務を理解することを目指す。

財務諸表の作り方については、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する議論などが含まれる。

財務諸表の読み方については、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。

【到達目標】

①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
②日本の会計基準、および IFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要な基礎概念について理解する。
③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
④財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は基本的にオンラインによるオンデマンド方式で行う。

【各回の授業構成】

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計というと技術的・制度的な印象を強くもたれがちだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠や歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

【仮想ではないリアルな教材】

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルの会社・人物・取引を用いる。授業の終盤では、その当事者と実際に対話する機会も設ける予定である。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえるはずである。

【本講義で学習する主な財務指標】

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率 (ROE)、1 株当たり当期純利益 (EPS)、時価簿価比率 (PBR)、経済的付加価値 (EVA)

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	財務会計とは何か、どのように学ぶか	講義全体の学習内容と講義計画を説明。会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。
2	起業ストーリーⅠ：会社の創業	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が創業する時点のケースから理解を深める。
3	会社経営と財政状態	財政状態の意味と記録法を説明する。また、財務会計の目的と役割を明確化し、利害調整と情報提供という目的観を併せて解説。
4	収支計算と損益計算	日常でも実践される収支計算と、営利企業で行われる損益計算について、両者の相違に焦点をあてながら解説。
5	複式簿記の方法	複式簿記の原理を理解した上で、簿記一巡の手続きについて解説。
6	複式簿記の実践	実際の会社の取引に基づいて、簿記一巡の手続きを実践する。
7	起業ストーリーⅡ：会社の拡大	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が事業拡大するケースから理解を深める。
8	利益計算の会計	損益法と財産法の特性を考察する。収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説。
9	資産の会計	資産の認識・測定・開示の方法について解説する。
10	負債と資本の会計	負債と資本の認識・測定・開示の方法について解説する。
11	会計学の実践	実際の会社の取引にもとづき、会計学の考察法に基づいて会計処理を実践する。
12	簿記・会計の発展史	明治期から現在に至る日本の簿記・会計の歩みを概観する。
13	CFO との対話実践	経営者を招き、簿記・会計の知識にもとづいた対話を実践する。
14	簿記・会計の学びの先へ	簿記・会計の知識をいかに発展・活用していくかについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の IR 資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021 年.

【参考書】

1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2022 年 4 月現在の最新版.
2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社, 2022 年 4 月現在の最新版.
3 飯野利夫『財務会計論』三訂版, 同文舘, 1993 年.
4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第 9 版, 中央経済社, 2015 年. 同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第 9 版, 中央経済社, 2015 年.
5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第 3 版, 白桃書房, 2010 年.
6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社, 2008 年.

7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】
以下の 2 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。①各回の確認テスト（50 %）、②各回の課題作文（50 %）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form で提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を増やしてほしいという要望があり、対応する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受けるための PC。表計算ソフトの Excel。

【その他の重要事項】
「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定 3 級の内容を学んでおくとよい。その場合、各種専門学校（TAC, 大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline (in English)】
This lecture explains the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement preparers and readers.
Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.
With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.
The goals of this lecture are as follows.
(1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
(2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
(3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.
(4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.
The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)
(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

MAN500F1 － 0129

財務会計論Ⅱ

川島　健司

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務諸表の「作り方」と「読み方」を体系的に講義する。財務諸表の作り方を学ぶには、取引の実態を知り、簿記の技術を学び、会計処理の手続きに関する基本的な原理・原則や思考法を学ぶことが必要である。一方、読み方を学ぶには、伝統的な財務諸表分析の技法を知り、さらには企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用することが必要である。
本講義では、こうした財務諸表の理解に必要な諸要素である「簿記」「会計原理と会計原則」「財務諸表分析」「会計学に必要なファイナンス」について、それぞれのもっとも基礎的な内容と各要素間の相互関係について解説し、会計学について総合的に理解することを目的とする。

【到達目標】
①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種 IR 情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
秋学期の全体を以下の 2 つのパートに分割する。「財務諸表分析」（秋学期・第 1 回～第 7 回）、「会社の価値分析」（秋学期・第 8 回～第 14 回）
会社の価値分析は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。なお、財務会計論Ⅰと財務会計論Ⅱは、どちらの順番で履修しても差し支えない。
会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルの会社・人物・取引を用いる。授業の終盤では、その当事者と実際に対話する機会も設ける予定である。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえるはずである。
受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業の目標と構成	本授業の概要を説明する。
2	起業ストーリーⅢ：会社の上場	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場するケースから理解を深める。
3	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。

4	損益計算書の読み方	損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROS や損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用する ROA、回転率、ROE などの指標を学ぶ。
5	キャッシュ・フローの分析	キャッシュフロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した収支データの見方のほか、CCC 分析により資金回収の速さを評価する。
6	財務分析の実践	実際の財務データを題材に、財務分析の活用機会を認識したうえで、財務データを用いた仮説・検証の分析を実践する。
7	起業ストーリーⅣ：ポスト IPO	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場した後の経営（ポスト IPO）に関するケースから理解を深める。
8	会社の価値と資本コスト	会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの意味や計測方法について学習する。
9	DCF モデル	割引現在価値（DCF）モデルとよばれる価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である現存会計や退職給付会計の解説も行う。
10	残余利益モデル	残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルをその利点とともに理解する。
11	価値分析の実践	実際の財務データと証券市場データにもとづき、実際に価値の測定と評価を競合会社との比較を通じて実践する。
12	財務分析・価値分析の歴史	財務分析・価値分析の歴史を財務会計と関連づけて概観する。
13	経営者との対話実践	実際に活躍される経営者を授業に招き、財務分析・価値分析の知識を用いて対話を実践する
14	まとめ	本授業の全体をまとめ、実務での活用とキャリア形成について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業では有価証券報告書や IR 資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、会社のホームページからダウンロードする。入手方法の詳細は授業内で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021 年.

【参考書】
・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2022 年 4 月現在の最新版.
・伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社, 2022 年 4 月現在の最新版.
・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版, 白桃書房, 2005 年.
・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第 12 版, 白桃書房, 2014 年.
・中野誠『戦略的コーポレートファイナンス』日経文庫, 2016 年.
・岸本直樹・池田昌幸『入門・証券投資論』有斐閣ブックス, 2019 年.

【成績評価の方法と基準】
以下の 2 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。①各回の確認テスト（50 %）、②各回の課題作文（50 %）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form で提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を増やしてほしいという要望があった。対応する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受けるための PC。表計算ソフトの Excel。

【その他の重要事項】
本授業は、事前に「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に講義を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定 3 級の内容を学んでおくとよい。その場合、各種専門学校（TAC, 大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline (in English)】
This lecture explains the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement preparers and readers.
Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.
With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.
The goals of this lecture are as follows.
(1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
(2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
(3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.
(4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.
The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)
(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

MAN500F1 － 0130

経営分析論Ⅰ

福多　裕志

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】
本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にほぼ焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。経営分析Ⅱでは、株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下における意思決定モデルを考察する。最終段階では「創出した会計情報の価値」を算出し、経済合理的意思決定のプロセスを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。そこで当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

[重要]
コロナ状況下による授業形態に関する情報を、学習支援システム上の「お知らせ」や「授業内掲示板」に掲載します。現時点での基本方針は、全授業をキャンパス内での対面授業を予定しております。不明な点は、「授業内掲示板」へお寄せください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第 2 回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第 3 回	財務諸表の枠組み：BS と IS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第 4 回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第 5 回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第 6 回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第 7 回	効率性：その 1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第 8 回	効率性：その 2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第 9 回	収益性：その 1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ ROS、ROE、ROA 等について説明
第 10 回	収益性：その 2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第 11 回	損益分岐点分析の基本	固変分解、最小二乗法
第 12 回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その 1	損益分岐点比率、安全余裕率
第 13 回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その 2	エクセル上での損益分岐点分析の展開
第 14 回	成長性および総括	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】
1) 青木茂男『要説　経営分析　五訂版』森山書店, 2016 年.
2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995 年.
3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書　その作成と分析・評価』中央経済社,　1999 年.
4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002 年.
5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994 年.
6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版 ,2012 年.
7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996 年.
8) 西山茂『企業分析シナリオ　第 2 版』東洋経済新報社, 2006 年.
9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析　全訂版』税務経理協会, 2003 年.
10) 宮川公男『新版　意思決定論　基礎とアプローチ』中央経済社, 2010 年.

【成績評価の方法と基準】
期末筆記試験 80%、発表 20%
受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】
実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】
本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。
関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅰ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅰ' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments.
[Grading criteria]
Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN500F1 － 0131

経営分析論Ⅱ

福多　裕志

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目のテーマは、いかなる組織にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、現実のデータを処理しながら着実に習得することである。

【到達目標】
本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、株価関連指標より学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。そこで当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期講義計画および株価関連指標：その 1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第 2 回	株価関連指標：その 2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第 3 回	外国企業の財務諸表分析：その 1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第 4 回	外国企業の財務諸表分析：その 2	EDGAR より米国企業の財務情報を入手し、日米企業の財務体質比較
第 5 回	総合評価：その 1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第 6 回	総合評価：その 2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第 7 回	経営分析の応用：その 1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第 8 回	経営分析の応用：その 2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察

第 9 回	経営分析の応用：その 3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 10 回	経営分析の応用：その 4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 11 回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第 12 回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第 13 回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第 14 回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】
1) 青木茂男『要説　経営分析　五訂版』森山書店, 2016 年.
2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995 年.
3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書　その作成と分析・評価』中央経済社,　1999 年.
4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002 年.
5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994 年.
6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版 ,2012 年.
7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996 年.
8) 西山茂『企業分析シナリオ　第 2 版』東洋経済新報社, 2006 年.
9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析　全訂版』税務経理協会, 2003 年.
10) 宮川公男『新版　意思決定論　基礎とアプローチ』中央経済社, 2010 年.

【成績評価の方法と基準】
期末筆記試験 80%、発表 20%
受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】
実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】
本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。
関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】
感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅱ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅰ' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis Ⅱ' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare and review for each class by solving assignments.
[Grading criteria]
Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN500F1 － 0132

財務諸表分析

髙橋　美穂子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、企業が公表する財務諸表を用いて、収益性・生産性・安全性・不確実性・成長性の側面から企業を分析する方法を学びます。授業では、はじめに財務諸表の見方を説明し、続いて企業特性を把握するための各種の財務比率の内容と具体的な計算方法を解説します。さらに、主要な財務比率が株主価値にどのような影響を与えるのか、すなわち財務比率と株主価値の理論的関係についての理解を促すため、株主価値評価モデルの基礎理論についても説明します。

【到達目標】
この授業の到達目標は、
１．企業の公表する財務諸表の見方が分かる
２．財務比率の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
３．財務比率が株主価値とどのように関連しているのかが理解できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業はオンライン（リアルタイム）と対面を隔週で実施する予定です。Zoom のリンクは学習支援システム（Hoppii）の本授業ページでお知らせしますので、履修希望者は初回授業開始前に学習支援システム（Hoppii）で授業登録を行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方，財務諸表の役割と仕組みを理解する
第 2 回	財務諸表の入手方法	財務諸表の入手方法、決算発表の仕組みを理解する
第 3 回	貸借対照表の見方	貸借対照表の見方を理解する
第 4 回	損益計算書の見方	損益計算書の見方を理解する
第 5 回	キャッシュ・フロー計算書の見方	キャッシュ・フロー計算書の見方を理解する
第 6 回	会計方針の注記	注記事項の種類と主要な注記事項の内容を理解する
第 7 回	財務諸表分析の視点と手法・収益性の分析①	財務諸表分析の視点と手法を理解する。収益性を分析するための指標や比率を理解する。
第 8 回	収益性の分析②	収益性を分析するための指標や比率を理解する。
第 9 回	生産性の分析	生産性を分析するための指標や比率を理解する。
第 10 回	安全性の分析	安全性を分析するための指標や比率を理解する。
第 11 回	成長性の分析	成長性を分析するための指標や比率を理解する。
第 12 回	株式価値評価モデル①	株式価値評価の基礎理論を理解する。
第 13 回	株式価値評価モデル②	株式価値評価の基礎理論を理解する。
第 14 回	レポートの個人発表	レポートの発表内容に基づくディスカッションとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に該当する教科書の章を読んでください。授業の後は理解を定着させるために授業内容の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
桜井久勝著，『財務諸表分析』，中央経済社，最新版.

【参考書】
指定しない。受講生からの質問に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート内容の発表（50 %）と提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（Hoppii) に接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。
レポートの作成および報告を行う際は，Word や PowerPoint などを使用してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営分析、企業価値評価
＜研究テーマ＞資産価格理論における会計情報の有用性の検討
＜主要研究業績＞
会計における割引計算－割引率と対応する将来キャッシュ・フローの検討－、同文舘出版,『会計・監査研究の展開』、第 3 章所収、p57-71、2021 年 1 月

【Outline (in English)】
In this class, students will learn how to analyze companies using financial statements. After learning how to read the financial statements, students will learn financial ratios to understand corporate characteristics. In addition, the basic stock valuation models will be explained in order to promote understanding of the theoretical relationship between financial ratios and shareholder value.
Students are required to read the relevant chapter of the textbook before class and to review the contents after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Grades will be based on presentation (50%) and submission(50%) of the term paper.

ECN500F1 － 0025

金融論

片桐　満

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースでは、前半部分（春学期）で、金融市場や金融機関の役割についての知識を身につけます。後半部分（秋学期）では、そうした金融の知識を基に、金融政策や金融規制など、金融に関わるマクロ経済政策のあり方について学び、金融やマクロ経済学に関する論文執筆を行うための基礎を築きます。

【到達目標】
金融やマクロ経済学に関する論文を独力で執筆し、自らの論文に関して、明確なプレゼンテーションと議論ができるだけの知識とスキルを身につけることが、このコースの到達目標です。
基本的に、学生自身が、金融やマクロ経済学に関する論文を執筆をすることを前提として授業を進めます。金融以外の分野を専攻し、金融に関する論文を執筆する予定のない学生の受講も歓迎しますが、それを理由に到達目標や求める課題の水準を下げることはしません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、オンデマンド方式の教材による学習と、学生による論文発表（対面授業）で構成します。春学期・秋学期とも、オンデマンド方式の授業 5 回、対面授業 9 回で行う予定ですが、変更する可能性があります。
オンデマンド方式の授業については、毎回、リアクションペーパーの提出を求めます。
論文発表については、複数人の学生に金融に関する英文の学術論文を割当て、パワーポイントによる発表資料を作成したうえで、論文について簡潔に説明してもらいます。発表者以外の学生も、全員、全ての論文を読み込んだうえで、授業中の議論に参加することが求められます。受講者数に拠りますが、2 回に 1 回程度は、発表の機会があるように論文を割り当てる予定です。最後に、金融に関する自身の論文テーマについてプロポーザルを作成してもらい、発表・議論してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	金融ｼｽﾃﾑの全体像	経済における金融の役割と金融システム全体の仕組みについて解説します。
第 2 回	論文発表①	金融システム全般に関する論文を発表してもらいます。
第 3 回	資産価格の決定理論	CAPM やファクターモデルなど、金融商品の価格決定理論を学びます。
第 4 回	論文発表②	資産価格に関する論文を発表してもらいます。
第 5 回	論文発表②（つづき）	資産価格に関する論文を発表してもらいます。
第 6 回	間接金融の役割	金融機関を介した金融仲介について、金融市場との違いを中心に学びます。
第 7 回	論文発表③	金融機関の役割に関する論文を発表してもらいます。
第 8 回	論文発表③（つづき）	金融機関の役割に関する論文を発表してもらいます。
第 9 回	企業の資本調達構造	株式や借り入れなど、企業の資金調達手段の選択について解説します。
第 10 回	論文発表④	企業の資金調達に関する論文を発表してもらいます。
第 11 回	論文発表④（つづき）	企業の資金調達に関する論文を発表してもらいます。
第 12 回	為替ﾚｰﾄの決定	為替レートを決定する要因として、購買力平価と金利平価について学びます。
第 13 回	論文発表⑤	為替レートに関する論文を発表してもらいます。
第 14 回	論文発表⑤（つづき）	為替レートに関する論文を発表してもらいます。
第 15 回	金融政策の目的	金融政策の目的と、それが経済全体で果たす役割について学びます。
第 16 回	金融調節と短期金融市場	伝統的な金融政策の基本となる金融調節と短期金融市場について学びます。
第 17 回	金融政策の波及ﾒｶﾆｽﾞﾑ	短期金利の変更が、実体経済やインフレ率に影響する仕組みを学びます。
第 18 回	金融政策運営の実務	金融政策がどの様に決定されているか（されるべきか）を学びます。
第 19 回	論文発表⑥	金融政策に関する論文を発表してもらいます。
第 20 回	論文発表⑥（つづき）	金融政策に関する論文を発表してもらいます。
第 21 回	為替市場と通貨危機	為替介入や通貨危機の原因・帰結について学びます。
第 22 回	論文発表⑦	為替政策に関する論文を発表してもらいます。
第 23 回	論文発表⑦（つづき）	為替政策に関する論文を発表してもらいます。
第 24 回	金融危機の発生と影響	金融危機の発生メカニズムとその影響について学びます。
第 25 回	論文発表⑧	金融危機に関する論文を発表してもらいます。
第 26 回	論文発表⑧（つづき）	金融危機に関する論文を発表してもらいます。
第 27 回	プロポーザル発表①	金融に関する自身の論文について、プロポーザルを発表・議論してもらいます。
第 28 回	プロポーザル発表②	金融に関する自身の論文について、プロポーザルを発表・議論してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。予習では、自身が割り当てられた論文発表の準備のほか、他の受講者が発表する論文についても、事前に読み込んでおくことが期待されます。復習では、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。発表してもらう論文は授業中に指定します。

【参考書】
参考文献として、以下の教科書を参照します。
・内田浩史「金融」（有斐閣）
・ブリーリー他「コーポレート・ファイナンス 第 10 版（上）」（日経 BP）
・小林照義「金融政策（ベーシック＋）」（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末レポート（50 %）と論文発表（50 %）に基づいて決定します。期末レポートは、作成してもらった研究プロポーザルに基づき、短い論文形式のものを提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
論文発表による双方向の学習の方が、論文執筆を行う上で得るものが大きいと感じたため、昨年度対比で、オンデマンド方式によるレクチャーの比率を下げました。

【学生が準備すべき機器他】
教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】
日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に 15 年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

【関連科目】
マクロ経済学、ミクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必修ではありません。

【Outline (in English)】
In this class, students study financial economics such as the role of financial markets and financial institutions in the spring term, and then learn about public policy including monetary policy and financial regulations in the fall term. The goal of this course is to acquire basic knowledge of financial economics and macroeconomics for writing an academic paper. The grades are based on (1) the final report (50%) (2) the presentation (50%). Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

ECN500F1 － 0133

ファイナンス入門

岸本　直樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，ファイナンスの入門的な内容を講義します。一部の学生にとってこの授業の内容は馴染みがないものかもしれません。しかし，ファイナンスで学ぶ金融取引や証券投資の知識は，社会に出る皆さんにとって必須です。なぜならば，ひとつには，金融機関あるいは企業の財務部門においてファイナンスの理論が必須だからです。また，個人としても，債券，株式，投資信託等への投資のほか，年金運用のための投資にファイナンスの知識が欠かせないからです。本講義で皆さんは，金融取引や証券市場の仕組み，将来価値と現在価値の概念と計算方法，債券および株式に関する初歩的な分析手法を学びます。さらに，デリバティブ取引についても初歩的な部分を学習します。

【到達目標】
受講者は次に挙げた知識や技術を学びます。
①金融・証券の基礎知識に基づき，金融に関連するニュースを正しく理解できる。
②利子率や将来価値，現在価値の概念を理解し，それらに関する基本的な計算ができる。
③債券の仕組みを理解し，利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
④株式の仕組みを理解し，配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
⑤主要なデリバティブである先渡取引と先物取引，さらにオプションの基本的な仕組みと初歩的な利用方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式です。黒板に板書することがあるので，必要に応じてノートをとってください。また，授業中にパソコン上で Excel を使った計算を説明します。したがって，Excel がインストールされたパソコンを持参するか，大学から借りてください。もちろん，Excel はタブレットやスマートフォンでも利用できますので，パソコンの代わりにタブレットかスマートフォンを持参するのも可です。ただし，タブレットやスマートフォン上における Excel の操作は，パソコンのそれと，若干異なるようですが，時間の制約があるため，授業では，それらの点についてまでは説明できません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションおよび金融・証券市場の概観	授業の進め方や成績評価方法などの説明をする。さらに，金融市場を概観する。
2	利子率，将来価値，現在価値（1）	将来価値，現在価値の計算ほか，複利と単利の違いを学習する。
3	利子率，将来価値，現在価値（2）	将来価値，現在価値の計算をキャッシュフローが複数ある場合に拡張する。
4	債券市場と債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語を学習する。また，債券市場を概観する。
5	債券入門（2）	最終利回りを学習する。
6	債券入門（3）	債券投資のリスクを学習する。
7	債券入門（4）	債券投資の方法を学習する。
8	株式市場の概観および株式入門（1）	株式市場を概観した後，株式の基本的な仕組みと用語を学習する。
9	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標を学習する。
10	株式入門（3）	株式投資のリスクとリターンを学習する。
11	デリバティブ入門（1）	先渡取引と先物取引の仕組みのほか，これらの取引の利用方法を学習する。
12	デリバティブ入門（2）	オプションの仕組みや初歩的なオプションの利用方法を学習する。
13	効率的市場仮説と資産の評価方法の概観	効率的市場仮説を学習した後に，資産の価格付けを概観する。
14	期末テスト	この科目で学習した内容全般についてテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかり行ってください。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，2019 年，有斐閣。

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
期末テストが対面で実施できる場合は、期末テストが 70%，授業で実施するクイズと授業参加が 30%のウィエトを占める。他方、期末テストが対面で実施できない場合は、期末テストに代わるものが 50%、授業で実施する小テストと授業参加が 50%のウィエトを占める。

【学生の意見等からの気づき】
今年度，初めて開講される科目なので，過去の意見がない。

【学生が準備すべき機器他】
Excel がインストールされたパソコン，あるいは，タブレット，スマートフォンを用意してください。

【その他の重要事項】
授業中は私語等を控え，講義に集中してください。なお，担当教員は，博士課程に入学する前に，東京およびニューヨークにおいて日系証券会社の調査部門で日米の証券市場の調査に従事した。

【関連科目】
夜間コースのファイナンス基礎，コーポレート・ファイナンス，経営学部のポートフォリオ理論入門，デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ。

【Outline (in English)】
Outline: This course provides an introduction to finance. Its content may be unfamiliar to some students. However, the knowledge taught in this course is essential for those who will enter the workforce. This is because, for one thing, finance theory is essential for financial institutions and corporate finance departments. In addition, the knowledge of finance is essential for individuals to invest in bonds, stocks, mutual funds, and pension funds. In this course, you will learn the basics of financial transactions and securities markets, the concepts and calculation methods of future value and present value, and elementary analysis for bonds and stocks. In addition, you will learn the rudiments of derivatives trading.
Objectives: Students will learn the following knowledge and skills.
(1) To be able to understand financial news properly based on essential knowledge of financial markets and securities.
(2) Concepts of interest rates, future value, and the basic calculations related to these concepts.
(3) Institutional knowledge of bonds, yields, and elementary analysis of bonds.
(4) Institutional knowledge of stocks and elementary analysis of stocks based on dividend discount model.
(5) The basic institutional knowledge of forwards/futures contracts and options
Learning activities outside of classroom: Students are expected to read the designated sections of the textbook before class and review the contents covered in class after class. The standard preparation and review time for each class is 2 hours.

Grading Criteria: If the final exam can be given face-to-face, the final exam will account for 70% of the grade, and quizzes and class participation will account for 30% of the grade. On the other hand, if the final exam cannot be given face-to-face, the alternative to the final exam will account for 50%, and the class quiz and class participation will account for 50%.

ECN500F1 － 0134

ポートフォリオ理論入門

岸本　直樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融資産は、多くの学生にとってはまだ馴染みが薄いでしょうが、卒業後、確定拠出年金等への投資を通じて関係せざるを得なくなるでしょう。「ポートフォリオ理論入門」の前半では，投資に当たって，投資対象である資産のどの点に注目し，どのような方法で意思決定すればよいのかについて，よく知られているアプローチを学習します。次に，ポートフォリオ理論の後半では，CAPM と呼ばれるモデルを使って，種々の資産の間に成立していると考えられるリスクとリターンの関係を学習します。

【到達目標】
「ポートフォリオ理論入門」では，ひとつには，資金をどのように資産に配分するかという問題についてよく知られているアプローチ（ポートフォリオ理論）を学習します。また，CAPM と呼ばれる，資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。具体的には、次の点を達成することを目標とします。
①資産に投資した結果得られる収益率について期待値、標準偏差、共分散、さらに、相関係数を計算できる。
②ポートフォリオ理論の概要を理解し，第三者に説明できる。
③資産のリスクとリターンの関係を資本資産評価モデル (CAPM) に沿って説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。また、学期中に複数回，授業内小テスト（クイズ）を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	収益率の期待値	収益率，確率変数，期待値を説明した後、期待値の計算方法を学習します。
2	収益率の分散と標準偏差	収益率の分散と標準偏差の計算方法を学習します。
3	共分散	異なる資産の収益率の同方向あるいは逆方向の変動の特徴を捉える共分散について概観し，計算方法を学びます。
4	共分散と相関係数	共分散のほか、相関係数について学習します。
5	ポートフォリオ理論（1）	投資家が投資資金を各資産にどのように配分するのがよいかという問題について、マーコウィッツが提唱した方法 (ポートフォリオ理論と呼ばれる) を概観します。また、ポートフォリオ理論の仮定を学習します。
6	ポートフォリオ理論（2）	ポートフォリオの収益率の期待値を計算する公式を学習します。
7	ポートフォリオ理論（3）	ポートフォリオの収益率標準偏差を計算する公式を学習します。
8	ポートフォリオ理論（4）	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習します。

9	ポートフォリオ理論（5）	安全資産が存在する場合について投資機会集合を学習します。
10	ポートフォリオ理論（6）	ポートフォリオの最適化について学習します。
11	ポートフォリオ理論（7）	ポートフォリオ理論の応用とメッセージを概観します。
12	資本資産評価モデル（1）	投資家は資産のリスクが高ければより高い期待収益率を要求するだろうとの直観を、一定の仮定の下で妥当とする資本資産評価モデルを概観します。またその仮定も学習します。
13	資本資産評価モデル（2）	市場ポートフォリオとベータについて学習します。
14	資本資産評価モデル（3）	資本資産評価モデルの導出について学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の予習及び復習。本授業の準備学習・復習時間は、1 回の授業ごとに 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著,『入門・証券投資論』, 有斐閣

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
期末テストが対面で実施できる場合は、期末テストが 70%, 授業で実施する小テストと授業参加が 30%のウィエトを占める。他方、期末テストが対面で実施できない場合は、期末テストに代わるものが 50%、授業で実施する小テストと授業参加が 50%のウィエトを占める。

【学生の意見等からの気づき】
より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
〔予備知識〕
　授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。
〔注意事項〕
　この科目を履修する前に「ファイナンス入門」を履修することを強く勧めます。また, 統計学の科目を履修することも強く勧めます。
　なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、適切に注意し、場合によっては教室から退室して貰ったり、授業評価に反映することがあります。

【関連科目】
ファイナンス入門、統計学の科目

【Outline (in English)】
Course outline: Not many students are familiar with financial assets, yet they will face situations where they have to make decisions regarding investments through defined contributions and etc. In this course, students learn an approach that helps them to understand what to look at and how to decide on when they make investment decisions. Next, students study the relationship that is expected to hold between risk and return on various assets through what is called the CAPM.
Learning objectives: In Introduction to Portfolio Theory, students will learn about the well-known approach to the problem of how to allocate funds among assets (portfolio theory). In addition, students will learn a theoretical model of risk and return on assets, called the CAPM. Specifically, the course aims to achieve the following objectives.
(1) To be able to calculate the expected value and the standard deviation of the rate of return on an asset, as well as covariance and correlation coefficient between the rates of return on a pair of assets.
(2) To understand the portfolio theory and to be able to explain it to a third party.
(3) To be able to explain the relationship between risk and return of assets in accordance with the Capital Asset Pricing Model (CAPM).
Learning activities outside of classroom: Self-study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on it for each class.
Grading criteria/policy: If the final exam is given face-to-face, the final exam will account for 70% of the grade, and quizzes and class participation will account for 30% of the grade. On the other hand, if the final exam cannot be given face-to-face, the final exam will account for 50%, and the in-class quiz and class participation will account for 50%.

ECN500F1 － 0135

デリバティブ入門Ⅰ

山嵜　輝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
②先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
④金融市場の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第２回	金融・証券市場の基礎知識（１）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第３回	金融・証券市場の基礎知識（２）	デリバティブ市場の概説
第４回	キャッシュフローと現在価値（１）	将来価値と現在価値の概念
第５回	キャッシュフローと現在価値（２）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第６回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第７回	先渡取引（１）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第８回	先渡取引（２）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第９回	先物取引（１）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引（２）	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係（１）	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係（２）	スポットレート、パーレート、LIBOR
第13回	先渡取引（３）	FRA とその活用方法
第14回	先渡取引（４）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】
①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
②フィナンシャル・バンク・インスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2020 - 2021 年版』、2020 年、日本経済新聞出版社
③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2020 年、ビジネス教育出版社
④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】
学期末に行う定期試験（80 %）と授業期間内の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」などに関連しています。

【関連科目】
基礎ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、実証ファイナンス入門

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN500F1 － 0136

デリバティブ入門Ⅱ

山嵜　輝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
②スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
④金融市場の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第２回	デリバティブ入門Ⅰの復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第３回	スワップ取引（１）	IRS とその活用方法
第４回	スワップ取引（２）	通貨スワップとその活用方法
第５回	スワップ取引（３）	スワップレートの決定理論
第６回	オプション取引（１）	コールとプット、プット・コール・パリティ
第７回	オプション取引（２）	オプションの活用方法
第８回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第９回	オプション価格理論（１）	１期間２項モデルによるオプション価格の算出
第10回	オプション価格理論（２）	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第11回	オプション価格理論（３）	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第12回	オプション価格理論（４）	２期間２項モデルによるオプション価格の算出
第13回	オプション価格理論（５）	動的複製ポートフォリオとデルタ
第14回	オプション価格理論（６）	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】
①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
②フィナンシャル・バンク・インスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2019 - 2020 年版』、2019 年、日本経済新聞出版社
③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】
学期末に行う定期試験（80 %）と授業期間内の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」などに関連しています。

【関連科目】
基礎ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、実証ファイナンス入門

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN500F1 － 0137

国際経済学Ⅰ

髙橋　理香

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、国際取引の実態やルールのあり方が大きく変わろうとしています。ニュースを読んでも、例えば、米中の貿易紛争はどのような方向に進んでいるのか、世界や日本の取引のあり方がどう変わろうとしているのか、そもそも日本はこれまで他国とどのような国際的な取引を展開してきたのか、を正しく理解している人は少ないのではないでしょうか。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本や世界でどのような国際的な取引が行われ、そのような取引によって日本や世界の経済がどのように変化してきたのかを理解します。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際経済システムについて、理論的・歴史的な解説を行った上で、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】

この授業を通して、現実の国際経済にまつわる出来事に関心を持ち、現代の複雑な国際経済のメカニズムを論理的に分析することで、日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察できることを目標とします。またこれらの考察によって、国際的な観点から現代社会について体系的に分析・理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の講義ノートを予め配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開していきます。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の答え合わせなどを行うこともあります。本授業は、各回の授業動画をオンラインで配信して進めていく予定です。また、学習支援システムの掲示板を通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。
※修士課程の学生には、適宜問題演習の機会を設けます。詳細は初回の授業で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	データで学ぶ日本の貿易と国際収支
2	貿易と市場 1	貿易市場のメカニズム（需要・供給分析）
3	貿易と市場 2	貿易市場の資源配分（余剰分析）
4	貿易と市場 3	貿易による利益と市場競争
5	日本の比較優位と貿易 1	データで学ぶ国際分業と日本の比較優位
6	日本の比較優位と貿易 2	技術格差と貿易パターン
7	日本の比較優位と貿易 3	生産要素の賦存量と貿易パターン
8	新しい貿易理論と日本の貿易 1	伝統的貿易理論と新しい貿易理論の違い
9	新しい貿易理論と日本の貿易 2	製品差別化・規模の経済と日本の自動車の貿易
10	新しい貿易理論と日本の貿易 3	生産工程の細分化・規模の経済と機械製品の貿易
11	新しい貿易理論と日本の貿易 4	企業の生産性の違いと貿易
12	生産要素の国際間移動 1	海外直接投資と日本の経済
13	生産要素の国際間移動 2	外国人労働の受け入れと日本の経済
14	まとめ	春学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

また、本授業は、経営学部とのコードシェア科目であり、学部授業はオンデマンド配信ですが、修士課程の学生の皆さんとは、木曜日 1 時限目に問題演習のディスカッションを行う場合があります。詳細は、第 1 回目の授業の際にお知らせします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか 1 冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第 1 回の授業で説明します。

【参考書】

阿部顕三『貿易自由化の理念と現実』NTT 出版、2015 年。
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ　第 2 版』有斐閣、2013 年。
清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉- 』慶應義塾大学出版会、2016 年。
清田耕造・神事直人『実証から学ぶ国際経済』有斐閣、2017 年。
小林友彦ほか『WTO・FTA 法入門- グローバル経済のルールを学ぶ』法律文化社、2016 年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と 21 世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015 年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100 項目」　第 4 版』創成社、2018 年。
友原章典『理論と実証から学ぶ　新しい国際経済学』ミネルヴァ書房、2018 年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第 10 版〕上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017 年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2014) *International Economics: Theory and Policy,* 10th edition, Pearson.

【成績評価の方法と基準】

宿題・問題演習： 60 %
期末テスト： 40 %
宿題・問題演習・テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】

現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

① ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。
② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。ミクロ経済学の授業を履修するか自習することを勧めます。
③ 日本経済論・国際金融論・産業組織論と関連していますので、併せて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】

The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus how such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be expected to:
(1)Understand key trade models.
(2)Understand key concepts with respect to trade.
(3)Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
(4)Solve problem sets.
(5)Read newspaper articles written in English.
【Learning activities outside of classroon】
Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Office hours may occasionally be held for master students during the first period of Thursday.
【Grading Criteria】
Homework and Exercises: 60 %
Final Examination: 40%

ECN500F1 － 0138

国際経済学Ⅱ

髙橋　理香

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、国際取引の実態やルールのあり方が大きく変わろうとしています。ニュースを読んでも、例えば、米中の貿易紛争はどのような方向に進んでいるのか、世界や日本の取引のあり方がどう変わろうとしているのか、そもそも日本はこれまで他国とどのような国際的な取引を展開してきたのか、を正しく理解している人は少ないのではないでしょうか。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本や世界でどのような国際的な取引が行われ、そのような取引によって日本や世界の経済がどのように変化してきたのかを理解します。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際経済システムについて、理論的・歴史的な解説を行った上で、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】
この授業を通して、現実の国際経済にまつわる出来事に関心を持ち、現代の複雑な国際経済のメカニズムを論理的に分析することで、日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察できることを目標とします。またこれらの考察によって、国際的な観点から現代社会について体系的に分析・理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各回の講義ノートを予め配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開していきます。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の答え合わせなどを行うこともあります。本授業は、各回の授業動画をオンラインで配信して進めていく予定です。また、学習支援システムの掲示板を通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。
※修士課程の学生には、適宜問題演習の機会を設けます。詳細は初回の授業で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	データで学ぶ日本の貿易政策
2	日米貿易摩擦と日本の貿易政策の変遷	歴史的観点から学ぶ日本の貿易政策
3	関税政策 1	関税政策の理論
4	関税政策 2	日本と外国の関税政策の実態
5	非関税障壁 1	輸入数量制限と日本の農業
6	非関税障壁 2	輸出自主規制と日本の自動車産業
7	国内不完全競争政策 1	国内不完全競争政策と日本の流通市場
8	国内不完全競争政策 2	国内不完全競争政策と関税政策の比較
9	戦略的貿易政策	戦略的相互依存関係と世界の航空産業
10	ダンピング 1	ダンピングの不当性
11	ダンピング 2	日米関係におけるアンチダンピング政策

12	国際経済システム 1	多角間交渉（GATT/WTO）
13	国際経済システム 2	地域経済統合（RTA, TPP, RCEP)
14	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

また、本授業は、経営学部とのコードシェア科目であり、学部授業はオンデマンド配信授業ですが、修士課程の学生の皆さんとは、木曜日 1 時限目に問題演習のディスカッションを行う場合があります。詳細は、第 1 回目の授業の際にお知らせします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか 1 冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第 1 回の授業で説明します。

【参考書】

阿部顕三『貿易自由化の理念と現実』NTT 出版、2015 年。
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ　第 2 版』有斐閣、2013 年。
清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉- 』慶應義塾大学出版会、2016 年。
清田耕造・神事直人『実証から学ぶ国際経済』有斐閣、2017 年。
小林友彦ほか『WTO・FTA 法入門- グローバル経済のルールを学ぶ』法律文化社、2016 年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と 21 世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015 年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100 項目」　第 4 版』創成社、2018 年。
友原章典『理論と実証から学ぶ　新しい国際経済学』ミネルヴァ書房、2018 年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第 10 版〕上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017 年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2014) *International Economics: Theory and Policy,* 10th edition, Pearson.

【成績評価の方法と基準】

宿題・問題演習： 60 %
期末テスト： 40 %
宿題・レポート・テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】

現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

① ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。
② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。経済学入門やミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱを履修していない人は、本授業と同時並行で履修するか自習することを勧めます。
③ 経済学入門・日本経済論・国際金融論・産業組織論と関連していますので、卒業までに併せて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus how such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be expected to:
(1)Understand key trade models.
(2)Understand key concepts with respect to trade.
(3)Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
(4)Solve problem sets.
(5)Read newspaper articles written in English.
【Learning activities outside of classroon】
Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Office hours may occasionally be held for master students during the first period of Thursday.
【Grading Criteria】
Homework and Exercises: 60 %
Final Examination: 40%

ECN500F1 － 0028

国際金融論特論

横内　正雄

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代はグローバリゼーションが進展し、金融化現象（金融グローバル化）が世界経済に大きな影響を与えてきている。本講義では、グローバリゼーション下の国際金融の問題を理論、制度、歴史、政策の側面から多面的にとらえ、分析を試みるものである。

【到達目標】

現在生じている様々な国際金融の現象について、その理論的背景とともに、歴史や制度について理解することを目標とする。これによって、経営学・経済学を学ぶ大学院生が、現代の国際金融の問題について理解を深めるとともに、歴史的な流れの中で現在の問題を捉えることができるようになればよいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義は、対面での講義を基本とする。場合によっては一部にオンライン（オンデマンド）での講義を行うこともある。パワーポイントを使った講義で、資料や講義ノートは事前に授業支援システムにアップロードされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	外国為替相場 (1)	外国為替相場の概説
第 2 回	外国為替相場 (2)	外国為替相場に関する基本問題と応用問題を解く
第 3 回	国際収支 (1)	国際収支に関する概説
第 4 回	国際収支 (2)	国際収支に関する基本問題と応用問題を解く
第 5 回	金利平価 (1)	金利平価の理論の概説
第 6 回	金利平価 (2)	金利平価に関する基本問題と応用問題を解く
第 7 回	外国為替相場の理論Ⅰ (1)	外国為替相場の決定に関する古典理論
第 8 回	外国為替相の理論Ⅰ (2)	外国為替相場の古典理論に関する文献講読
第 9 回	外国為替相場の理論Ⅱ (1)	外国為替相場の決定に関する近代理論
第 10 回	外国為替相場の理論Ⅱ (2)	外国為替相場の近代理論に関する文献講読
第 11 回	国際収支の理論Ⅰ (1)	国際収支に関する弾力性アプローチ
第 12 回	国際収支の理論Ⅰ (2)	弾力性アプローチに関する文献講読
第 13 回	国際収支の理論Ⅱ (1)	国際収支に関する貯蓄投資バランスアプローチ
第 14 回	国際収支の理論Ⅱ (2)	貯蓄投資バランスアプローチに関する文献講読
第 15 回	国際金融とマクロ経済政策 (1)	マンデル＝フレミング＝モデル
第 16 回	国際金融とマクロ経済政策 (2)	マンデル＝フレミング＝モデルに関する文献講読
第 17 回	固定為替相場制度 (1)	固定為替相場制度の理論と歴史
第 18 回	固定為替相場制度 (2)	ブレトンウッズ体制に関する文献講読
第 19 回	変動為替相場制度 (1)	変動為替相場制度の理論と為替相場制度の分類
第 20 回	変動為替相場制度 (2)	変動為替相場制度に関する文献講読
第 21 回	為替リスクとその管理 (1)	為替リスクの管理手法
第 22 回	為替リスクとその管理 (2)	為替リスクの管理にするケースの講読
第 23 回	国際通貨 (1)	国際通貨の理論
第 24 回	国際通貨 (2)	国際通貨の理論に関する文献講読
第 25 回	通貨危機 (1)	通貨危機の理論
第 26 回	通貨危機 (2)	アジア通貨危機に関する文献講読
第 27 回	通貨統合 (1)	最適通貨圏の理論
第 28 回	通貨統合 (2)	ＥＵ通貨統合に関する文献講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。事前の準備として横内正雄『国際金融論Ⅰ』（通教テキスト）を事前に読みんで講義に参加することが望まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない. 担当教員が作成した印刷物（レジュメ、資料等）を配付する。

【参考書】

· M.Melvin and S.C.Norrbin, *International Money and Finance*, 8th Edition, Elsevier, 2013.
· P.R.Krugman and M.Obstfeld, *International Economics : Theory and Policy*,10th Edition, Pearson Education, 2014.
· 小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016 年.
· 高木信二『入門 国際金融』[第４版] 日本評論社、2011 年.
· 横内正雄『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020 年.

【成績評価の方法と基準】

レポートに加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

一般に国際金融論は難解であるとの感想が寄せられることが多い。本講義は出来るだけ平易に国際金融の理論等を解説したいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

特にない。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
国際金融・金融史
＜研究テーマ＞
国際銀行の歴史的研究
＜主要研究業績＞
·「グローバリゼーションと国際通貨ドル」·「国際資本移動とアジア通貨危機」SGCIME 編『グローバル資本主義と世界編成・国民国家システム：Ⅰ世界経済の構造と動態』 御茶の水書房 2003 年
·「1990 年代の香港金融市場における邦銀」 法政大学経営学会『経営志林』第 40 巻第 1 号, 2003 年

【Outline (in English)】

In the modern world, globalization has progressed, and the phenomenon of financialization (financial globalization) has had a major impact on the world economy. This lecture attempts to analyze global financial issues under globalization from a theoretical, institutional, historical, and policy perspective. Through this lecture, students will be able to understand the nature of ongoing financial globalization. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students are expected to read Masao Yokouchi's "International Finance I" in advance and participate in the lecture. Grades will be based on a comprehensive evaluation, taking into account the degree of participation and contribution during the class, in addition to reports.

ECN500F1 － 0031

産業組織論

大木　良子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業組織論では、ミクロ経済学とゲーム理論を用いて、企業行動や企業間のインタラクションを分析する。ミクロ経済学で最初に学習する「完全競争」の概念から離れ、より現実的で複雑な市場における競争を分析し、それらが消費者や経済全体に与える影響を明らかにする。加えて、理論的な分析から市場の競争に対する政策（競争政策）への示唆を導く。
Google や Amazon、Yahoo!や楽天などのプラットフォーム企業が関連する市場を事例としてとりあげて、産業組織論の各トピックの理論の分析結果と現実との一致や相違点を参加者で議論し、経営学など隣接分野への応用可能性について考える。

【到達目標】
1. 産業組織論の理論的基礎を体系的に理解する。またその知識を活用して応用的な文献を理解できるようになる。
2. 学んだ理論を使って、現実の企業の行動（特に、プラットフォーム企業）を自らの言葉で説明し、経済学的な視点で評価することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
産業組織論の各トピックに対応する現実の事例（主に、プラットフォーム企業に関連するなるべく新しい事例）について、理論の分析結果と現実との一致や相違点をレクチャーで解説したり、受講生による報告や質疑応答によって議論することで、産業組織論の考え方と経営学など隣接分野とのリンクをはかる。
講義の進め方としては、教員がレクチャーを行った後、そのトピックに関連する専門書を輪読する。報告者は、レジュメを作成し、要点を整理する。報告者以外は、予習の上、報告者への質問を考え教員に提出する。また、報告で用いた文献の理解度を確認するために、教員から受講者に質問をする。報告では、要点を整理する力と理論的結論を解釈する力を評価する。またレポート課題により問題を解くことによる理論の習熟度を確認する。提出された受講生のレポートについて、各学期最終回の授業でフィードバックを行い、議論のポイントや間違いやすい点について共有する。
原則は教室での対面講義を予定しているが、状況に応じてオンラインでの講義動画配信・Zoom 等を用いたリアルタイム講義なども組み合わせて実施する。詳細は学習支援システムで確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	独占市場レクチャー 1	独占市場の経済理論について概略を説明する。経済学初学者に向けた基本的な用語解説、文献紹介を行う。
第 2 回	価格差別レクチャー 1	企業が用いる価格差別の手法の紹介
第 3 回	価格差別レクチャー 2	現実の価格差別事例を経済理論で分析する。それぞれの価格差別が競争に与える影響を考える。
第 4 回	独占市場に関するテキストの輪読 1	参加者によるテキスト 0 章の報告。独占的プラットフォーム企業と競争政策についてのディスカッション。
第 5 回	独占市場に関するテキストの輪読 2	参加者によるテキスト 1 章の報告、独占的プラットフォーム企業と競争政策についてのディスカッション。
第 6 回	価格差別に関するテキストの輪読 1	参加者によるテキスト 2 章前半の報告
第 7 回	価格差別に関するテキストの輪読 2	参加者によるテキスト 2 章後半の報告、プラットフォーム企業の抱き合わせ販売に関するディスカッション
第 8 回	寡占市場レクチャー 2	寡占市場の具体例：数量競争・価格競争 ゲーム理論の基礎：戦略とは、ナッシュ均衡とは？
第 9 回	寡占市場レクチャー 3	同質財のクールノー競争・ベルトラン競争の均衡分析 クールノー競争とベルトラン競争の比較
第 10 回	寡占市場に関するテキストの輪読 1	参加者によるテキスト 4 章前半の報告。
第 11 回	寡占市場に関するテキストの輪読 2	参加者によるテキスト 4 章後半の報告、プラットフォーム企業の垂直的関係に関するディスカッション。
第 12 回	寡占市場に関するテキストの輪読 3	参加者によるテキスト 5 章の報告、プラットフォーム企業の垂直的関係に関するディスカッション。
第 13 回	プラットフォーム企業の事例研究	これまでに学んだ内容について、具体的な競争政策上問題になったプラットフォーム企業の事例を用いて分析する。
第 14 回	レポート課題の解説	レポート課題を提出後その内容について解説する。
第 15 回	垂直的取引制限レクチャー 1	垂直的な取引関係と垂直的取引制限の具体的な事例
第 16 回	垂直的取引制限レクチャー 2	なぜ企業は垂直的取引制限を用いるのか。市場競争に与える影響。
第 17 回	垂直的取引制限に関するテキストの輪読	参加者によるテキスト 3 章前半の報告。プラットフォーム企業による垂直的取引制限に関するディスカッション。
第 18 回	垂直的取引制限に関するテキストの輪読	参加者によるテキスト 3 章後半の報告。プラットフォーム企業による垂直的取引制限に関するディスカッション。
第 19 回	製品差別化レクチャー	製品差別化と市場支配力 立地モデルによる製品差別化の分析
第 20 回	製品差別化に関するテキストの輪読 1	参加者によるテキスト 6 章前半の報告。
第 21 回	製品差別化に関するテキストの輪読 2	参加者によるテキスト 6 章後半の報告。
第 22 回	カルテルレクチャー	カルテルの具体的な摘発例 カルテルの経済モデルによる分析
第 23 回	カルテルに関するテキストの輪読 1	参加者によるテキスト 7 章前半の報告、プラットフォーム企業によるカルテルに関するディスカッション
第 24 回	カルテルに関するテキストの輪読 2	参加者によるテキスト 7 章後半の報告、プラットフォーム企業によるカルテルに関するディスカッション。
第 25 回	ネットワーク効果に関するレクチャー	・ネットワーク外部性とはなにか ・ネットワーク外部性がある市場の具体的な例と特徴的な企業戦略とは？ ・プラットフォームと競争政策：最近の動向

第 26 回	ネットワーク効果に関するテキスト輪読	参加者によるテキスト 11 章の報告、プラットフォーム企業による多面的プライシングに関するディスカッション
第 27 回	プラットフォーム企業の事例研究	これまでに学んだ内容について、具体的な競争政策上問題になったプラットフォーム企業の事例を用いて分析する。
第 28 回	レポート課題の解説	レポート課題を提出後その内容について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
レクチャー部分については、レポート課題を念頭に、授業後の復習が必要です。
輪読部分については、予習をし、報告者はレジュメを用意、報告者以外は質問を準備し、授業中の活発な議論に役立ててください。各受講生には、レポート課題に加え、年間 4 回程度のプレゼンテーションを求めます。

【テキスト（教科書）】
花薗誠（2018）「産業組織とビジネスの経済学」有斐閣を指定します。

【参考書】
レクチャー部分の参考文献として、以下を中心に適宜紹介します。
The Economics of Platforms by Belleflamme and Peitz (2021) Cambridge University Press（受講生の関心がこちらの書籍のほうに強くあれば、本書の一部を輪読する可能性があります）
小田切宏之（2019）「産業組織論」有斐閣
小田切宏之（2001）「新しい産業組織論」有斐閣
柳川隆・川浜昇編（2006）「競争の戦略と政策」有斐閣
小田切宏之　（2008）「競争政策論」日本評論社
小田切宏之　（2016）「イノベーション時代の競争政策」有斐閣
小田切宏之　（2010）「企業経済学」東洋経済新報社
岡田羊祐・川濱昇・林秀弥（2017）「独禁法審判決の法と経済学: 事例で読み解く日本の競争政策」東京大学出版会
岡田羊祐・林秀弥　（2009）「独占禁止法の経済学」東京大学出版会
Belleflamme, P. and M. Peitz　(2015) Industrial Organization: Markets and Strategies 2nd edition, Cambridge University Press
Motta, M.　(2004) Competition Policy, Cambr」idge University Press

【成績評価の方法と基準】
成績評価は以下の基準で決めます。
輪読時の報告 40 %
授業内における質問・討論への参加 30 %
レポート課題（持ち帰り試験）の評価 30 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルに合わせ、輪読テキストの選択やレクチャーの難易度を調整していきます。また受講生の関心にあわせて、プラットフォーム企業やそれを取り巻く競争政策上の論点について、より焦点をあてた授業構成にすることも考えています。初回の授業で、受講生のミクロ経済学、産業組織論に関する知識のレベル、また関心について調査し、2 回目以降の学習内容の重点を確定します。

【学生が準備すべき機器他】
インターネット環境及びパソコン等の通信機器を必要とします。

【その他の重要事項】
大学学部レベルのミクロ経済学について基本的な知識を既に習得していることを受講の前提とします。
近年注目を集めているプラットフォーム企業に関連する事例をなるべく多く取り上げます。関連する主要なニュース等に日頃から関心を持って情報を収集してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業組織論
＜研究テーマ＞
競争政策の経済分析
＜主要研究業績＞
Exclusive Content in Two-sided Markets, Journal of Economics and Management Strategy, 2021(with Akifumi Ishihara)

【Outline (in English)】
The course provides a graduate level introduction to the theoretical Industrial Organization. Students will learn firms' behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. For example, the pricing and marketing strategies of individual firms; the interactions between firms and anti-competitive issues. This course consists of lectures and presentations by students. Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated based on term-end take-home exam(30%), presentations (40%) and in class contribution (30%).

ECN500F1 － 0139

日本経済特論Ⅰ

平田　英明

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「（良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「（悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19 の経済への影響は？ トランプ政権下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answer(s)"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

今年度は全てオンデマンドで実施の予定です（パワーポイントのスライドに書き込みをしながら、説明を加える方式。適宜、黒板書き込みもあり）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など）。皆さんの意見も踏まえ今年度も実施予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	日本経済をなぜ学ぶのか	授業計画の紹介と日本経済の基本的特徴の説明をします
2	日本経済を丸ごとつかむ 1	マクロ経済学的な視点から日本経済を歴史的に概観します
3	日本経済を丸ごとつかむ 2	マクロ経済学的な視点から日本経済の最近の状況を概観します
4	マーケットをつかむ	需要と供給の基本的な仕組み、マーケットの役割を学びます
5	わが国の企業活動をつかむ 1	働くことのビジネス・経済的な視点からの意味を理解します
6	わが国の企業活動をつかむ 2	企業のグローバル化，IT 化と日本の企業システムの変化の動向を理解します
7	わが国の労働市場をつかむ 1	労働者として働くことのビジネス・経済的な視点からの意味を理解し、労働市場の見方を学びます
8	わが国の労働市場をつかむ 2	日本の雇用システムの歴史的な変化について学びます
9	わが国の労働市場をつかむ 3	若年労働、女性労働、高齢者労働の特徴を理解します
10	政府の役割をつかむ 1	政府の日本経済の中での位置づけを理解し、予算の仕組みを理解します
11	政府の役割をつかむ 2	財政赤字問題について理解します
12	カネは天下をめぐる－マネーとは何かをつかむ 1	日本経済における金融の役割の基本を理解します
13	カネは天下をめぐる－マネーとは何かをつかむ 2	各経済主体の経済活動と金融の関係＋金融に関係する経済政策について理解します
14	春学期の復習	春学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『入門・日本経済』(有斐閣、2020) を必ず購入してください。旧版ではなく最新版の第６版を購入してください（中身がかなり異なります）。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題によって評価を行います

中間レポート課題（２回）　３０％ × ２

期末レポート課題（１回）　４０％

更に講演に関するレポート等については加点をする場合があります。なお、同時聴講する学部生は試験方式で評価を行うので、そちらと混同しないようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

学部生も聴講するクラスのため、授業内では学部生向けの試験方法を説明することがありますが、院生はレポート形式の試験を望むことが多いため、学部生試験とは異なり、レポート形式の試験としました。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれれば大丈夫です。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【関連科目】
Ⅰ、Ⅱを連続履修することを薦めます。マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on three report assignments.
Mid-term report assignment (2 times) 30% x 2
Final report (term paper) assignment (1 time) 40%.
Additional points may be given for reports on special lecture(s). In addition, undergraduate students who attend lectures at the same time will be evaluated by examinations, so please do not be confused.

ECN500F1 － 0140

日本経済特論Ⅱ

平田　英明

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「（良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「（悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。
海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19 の経済への影響は？ トランプ政権下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。
皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answer(s)"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。
この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】
究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。
ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業の履修者は大変多いため、今年度は全てオンデマンドで実施の予定です（パワーポイントのスライドに書き込みをしながら、説明を加える方式。適宜、黒板書き込みもあり）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。
例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など）。皆さんの意見も踏まえ今年度も実施予定です。
なお、授業内容については順番の入れ替え＆追加等の可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	日本経済のボトルネック１：デフレ問題１	物価変動のマクロ経済への影響を学びます
2	日本経済のボトルネック１：デフレ問題２	物価変動の原因と政策的な対応を学びます
3	日本経済のボトルネック１：デフレ問題３	潜在成長率と GDP ギャップの関係を学び、物価との関係を理解します
4	日本経済のボトルネック１：デフレ問題４	平時と非平時の経済政策について学び、共通点と違いを学びます
5	日本経済のボトルネック２：講演１	有識者を招き、日本経済のボトルネックに関する議論を行います
6	日本経済のボトルネック３：講演２	有識者を招き、日本経済のボトルネックに関する議論を行います
7	日本経済のボトルネック４：社会保障１	社会保障の基本的な仕組みを学びます
8	日本経済のボトルネック４：社会保障２	社会保障と少子高齢化社会の関係を理解し、課題を明らかにします
9	日本経済のボトルネック５：少子化問題１	少子化問題とそれに付随する経済問題の整理を行います
10	日本経済のボトルネック５：少子化問題２	少子化問題の解決策について、解決がそもそも必要なのかを含め、多角的に議論します
11	日本経済のボトルネック６：女性の社会進出	女性の労働供給を含めた社会進出について学びます
12	経済予測と経済政策	経済予測の基本的な方法とその使われ方を学びます
13	経済データと経済政策	統計不正問題を含め、経済・ビジネス分析に用いられるデータの特徴を学びます
14	秋学期の復習	秋学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『入門・日本経済』(有斐閣、2020、第 6 版) を必ず購入してください。旧版ではなく昨年に発売されたばかりの最新版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題によって評価を行います

中間レポート課題（２回）　３０％ × ２

期末レポート課題（１回）　４０％

更に講演に関するレポート等については加点をする場合があります。なお、同時聴講する学部生は試験方式で評価を行うので、そちらと混同しないようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

学部生も聴講するクラスのため、授業内では学部生向けの試験方法を説明することがありますが、院生はレポート形式の試験を望むことが多いため、学部生試験とは異なり、レポート形式の試験としました。

【学生が準備すべき機器他】

スタンダードなオンライン授業に必要な設備を用意してください（PC、マイク、カメラ等）。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【関連科目】

Ⅰ、Ⅱを連続履修することを薦めます。マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on three report assignments.

Mid-term report assignment (2 times) 30% x 2

Final report (term paper) assignment (1 time) 40%.

Additional points may be given for reports on special lecture(s). In addition, undergraduate students who attend lectures at the same time will be evaluated by examinations, so please do not be confused.

MAN500F1 － 0141

リサーチ・メソッド

田路　則子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術論文を定性調査によって書くための方法論を体系的に学ぶ。ケーススタディ（事例分析）、エスノグラフィ（参与観察等）、歴史アプローチにおける、フィールドワーク、データ分析、理論構築、記述までのプロセスを学習する。さらに、秀でた研究を読むことにより、理解を深める。

【到達目標】
修士または博士論文作成を見据えた、定性的方法論を修得する。方法論はマーケティング領域以外にも共通であり、戦略論や組織論の論文作成を予定している学生の履修も歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
理論書を読んで理解した上で、サンプル論文を読み、理論構築の実際を確認していく。教員が用意したサンプル論文にこだわらず、読みたい論文を学生が持ち込み、皆で読んで評価するという参加型の講義にしたい。
第一週の講義はオンライン ZOOM で実施をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	問題ある修士論文の例/理論書「実証研究の方法」藤本隆宏
2 回	実証研究における理論構築	理論書「実証研究の方法」藤本隆宏/「クチコミ」田路の修士論文
3 回	ケース・スタディ	理論書「ケーススタディの方法」R・K イン 序－ 4 章/
4 回	ケース・スタディ	理論書「ケーススタディの方法」R・K イン　5-6 章
5 回	ケース・スタディ	「イノベーションの資源動員と技術進化」松本陽一
6 回	ケース・スタディ	理論書「ケース・スタディのアプローチ」横澤
7 回	ケース・スタディ	「小売国際化プロセス」矢作敏行 3,5 章
8 回	歴史的アプローチ	「組織は戦略に従う」A・D・チャンドラー Jr. 序-2 章
9 回	歴史的アプローチ	「組織は戦略に従う」A・D・チャンドラー Jr. 3,6,7 章
10 回	質的データ分析ーコーディングの手法	理論書「質的データ分析法」佐藤郁哉 1-8 章/「看護師の倫理的ジレンマ」のコーディングのサンプル
11 回	質的データ分析ーインタビューの方法	インタビューのロール・プレイ
12 回	エスノグラフィ	「暴走族のエスノグラフィー」佐藤郁哉　1, 終章
13 回	エスノグラフィ	「洗脳するマネジメント」ギデオンクンダ 3、解説章
14 回	エスノグラフィ	「京都花街の経営学」西尾久美子　書籍&ビデオ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、リーディングに対して、簡単なメモを作成してくる。およそ 4 時間程度の準備が必要となる。

【テキスト（教科書）】
「ケーススタディの方法」　R・K イン　千倉書房
「質的データ分析法」　佐藤郁哉　新曜社

【参考書】
「組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門」佐藤郁哉　有斐閣
「組織行動の調査方法」　E・F ストーン　白桃書房
「創造的論文の書き方　」伊丹敬之　有斐閣
「リサーチマインド経営学研究法」　藤本隆宏他、有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
課題に対するメモ提出と授業への貢献
課題提出６０％、議論４０％

【学生の意見等からの気づき】
自身の研究計画の経過を紹介し、受講生間で意見交換することは有意義であった。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略、技術経営
＜研究テーマ＞
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「ハイテク・スタートアップの成長」
「ハイテク産業集積のエコシステム」
＜主要研究業績＞
① 『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子, 白桃書房, 2020 年.
②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻 3,pp172-184,2017.
③「WEB ビジネスにおけるスタートアップの成長要因―首都圏における定量調査と事例分析―」田路則子・新谷優『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第 31 巻,pp.63-67,2018.
④ “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,”
Noriko Taji, Technology,Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol.14,pp.263-287,2014.
⑤『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子• 露木恵美子, 東洋経済新報社,2010.
⑥「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻,5 号,pp211-231,2009.
⑦『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子, 白桃書房,2005.

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】: Students learn several methodologies of qualitative research; case study, historical approach and ethnography.They can realize the process of field work, data analysis, theory construction and writing. In order to deepen understanding methodologies, they must read outstanding papers and books.
【Learning activities outside of classroom】: Students have to submit small reports every week.
【Grading Criteria /Policy】: small reports(60%) and class contribution(40%)

MAN600F1 － 0039

経営学演習

吉田　健二

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、企業家・経営戦略分野の領域に関わるテーマの修士論文の作成と、これを通じた当該分野における研究作法の習得を目的とする。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
夜間企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会（7～8 月に実施予定）に参加し、修士論文の構想を発表することが望ましい。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション テーマの選定 (1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第 2 回	テーマの選定 (2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第 3 回	テーマの選定 (3)	修士論文のテーマに関する先行論文について検討する。
第 4 回	プロポーザルの作成 (1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 5 回	プロポーザルの作成 (2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 6 回	先行研究のレビュー (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 7 回	先行研究のレビュー (2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 8 回	先行研究のレビュー (3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 9 回	先行研究のレビュー (4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 10 回	先行研究のレビュー (5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 11 回	先行研究のレビュー (6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 12 回	中間発表会の準備 (1)	中間発表のための報告スライドの準備を行う。
第 13 回	中間発表会の準備 (2)	中間発表のための報告スライドの準備を行う。
第 14 回	中間発表後のフィードバックを行う。	中間発表会のコメントから新たに論文を再構成する。
第 15 回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第 16 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画を策定する。
第 17 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 18 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 19 回	調査ノートの作成 (4)	収集データを分析し、成果を報告する。
第 20 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆と添削を行う。
第 21 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆と添削を行う。
第 22 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆と添削を行う。
第 23 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆と添削を行う。
第 24 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆と添削を行う。
第 25 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆と添削を行う。
第 26 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性を確認する。
第 27 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性を確認する。
第 28 回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %、修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門領域等】
＜専門領域＞経営戦略論
＜研究テーマ＞経営戦略の策定と実行
＜主要研究業績＞
① “Perceptions about Teamwork: An Empirical Comparison of Japanese, Mexican, and American Faculty,” Association on Employment Practices and Principles: Proceedings of the 2002 Annual International Conference, pp.14-19, 2002 (with coauthors).
② “Differences in Culture and Attitudes toward Teamwork: An Empirical Comparison of Perceptions among Chinese, Japanese, Mexican, and American Faculty,” American Society of Business and Behavioral Sciences: 2006 Proceedings, pp.136-142, 2006 (with coauthors).
③ “Work Performance and Group Harmony: An Empirical Comparison of Japanese and Other Cultural Attitudes toward Teamwork,” The 2007 International Conference in Management Sciences and Decision Making: Proceedings, pp.1-16, 2007 (with coauthors).

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to help students acquire academic skills to study entrepreneurship and strategic management.
At the end of the course, students are expected to write up their master’s theses.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be decided based on in-class contribution(50%) and interim and final reports of the master’s thesis(50%).

MAN600F1 － 0039

経営学演習

福島　英史

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、企業家・経営戦略分野の領域に関わるテーマの修士論文の作成と、これを通じた当該分野における研究作法の習得を目的とする。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本演習は，修士論文執筆に向けた。報告・質疑/ディスカッション・コメント等からなる。当該演習で提起された課題は，次回演習時にその進捗を確認していく。論文で解くべき問題の確定，関連する諸研究の発表，調査の対象と範囲および方法の確定，全体構想の描写をしっかり行う。調査の実施後は，そのとりまとめと，問題の見直し，追加的な文献報告・補完的調査，構想の見直し，調査結果の再解釈などを行う。十二月前半頃迄に初稿を完成させた後，提出へ向けエラボレートしていく。夜間コース等中間発表の機会も活用すると良い。なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション テーマの選定 (1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第 2 回	テーマの選定 (2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第 3 回	テーマの選定 (3)	修士論文のテーマに関する先行論文について検討する。
第 4 回	プロポーザルの作成 (1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 5 回	プロポーザルの作成 (2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 6 回	先行研究のレビュー (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 7 回	先行研究のレビュー (2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 8 回	先行研究のレビュー (3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 9 回	先行研究のレビュー (4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 10 回	先行研究のレビュー (5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 11 回	先行研究のレビュー (6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 12 回	中間発表会の準備 (1)	中間発表のための報告スライドの準備を行う。
第 13 回	中間発表会の準備 (2)	中間発表のための報告スライドの準備を行う。
第 14 回	中間発表後のフィードバックを行う。	中間発表会のコメントから新たに論文を再構成する。
第 15 回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第 16 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画を策定する。
第 17 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 18 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 19 回	調査ノートの作成 (4)	収集データを分析し、成果を報告する。
第 20 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆と添削を行う。
第 21 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆と添削を行う。
第 22 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆と添削を行う。
第 23 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆と添削を行う。
第 24 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆と添削を行う。
第 25 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆と添削を行う。
第 26 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性を確認する。
第 27 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性を確認する。
第 28 回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間以上を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は，発表・報告（100 %）ある。但し中間発表や論文の草稿等を含む。
発表・報告の評価基準は，先行研究の読破，正確で分かりやすい論点整理，論理的な首尾一貫性，実証分析の手堅さ，テーマの斬新性，文章の読みやす，、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門領域等】
経営戦略とイノベーション

【研究テーマ】
戦略とイノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学説史で学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果—時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009.

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your academic skills to study business administration in order to write up your master thesis. We mainly focus on firms' strategy, innovation and entrepreneurship. The goal of this seminar is to complete good master's thesis and submit it by the deadline. Before/after each seminar meeting, students will be expected to spend more than four hours to prepare and understand the content. Grading will be decided based on each seminar reports (100%), including interim papers and presentations.

MAN600F1 － 0039

経営学演習

猪狩　良介

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、学術的課題を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
・先行研究をレビューして、先行研究や理論を基に仮説を構築します。
・適切な分析方法を用いて仮説を検証します。
・内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
各自の研究テーマに基づき、先行研究の検討、研究方法の検討を行う。研究方法の決定後には、具体的な調査やデータ収集を行い分析を行う。授業は、毎回の受講生の報告と教員からの指導で進め、最終的に修士論文の執筆を行う。
研究内容ついては、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面・オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の整理
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析
15	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
16	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
17	調査実施状況の確認②	調査データの分析
18	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
19	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
20	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
21	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
22	中間報告会の準備	中間報告準備の指導
23	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 （日程は前後する可能性あり）
24	論文執筆指導①	修士論文執筆の指導
25	論文執筆指導②	修士論文執筆の指導
26	論文執筆指導③	修士論文執筆の指導
27	論文執筆指導④	修士論文執筆の最終指導
28	論文執筆指導⑤	修士論文執筆の最終指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
担当者変更につき該当せず

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス、広告論、経営統計学
＜研究テーマ＞
消費者行動モデル (ブランド選択モデル、購買間隔モデル等)、広告効果測定
＜主要研究業績＞
・竹内真登・猪狩良介 (近刊).「文脈効果を考慮したコンジョイント分析による購買予測」『流通研究』.
・猪狩良介 (2019).「マーケティングにおける購買間隔モデルの展望—ベイズモデリングによる実証分析—」『経営志林』, 57(3), 1-17.
・Igari, R. and Hoshino, T. (2018). "A Bayesian Data Combination Approach for Repeated Durations under Unobserved Missing Indicators: Application to Interpurchase-Timing in Marketing". Computational Statistics & Data Analysis, 126, 150-166.
・Igari, R. and Hoshino, T. (2017). "A Survival Analysis Incorporating Auxiliary Information by a Bayesian Generalized Method of Moments: Application to Purchase Duration Modeling". Journal of the Japanese Society of Computational Statistics, 30 (1), 27-44.
・猪狩良介・星野崇宏 (2016).「Online-Offline チャネルにおける消費者の購買間隔と購買金額の同時モデリング」『オペレーションズ・リサーチ』, 61(9), 589-599.
・猪狩良介・河原達也 (2014).「クロスメディア効果を考慮した広告キャンペーンの評価—広告認知と態度変容効果のモデル化—」『日経広告研究所報』, 274, 24-30.
・猪狩良介・星野崇宏 (2014).「階層ベイズ動的サンプルセレクションモデルによる Web サイトへの誘導とサイト閲覧行動の同時分析」『日本統計学会誌』, 43 (2), 185-214.
・猪狩良介・星野崇宏 (2012).「非集計 Web アクセスデータを用いたサイト普及モデル—多時点・複数サイトの階層ベイズモデリング—」『マーケティング・サイエンス』, 20(1), 43-67.

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis.Students will combine their awareness of practical problems with academic issues to conduct highly original research and write a thesis.
Students will review previous research and develop hypotheses based on previous research and theories, and test their hypotheses using appropriate analytical methods. Students will write a master's thesis with a high level of content and aim to complete it so that it can be presented at an academic conference.
Research activities such as search for previous research and data collection, requests to research targets, report writing, data analysis, and writing activities should be conducted outside of class.
Grading criteria/policy is academic persuasiveness as a master's thesis, contribution to practice, logical coherence, etc.

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

金　容度

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 1 時間 40 分（100 分間）、あるいは、隔週土曜日に 3 時間 20 分（200 分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、春学期は、基本文献の輪読の比重が高い。7 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第 2 回	プロポーザルの作成指導 (1)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を検討する。
第 3 回	プロポーザルの作成指導 (2)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を確定する。
第 4 回	先行研究の調査、報告、議論 (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第 5 回	先行研究の調査、報告、議論 (2)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第 6 回	先行研究の調査、報告、議論 (3)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第 7 回	先行研究の調査、報告、議論 (4)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第 8 回	先行研究の調査、報告、議論 (5)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第 9 回	先行研究の調査、報告、議論 (6)	先行研究の調査を踏まえて、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 10 回	先行研究の調査、報告、議論 (7)	前回の議論を、さらに深める。
第 11 回	中間発表会準備 (1)	企業家養成コースで行われる中間発表会の準備を行う。
第 12 回	中間発表会準備 (2)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備をさらに進める。
第 13 回	中間発表会準備 (3)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備を完成させる。
第 14 回	中間発表後の改善案検討	中間発表会の時に受けたコメントを論文作成に反映するための案をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が 50 %、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が 50 %である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
無し。

【Outline (in English)】
▼ Course outline
In this seminar, the guidance will be given on the preparation for the master's thesis for the second year students of Entrepreneur Training Course.
▼ Learning Objectives
The objectives of this seminar is to complete to write the master's thesis.
▼ Learning activities outside of classroom
Outside of classroom, searching for and reading documents, creating resumes, collecting data and writing activities are required.
▼ Grading Criteria/Policy
The evaluation criteria are as follows: 50% for attendance and contribution to the class and 50% for midterm presentation and draft of master's thesis.

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

金　容度

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 1 時間 40 分（100 分間）、あるいは、隔週土曜日に 3 時間 20 分（200 分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期は、修士論文の指導のウェートが高い。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	仮説の検討と調査計画の確定 (1)	修士論文の仮説を検討し、今後の調査計画についても検討を行う。
第 2 回	仮説の検討と調査計画の確定 (2)	教員の助言を受けて、仮説と調査計画を確定する。
第 3 回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (1)	調査の依頼状況を報告し、助言を受ける。
第 4 回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (2)	調査の依頼状況と、実施済みの調査の結果を報告し、助言を受ける。
第 5 回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (3)	調査結果を報告し、助言を受ける。
第 6 回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (4)	調査の依頼・実施状況を確認し、今後の方針を確定する。
第 7 回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (5)	調査結果および分析結果の報告・ディスカッションを行う。
第 8 回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (6)	調査結果および分析結果についてディスカッションを行い、修士論文のアウトラインを確定する。
第 9 回	修士論文執筆のチェックと助言 (1)	修士論文執筆状況のチェックと、内容に関するディスカッションを行う。
第 10 回	修士論文執筆のチェックと助言 (2)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加された内容に関するディスカッションを行う。
第 11 回	修士論文執筆のチェックと助言 (3)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関するディスカッションを行う。
第 12 回	修士論文執筆のチェックと助言 (4)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関する追加のディスカッションを行う。
第 13 回	修士論文執筆のチェックと助言 (5)	修士論文執筆が完一通り完了したことを確認し、修正された内容に関するディスカッションを行う。
第 14 回	修士論文の最終チェック	修士論文の内容に関して最終的なチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が 50 %、修士論文の草稿が 50 %である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
無し。

【Outline (in English)】
▼ Course outline
In this seminar, the guidance will be given on the preparation for the master's thesis for the second year students of Entrepreneur Training Course.
▼ Learning Objectives
The objectives of this seminar is to complete to write the master's thesis.
▼ Learning activities outside of classroom
Outside of classroom, searching for and reading documents, creating resumes, collecting data and writing activities are required.
▼ Grading Criteria/Policy
The evaluation criteria are as follows: 50% for attendance and contribution to the class and 50% for draft of master's thesis.

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

近能　善範

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年 7～8 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第 2 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画を策定する。
第 3 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 4 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 5 回	調査ノートの作成 (4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 6 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆と添削を行う。
第 7 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆と添削を行う。
第 8 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆と添削を行う。
第 9 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆と添削を行う。
第 10 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆と添削を行う。
第 11 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆と添削を行う。
第 12 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性を確認する。
第 13 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性を確認する。
第 14 回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
　イノベーションと企業間関係

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）, 新世社, 2010 年。
2.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41 号, 2018 年 10 月。
3.「顧客との取引関係とサプライヤーの成果：日本自動車部品産業の事例」,『一橋ビジネスレビュー』, 65 巻 1 号, 2017 年 6 月。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54 巻 4 号, 2007 年 3 月。
5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002 年 3 月。

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

近能　善範

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年 7～8 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション テーマの選定 (1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第 2 回	テーマの選定 (2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第 3 回	テーマの選定 (3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第 4 回	プロポーザルの作成 (1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 5 回	プロポーザルの作成 (2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 6 回	先行研究のレビュー (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 7 回	先行研究のレビュー (2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 8 回	先行研究のレビュー (3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 9 回	先行研究のレビュー (4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 10 回	先行研究のレビュー (5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 11 回	先行研究のレビュー (6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 12 回	中間発表会の準備 (1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第 13 回	中間発表会の準備 (2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第 14 回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
　イノベーションと企業間関係

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）, 新世社, 2010 年。
2.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41 号, 2018 年 10 月。
3.「顧客との取引関係とサプライヤーの成果：日本自動車部品産業の事例」,『一橋ビジネスレビュー』, 65 巻 1 号, 2017 年 6 月。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54 巻 4 号, 2007 年 3 月。
5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002 年 3 月。

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

二階堂　行宣

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年 7～8 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第 2 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画を策定する。
第 3 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 4 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 5 回	調査ノートの作成 (4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 6 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆と添削を行う。
第 7 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆と添削を行う。
第 8 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆と添削を行う。
第 9 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆と添削を行う。
第 10 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆と添削を行う。
第 11 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆と添削を行う。
第 12 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性を確認する。
第 13 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性を確認する。
第 14 回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grade evaluation criteria are attendance (50%), presentation / report (50%, including interim presentation of master's thesis and draft of master's thesis).

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

二階堂　行宣

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年 7～8 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション テーマの選定 (1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第 2 回	テーマの選定 (2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第 3 回	テーマの選定 (3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第 4 回	プロポーザルの作成 (1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 5 回	プロポーザルの作成 (2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 6 回	先行研究のレビュー (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 7 回	先行研究のレビュー (2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 8 回	先行研究のレビュー (3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 9 回	先行研究のレビュー (4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 10 回	先行研究のレビュー (5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 11 回	先行研究のレビュー (6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 12 回	中間発表会の準備 (1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第 13 回	中間発表会の準備 (2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第 14 回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grade evaluation criteria are attendance (50%), presentation / report (50%, including interim presentation of master's thesis and draft of master's thesis).

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

稲垣　京輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年 7～8 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第 2 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画を策定する。
第 3 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 4 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 5 回	調査ノートの作成 (4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 6 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆と添削を行う。
第 7 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆と添削を行う。
第 8 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆と添削を行う。
第 9 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆と添削を行う。
第 10 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆と添削を行う。
第 11 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆と添削を行う。
第 12 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性を確認する。
第 13 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性を確認する。
第 14 回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

稲垣　京輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年 7～8 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション テーマの選定 (1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第 2 回	テーマの選定 (2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第 3 回	テーマの選定 (3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第 4 回	プロポーザルの作成 (1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 5 回	プロポーザルの作成 (2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 6 回	先行研究のレビュー (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 7 回	先行研究のレビュー (2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 8 回	先行研究のレビュー (3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 9 回	先行研究のレビュー (4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 10 回	先行研究のレビュー (5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 11 回	先行研究のレビュー (6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 12 回	中間発表会の準備 (1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第 13 回	中間発表会の準備 (2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第 14 回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN500F1 － 0043

ワークショップ（企業家養成）

近能　善範

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業家養成ワークショップでは、さまざまな企業家をお招きして、設定したテーマに関する講演とその後の質疑応答やディスカッションを通じて、企業家活動についての理解を深めます。今年度のテーマは「企業家と困難の超克」です。

【到達目標】
企業や事業を起こされた経緯や動機と、そのときの苦労や問題点、現在までに実際に直面した経営上の問題点や課題とその解決方法などについて経営者、企業家の講演と、その後の質疑応答やディスカッションを通じて、企業家と困難の超克、事業の構築・成長の関連を理解することが本ワークショップ授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
開講は対面を基本としますが、ゲストの意向によってはオンラインで開講します。その際の授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムまたは同システムに登録されているメールアドレス宛メールを参照してください。
今年度のワークショップは、新たな企業を立ち上げた経営者はもちろん、既存企業内で新規事業を立ち上げた方、スタートアップ企業の支援に携わる方など、多彩な「企業家」をゲスト・スピーカーとしてお招きしてお話をうかがい、その後に質疑応答やディスカッションを行うことによって、「企業家活動」についての理解を深めます。ワークショップでは、学生が積極的に質問して、ゲスト・スピーカーの生の声を聞き出すようにして下さい。なお、ワークショップで学んだことを課題レポートとして、次週までに提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション①	授業の概要と進め方等の説明
第 2 回	イントロダクション②	ゲスト・スピーカーの概要等についての説明
第 3 回	ゲスト・スピーカー①	「企業家と困難の超克」に関するゲスト・スピーカー①の講演
第 4 回	ゲスト・スピーカー①	ゲスト・スピーカー①との質疑応答、ディスカッション
第 5 回	ゲスト・スピーカー②	「企業家と困難の超克」に関するゲスト・スピーカー②の講演
第 6 回	ゲスト・スピーカー②	ゲスト・スピーカー②との質疑応答、ディスカッション
第 7 回	ゲスト・スピーカー③	「企業家と困難の超克」に関するゲスト・スピーカー③の講演
第 8 回	ゲスト・スピーカー③	ゲスト・スピーカー③との質疑応答、ディスカッション
第 9 回	ゲスト・スピーカー④	「企業家と困難の超克」に関するゲスト・スピーカー④の講演
第 10 回	ゲスト・スピーカー④	ゲスト・スピーカー④との質疑応答、ディスカッション
第 11 回	ゲスト・スピーカー⑤	「企業家と困難の超克」に関するゲスト・スピーカー⑤の講演
第 12 回	ゲスト・スピーカー⑤	ゲスト・スピーカー⑤との質疑応答、ディスカッション
第 13 回	ゲスト・スピーカー⑥	「企業家と困難の超克」に関するゲスト・スピーカー⑥の講演
第 14 回	ゲスト・スピーカー⑥	ゲスト・スピーカー⑥との質疑応答、ディスカッション
第 15 回	ゲスト・スピーカー⑦	「企業家と困難の超克」に関するゲスト・スピーカー⑦の講演
第 16 回	ゲスト・スピーカー⑦	ゲスト・スピーカー⑦との質疑応答、ディスカッション
第 17 回	ゲスト・スピーカー⑧	「企業家と困難の超克」に関するゲスト・スピーカー⑧の講演
第 18 回	ゲスト・スピーカー⑧	ゲスト・スピーカー⑧との質疑応答、ディスカッション
第 19 回	ゲスト・スピーカー⑨	「企業家と困難の超克」に関するゲスト・スピーカー⑨の講演
第 20 回	ゲスト・スピーカー⑨	ゲスト・スピーカー⑨との質疑応答、ディスカッション
第 21 回	ゲスト・スピーカー⑩	「企業家と困難の超克」に関するゲスト・スピーカー⑩の講演
第 22 回	ゲスト・スピーカー⑩	ゲスト・スピーカー⑩との質疑応答、ディスカッション
第 23 回	ゲスト・スピーカー 11	「企業家と困難の超克」に関するゲスト・スピーカー⑪の講演
第 24 回	ゲスト・スピーカー 11	ゲスト・スピーカー⑪との質疑応答、ディスカッション
第 25 回	ディスカッション①	ゲスト・スピーカー①～⑤についての振り返りとディスカッション
第 26 回	ディスカッション②	ゲスト・スピーカー⑥～⑪についての振り返りとディスカッション
第 27 回	まとめ①	「企業家と困難の超克」についてのまとめとディスカッション
第 28 回	まとめ②	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に使用しません。

【参考書】
参考書は特に使用しませんが、ゲスト・スピーカーが執筆した著書等があれば、第 1 回目の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
配分：レポート提出（50 %）、出席およびディスカッションへの貢献（50 %）
評価基準：単位取得のためには、6 回以上のレポート提出が求められます。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【その他の重要事項】
ゲスト・スピーカーや具体的な講義スケジュールは、第 1 回目の授業で説明します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論
＜研究テーマ＞
　イノベーションと企業間関係

【担当教員の主要研究業績】
1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）, 新世社, 2010 年。
2.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41 号, 2018 年 10 月。
3.「顧客との取引関係とサプライヤーの成果：日本自動車部品産業の事例」,『一橋ビジネスレビュー』, 65 巻 1 号, 2017 年 6 月。
4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54 巻 4 号, 2007 年 3 月。
5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002 年 3 月。

【Outline (in English)】
【Course Outline and Learning Objectives】

In Workshop in Entrepreneurship, ten entrepreneurs lecture on their experience and thinking as well as discuss specific topics on the lectures with participants of workshop. The objective of this workshop is to acquire the ability to see through the essence of entrepreneurship.
The main topic of Workshop in Entrepreneurship in 2022 is the "Overcoming difficulties through Entrepreneurship."
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria / Policy】
Grades will be based on a total of the following: Report (50 %) + Ordinary points & Contribution to the discussion (50%)

MAN500F1 － 0044

企業家活動

稲垣　京輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国内外で発展してきた起業家やベンチャーに関する経営学、社会学研究の理論的枠組みや事例を参照しながら、事業創造の担い手である起業家の活動の実態について明らかにします。そしてそこから、近年の日本にみられる組織現象に対して、より深い理解力、観察力を養うことを目的とします。

【到達目標】
1) 講義の後半部分から新たなテーマについて講義をおこなうことで、起業家活動の分析に関する方法論を学びあい、議論を深めます。
2) すぐれた文献を読むことによって、問題の捉え方と分析視角の設定を中心に、修士論文を執筆する上で必要な知識を習得します。
1) By giving lectures on new themes from the latter half of the lecture, we will learn the methodology of analysis of entrepreneurial activity and deepen the discussion.
2) By reading excellent prior works, we will acquire the knowledge necessary for writing a master's thesis, focusing on how to grasp the problem and set the analytical viewing angle.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義部分においては、次の３つの分析視角に基づいて、企業家活動を分析する視点を養います。最初の 3 回は、「合理的意思決定プロセスとしての企業家活動」、次の 3 回は「環境適応プロセスとしての企業家活動」そしてその次の 3 回は「利害関係の超越としての企業家活動」をテーマとします。これら３つの主要テーマにおいて、事業創造にかかわるさまざまな経営現象を考察します。最後の 5 回は、テキストを輪読し、事例研究をおこなう上で必要な理論的ツールを身につけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス授業	自己紹介 問題関心の設定と導入講義
第 2 回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動１	事業創造における市場獲得のプロセス
第 3 回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動２	事業創造における組織内部のマネジメント
第 4 回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動３	社内ベンチャーと企業家支援プログラム
第 5 回	環境適応プロセスとしての企業家活動１	企業家活動の正当性と資源動員
第 6 回	環境適応プロセスとしての企業家活動２	制度的企業家とは何か
第 7 回	環境適応プロセスとしての企業家活動３	社会的関係の調整と企業家のエフェクチュエーション
第 8 回	利害関係の超越としての企業家活動１	社会的ネットワークとソーシャルキャピタルの構築
第 9 回	利害関係の超越としての企業家活動２	企業家の協働と学習
第 10 回	利害関係の超越としての企業家活動３	場づくりとしての企業家活動＝点から面へ

第 11 回	テキストの輪読１	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第 12 回	テキストの輪読２	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第 13 回	テキストの輪読３	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第 14 回	まとめ	企業家活動の分析視角を再度レビューする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、グループ毎に課題を提出し、報告してもらいます。
Every week, each group submits and reports on their assignments.

【テキスト（教科書）】
田村正紀『経営事例の物語分析』白桃書房。

【参考書】
金井壽宏『起業者ネットワーキングの世界』白桃書房。
佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社。
長谷川博和『ベンチャーマネジメント入門』日本経済新聞社。
山岡徹『変革とパラドックスの組織論』中央経済社
W. ベーカー『ソーシャル・キャピタル』ダイヤモンド社。
S. サラスパシー『エフェクチュエーション』中央経済社。
J.R. カッツェンベルグ『インフォーマル組織力』税務経理協会　他

【成績評価の方法と基準】
配分
評価基準
出席点 (20 点)
報告点 (60 点)
積極的なコミットメント（プラスα）
出席点は、ただ出席するだけでは評価の対象にならず、議論への積極的な参加によって加点します。報告点は、課題に応じたケースを検索し、分析の深さによって判定します。また、質問点は、論点を定め、議論をどれだけ盛り上げることができるかによって判定します。
Evaluation criteria
Attendance points (20 points)
Report points (60 points)
Positive commitment (plus α)

【学生の意見等からの気づき】
後半の輪読では、受講者の間でもディスカッションができるように、いくつかの論点を提示します。

【学生が準備すべき機器他】
各自、報告の際には、データを入れたメモリーか、あるいはパソコン本体を持参してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞組織社会学、経営組織論
＜研究テーマ＞企業間協力における能力構築と産業クラスター形成に関する研究
＜主要研究業績＞
稲垣京輔・高橋勅徳（2010）「産業クラスター形成における地理的近接に基づく関係構築プロセス:大阪扇町界隈におけるインキュベーション・マネジャーとクリエイター間の関係性の変化」『組織科学』第 44 巻, 第 3 号, 21 ― 36 頁。
高橋勅徳・稲垣京輔（2015）「我が国における産業クラスター政策の推進による組織 フィールドの形成:大阪市扇町界隈における扇町クリエイティブ・クラスターの形成」『経営と制度』第 13 号,25 ― 46 頁 .

【Outline (in English)】
This lecture aims to try understanding the entrepreneurial activities which are not only the business creation but also the innovation and institutional change process, referring to the theoretical frameworks and case studies of entrepreneurs and ventures that have developed on the field of business studies and sociology research.

MAN500F1 － 0045

企業家史

二階堂　行宣

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・この授業は、市場経済の均衡を破壊・創造する力を持つ「革新」の遂行者である企業家に注目することで、経済発展の長期的なダイナミズムを考察することを目的とする。
・J. シュンペーターは『経済発展の理論』(1912 年) において、企業家を「創造的破壊」による「新結合」の実現者と定義し、企業家の「革新」行動によって均衡状態が攪乱されることで経済発展のダイナミズムが生じるとした。さらに A. H. コールらは、企業家の非連続的・飛躍的側面だけでなく、連続的・漸進的な側面にも注目し、均衡から不均衡を創り出すこと (創造的破壊) だけでなく、不均衡から均衡に向かう過程 (競争) によって経済発展が生み出されると論じた。
・こうした企業家をめぐる理論・仮説は、実際の歴史の中でどのように観察されるのだろうか。この授業では、企業家の革新行動とその定着過程としての企業発展を、具体的な事例に基づきながら、長期の歴史的な文脈の中で考えていきたい。

【到達目標】
・近現代日本の経済・経営発展の歴史について知識を習得し、企業家活動の前提となるそれぞれの時代の経済環境を、明確に把握する。
・その上で、企業家がある時代背景と外部環境の中で、どこにビジネス・チャンスを見出し、それをいかにして掴もうとしたのか、ケース・スタディを用いながら考える。
・以上を通して、長期的な視野にもとづく戦略的行動とは何かを学び、歴史的な思考様式を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定している。
　①学習支援システムから教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
　②学習の到達度を確認するため、定期的に対面または Web 上でディスカッションを実施する。その際、参加者は自身の論点や疑問点を明確にしたレジュメを用意する。
　③最終評価にあたっては、特定の起業家に関するレポートを提出していただくことを想定している。
・初回授業の際に、参加者の確定と、授業のスケジュールを決定する。履修希望の学生は必ず出席すること。
・どうしても初回授業に出席できない場合は、事前に必ず担当教員に知らせること。
・授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・企業家分析への歴史的視点 ※対面で実施予定
第 2 回	幕末維新期の経営	・概説：幕末維新期の日本経済
第 3 回	幕末維新期の経営	・新興商人の登場 ・遠隔地交易の活性化
第 4 回	明治前期の経営	・概説：明治前期の日本経済
第 5 回	明治前期の経営	・政商の登場 ・「大店」の明治維新 ・企業家活動の組織化
第 6 回	産業革命期の経営	・概説：日本の産業革命
第 7 回	産業革命期の経営	・専門経営者の台頭 ・地方からの産業革命
第 8 回	第一次世界大戦期の経営	・概説：第一次大戦ブーム
第 9 回	第一次世界大戦期の経営	・大戦ブームと商社 ・好況時のリスク管理
第 10 回	両大戦間期の経営	・概説： 1920～30 年代の日本経済
第 11 回	両大戦間期の経営	・都市型産業の登場 ・新興コンツェルンの成長
第 12 回	戦後復興期～高度経済成長期の経営	・概説：戦時統制経済から戦後改革へ ・概説：高度経済成長と大衆消費社会
第 13 回	戦後復興期～高度経済成長期の経営	・流通革命 ・東海道新幹線
第 14 回	授業内容の復習	・ケース・スタディをふまえ、近現代日本の企業家活動の特徴について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
・授業内容をふまえたディスカッションでは、積極的に発言することが求められる。

【テキスト（教科書）】
・使用しない。

【参考書】
①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』有斐閣、2004 年。
②宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎『日本経営史［新版］』有斐閣、2007 年。
③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧　補訂版』東京大学出版会、2010 年。
④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011 年。
⑤三和良一『概説日本経済史　近現代（第 3 版）』東京大学出版会、2012 年。
⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』名古屋大学出版会、2012 年。
⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論新社、2013 年。
⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』有斐閣、2016 年。
⑨武田晴人『日本経済史』有斐閣、2019 年。

【成績評価の方法と基準】
・現時点では、①定期的に実施されるディスカッションでの発言・資料内容、②最終レポートの内容、の 2 点で評価することを想定している。
・成績評価の際は、企業家に関する知識の習得よりも、企業家活動を長期的・俯瞰的視野から体系化し、歴史的に位置づける能力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
・単なる「企業家列伝」のような授業は行わないことを心がけたい。
・むしろ、近現代の政治史・経済史の流れをふまえ、各時代の企業家をその流れの中に位置づけることで、経済・経営発展のダイナミズムを理解することに重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】
・なし

【その他の重要事項】
・定期的なディスカッションは、可能な限り教室での対面形式で実施する予定である。ただし、感染状況や受講者の希望によっては、Web 上でのディスカッションに切り替える可能性がある。
・初回授業は、**4 月 13 日（水）の 18 時半**より実施する。現時点では、教室で対面形式にて実施する予定。
・初回授業では、授業の概要説明、参加者の確定、授業スケジュールの決定を予定している。履修希望の学生は必ず出席すること。
・どうしても初回授業に出席できない場合は、事前に必ず担当教員に知らせること。
・ゼミ形式という授業の性格上、参加者数は最大でも 8 名程度を想定している。そのため、履修登録に際しては、企業家養成コースの学生を優先する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
・日本経営史
・日本経済史
＜研究テーマ＞
・鉄道事業経営と運輸政策に関する歴史研究
・オーラル・ヒストリー
＜主要研究業績＞
・二階堂行宣（2020）「三陸鉄道をめぐる危機と希望―地域公共交通経営の普遍性・特殊性―」『地域の危機・釜石の対応』東京大学出版会。
・二階堂行宣（2020）「日本国有鉄道と東海道新幹線―計画期における組織内業務運営とマネジメント―」『経営志林』第 56 巻第 4 号。
・二階堂行宣（2017）「陸運業の展開」『日本経済の歴史 4（近代 2）』岩波書店。
・二階堂行宣（2015）「戦間期鉄道貨物輸送システムの形成」『経営史学』49 巻 4 号。
・二階堂行宣（2014）「鉄道貨物輸送における設備・営業業務の形成」『鉄道史学』32 号。

【Outline (in English)】
【Outline】
・The purpose of this course is to look at the long-term dynamism of economic development by paying attention to entrepreneurs who are the performers of "innovation" with the power to destroy and create the equilibrium of market economy.
・In this lesson, I would like to consider the innovative behavior of entrepreneurs and the development of enterprises as a process of consolidation based on concrete examples in a long-term historical context.
【Learning Objectives】
・Acquire knowledge about the history of modern Japanese economy and business development, and clearly grasp the economic environment of each era, which is the premise of entrepreneurial activities.
・On top of that, use case studies to think about where entrepreneurs have found business opportunities and how they tried to seize them in the background of the times and the external environment.
・Through the above, learn what strategic behavior is based on a long-term perspective and acquire a historical way of thinking.
【Learning activities outside of classroom】
・The standard preparatory study / review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Evaluation will be made based on two points:
(1)Remarks and material content in regular discussions
(2)Final report content.
・When evaluating grades, prioritize the ability to systematize entrepreneurial activities from a long-term, bird's-eye view and position them historically, rather than acquiring knowledge about entrepreneurs.

MAN500F1 － 0008

経営史

韓　載香

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、経営史学に関する基礎的且つ体系的知識を身につけることを目的とします。多様性を重視する経営史学ですが、企業、組織、企業家、技術、産業、システムなど様々な内容を対象としながら、地域や分野を超えて共通してみられる組織内の編成やその方向性、市場・産業内で影響しあいながら環境自体を変えていく企業活動のダイナミズムを注視します。
具体的には、19 世紀から 20 世紀までにおける欧米及び日本の企業や、それらを取り巻く環境、制度・システムに注目し、組織の在り方の多様性を通じてみえる原理を理解します。加えて、市場の秩序を変えてきた特筆すべき変化を捉え、それが何故起き、どのように展開し、どのような影響を残したかを考えていきます。

【到達目標】
1. 多様性 (特徴) 及び共通性を区別しながら、地域 (国) の組織原理を解説することができる。
2. 大企業への成長に伴われる組織編成の変化について、要因とともに説明することができる。
3. 企業活動について、制度の束としてのシステムとの関連で理解できる具体例を提示することができる。
4. 国を超えて影響が広がった企業の在り方やシステムについて、事例を挙げて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
指定テキストに内容に即して進めていきます。教員による簡単なポイントの解説、受講者による論点提示の後、ディスカッションを行って理解を深めていきます。受講者には【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】に説明するような要領で発表をしていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	第一に、「経営史を学ぶとは？ －今における『新しい』を発見する」というトピックで授業の意義について解説します。第二に、テキスト及び学習方法や、受講者の参加の仕方などその他の概要を説明します。
第 2 回	第 2 回～第 6 回 市場経済の発達とビジネス	資本主義の発祥地であるヨーロッパを対象として、19 世紀における市場経済の発展やビジネスを動かした動因について学びます。 工業化と多元的発展 (鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。以下同様)：近代工業、在来産業、金融—サービスの台頭について学びます。
第 3 回	市場経済の発達とビジネス	市場経済とビジネスの発展方向：専門化・産業地域・競争について考えます。
第 4 回	市場経済の発達とビジネス	19 世紀の金融・サービス：株式会社の登場と金融の在り方に注目します。
第 5 回	市場経済の発達とビジネス	19 世紀の労働と雇用：近代工業と在来産業の管理にみる働く姿はどのようなものだったでしょうか。
第 6 回	市場経済の発達とビジネス	大量生産体制のへの途： 19 世紀アメリカにおける試みから、20 世紀を展望します。
第 7 回	第 7 回～第 13 回 大企業の形成 (20 世紀初頭)	19 世紀末から 20 世紀初頭においてアメリカで台頭した大企業に光を当て、各地の勃興についてみます。製造業における大量生産がいかに組織の在り方を変え、どのような新しい手法のマネジメントが定着したか、その影響はどのようなものであったかについて学びます。 垂直統合とアメリカの現代企業：大量生産と大量販売の時代を切り開いたアメリカの大企業の経営を取り上げます。
第 8 回	大企業の形成	アメリカ企業と経営階層組織：専門経営者に登場してもらい、マネジメントが要求した変化を吟味します。
第 9 回	大企業の形成	アメリカにおける経営者企業の成立：多角化戦略における部門間調整とは何でしょうか。
第 10 回	大企業の形成	ヨーロッパにおける現代企業の登場：大企業の展開において政府はどのように関わったのでしょうか。
第 11 回	大企業の形成	ヨーロッパ大企業の組織と管理：持株会社とは？ その管理に注目します。
第 12 回	大企業の形成	日本における大企業の登場：産業革命期における日本のビジネス
第 13 回	大企業の形成	日本の企業と財閥：両大戦間期、産業構造の変化に対する日本の企業の対応
第 14 回	受講者の発表①	研究書の批評発表
第 15 回	第 15 回～23 回　大企業体制のビジネス	各地に出現した大企業体制とは何かを理解しつつ、そのもとで展開したビジネスの在り方を比較しながら、地域別の特徴について考えていきます。 アメリカの大企業体制：大企業・大労組・大きな政府
第 16 回	大企業体制のビジネス	新産業の誕生と先端技術開発：先端技術産業と政府の役割
第 17 回	大企業体制のビジネス	戦後ヨーロッパの大企業：揺れる大企業体制
第 18 回	大企業体制のビジネス	金融センターの興亡：大企業体制下の金融・サービス
第 19 回	大企業体制のビジネス	中小企業、産業地域、クラフト：大企業体制下において消える存在？
第 20 回	大企業体制のビジネス	日本の大企業 (1) ：戦略と発展類型における日本の特殊性
第 21 回	大企業体制のビジネス	日本の大企業 (2) ：組織と雇用にみる特徴
第 22 回	大企業体制のビジネス	日本のビジネス・システム：市場と組織の在り方（いわゆる日本的経営の再検討）
第 23 回	大企業体制のビジネス	日本の企業間競争と市場：競争的市場と中小企業、産業集積、在来産業

第 24 回	第 24 回～第 27 回 大企業体制後のビジネス	大企業の地位における揺らぎなど、ビジネス界に見られた変容は、今を理解するうえでも興味深いものです。1960 年から 80 年までのアメリカ、欧州、日本での動きは多様ですが、時期を異にしながらも大きな流れとして共通点を導き出すことができます。大企業淘汰の背景と実態とともにその意味についていくつかの見解を理解しましょう。 経営者企業の動揺：国際競争力の低下と M&A
第 25 回	大企業体制後のビジネス	アメリカ企業の復活：半導体とパーソナル・コンピュータ
第 26 回	大企業体制後のビジネス	金融・サービスの復活：金融・サービスセンターの競争
第 27 回	大企業体制後のビジネス	産業地域の再生：地場産業システムと中小企業から地域を見つめなおします。
第 28 回	受講者の発表②	研究書の批評発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストの該当内容を読み、疑問点及び論点をまとめて提出していただきます。
課題：受講者には教員が提示した【参考文献】リストから 1 冊を選び、内容紹介および批判の発表 (1 回) をしていただきます。＊この報告のため、受講者の参加人数により、講義計画は調整されます。

【テキスト（教科書）】
鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年

【参考書】
鈴木良隆『経営史――イギリス産業革命と企業者活動』同文館出版、1982 年
S. ポラード（鈴木良隆・春見濤訳）『ヨーロッパの選択』有斐閣、1990 年
小野塚知二『クラフト的規制の起源』有斐閣、2001 年
D.A. ハウンシェル（和田一夫ほか訳）『アメリカン・システムから大量生産へ』名古屋大学出版会、1998 年
A.D. チャンドラー, Jr.（鳥羽欽一郎・小林袈裟治訳）『経営者の時代――アメリカにおける近代企業の時代』上・下、東洋経済新報社、1979 年
A.D. チャンドラー, Jr.（三菱経済研究所訳）『経営戦略と組織――米国企業の事業部制成立史』実業之日本社、1967 年（『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社、2004 年）
L. ハンナ（湯沢威・後藤伸訳）『大企業経済の興隆』東洋経済新報社、1987 年
大河内暁男・武田晴人編『企業者活動と企業システム』東京大学出版会、1993 年
A.D. チャンドラー, Jr.（安部悦生・川辺信雄・工藤章ほか訳）『スケール・アンド・スコープ』有斐閣、1993 年
石井寛治『情報・通信の社会史』有斐閣、1994 年
武田晴人『財閥の時代』新曜社、1995 年
S. ハイマー（宮崎義一編訳）『多国籍企業論』岩波書店、1979 年
兵藤釗『日本における労使関係の展開』東京大学出版会、1971 年
M. ピオリ＝ C. セーブル（山之内靖・永易浩一・石田あつみ訳）『第二の産業分水嶺』筑摩書房、1993 年
橋本寿朗『日本企業システムの戦後史』東京大学出版会、1996 年
小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、1991 年
米国商務省（室田泰弘訳）『ディジタル・エコノミー 2002/2003』東洋経済新報社、2002 年
J.C. アベグレン（井尻昭夫訳）『日本の企業社会』晃洋書房、1989 年
R.P. ドーア（山之内靖・永易浩一訳）『イギリスの工場・日本の工場』筑摩書房、1987 年
J.P. ウォマック＝ D. ルース＝ D.T. ジョーンズ（沢田博訳）『リーン生産方式が世界の自動車産業をこう変える』経済界、1990 年
L.H. リン（遠田雄志訳）『イノベーションの本質：鉄鋼技術導入プロセスの日米比較』東洋経済新報社、1985 年

【成績評価の方法と基準】
論点提示、議論への参加度及び研究書の批評発表

【学生の意見等からの気づき】
進行方法については、学期中に一度参加者の意見を収集し、改善します。
議論に求められることは何かわからない、という学生の意見を聞きます。議論の目的について丁寧に説明し、新しい発見につながり、力を向上する方法について提案いたします。

【担当教員の専門分野等】
＜日本現代経済史＞
＜在日韓国・朝鮮人企業の産業経済史、産業史＞
＜主要研究業績＞『在日企業の産業経済史』（名古屋大学出版会、2010 年）、『パチンコ産業史』（名古屋大学出版会、2018 年）

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to acquire basic and systematic knowledge about business history. On one hand the business history emphasizes diversity, but on the other hand it should be understood from the perspective of dynamism by farm's activities that changes sometimes its environment interacting constantly with the market, the structure within the organization and its direction that can be seen in common across regions and fields. I will cover various contents in this course such as companies, organizations, entrepreneurs, technologies, industries, and systems. Specifically, I will focus on Western and Japanese companies from the 19th century to the 20th century, the environment surrounding them, the systems. You will understand the principles that can be seen through the diversity of organizational structures. In addition, I will capture notable transforms that have changed the order of the market and consider why they happened, how they developed, and what impacts they had.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do following:
To explain the organizational principles of a region (country) by distinguishing between diversity (characteristics) and commonality
To explain the changes in organizational structure along with the growth of a company, and factors.
To be able to give an example that can be understood in relation to the system as a bundle of systems regarding corporate activities.
To present an example the ideal way and system of a company whose influence has spread across countries.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook. Students are expected to suggest points at issue to discuss regarding the textbook in class. Students should prepare to do an academic review and give a presentation once in class.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be calculated according to the following process.
・In-class contribution (discussion etc.) 50 percent
・Presentation regarding bibliography 50 percent

MAN500F1 － 0046

経営戦略論

吉田　健二

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】
経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は、ハイフレックス授業形式で行います。対面授業をオンラインでもリアルタイムで配信します。ただし、受講者の人数や希望、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。
授業の前半では文献のレビューに努め、後半ではそれらが実際にどのように企業において応用されているのかを学生に発表してもらったり、ビデオを見たりします。その後、皆でディスカッションを行います。
授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
第２回	経営戦略の概念	経営戦略とは何か
第３回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の策定プロセス
第４回	経営理念と企業ドメイン	経営理念、企業ドメイン
第５回	外部環境分析（１）	顧客分析、競争業者分析
第６回	外部環境分析（２）	業界分析、マクロ環境分析
第７回	自社能力分析	自社能力分析
第８回	事業戦略（１）	３つの基本戦略
第９回	事業戦略（２）	競争地位別の戦略
第10回	事業戦略（３）	製品のライフサイクル
第11回	企業戦略（１）	製品・市場マトリックス
第12回	企業戦略（２）	垂直統合戦略
第13回	企業戦略（３）	PPM
第14回	経営戦略の実行	経営戦略の実行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定された部分を事前に読むこと。
発表者は、発表の準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002 年。
②沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔新版〕』有斐閣、2008 年。
より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。

【参考書】
①網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
②清水勝彦『戦略の原点』日経ＢＰ社、2007 年。
③三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
④ジェイ・バーニー、ウィリアム・ヘスタリー『[新版] 企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2021 年。
⑤マイケル・ヒット、デュエーン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 ＜改訂新版＞』センゲージラーニング、2014 年。
⑥M. E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995 年。
⑦M. E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
①②④⑤は経営戦略論のテキストで、③は 100 年の経営戦略論の流れを描いた本で、⑥と⑦は経営戦略論の古典と言われる本です。
他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
配分：クラス参加 (15%)、プレゼンテーション (25%)、レポート (60%)
評価基準：４回以上欠席した場合には、単位は与えられません。プレゼンテーションは、テキストの要約と自分の会社（組織）のケースを発表します。レポートは、自分の会社の経営戦略を分析します。詳細は、第１回目に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。また、学生の発表時間をコントロールすることなどによって、授業の時間管理に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略論
＜研究テーマ＞経営戦略の策定と実行
＜主要研究業績＞
① “Perceptions about Teamwork: An Empirical Comparison of Japanese, Mexican, and American Faculty,” Association on Employment Practices and Principles: Proceedings of the 2002 Annual International Conference, pp.14-19, 2002 (with coauthors).
② “Differences in Culture and Attitudes toward Teamwork: An Empirical Comparison of Perceptions among Chinese, Japanese, Mexican, and American Faculty,” American Society of Business and Behavioral Sciences: 2006 Proceedings, pp.136-142, 2006 (with coauthors).
③ “Work Performance and Group Harmony: An Empirical Comparison of Japanese and Other Cultural Attitudes toward Teamwork,” The 2007 International Conference in Management Sciences and Decision Making: Proceedings, pp.1-16, 2007 (with coauthors).

【Outline (in English)】
This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.
At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy and to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and to prepare for their presentation. Your required study time is at least four hours for a class.
Final grade will be decided based on in-class contribution(15%), presentations(25%) and term-end report(60%).

MAN500F1 － 0048

イノベーション・マネジメント概論

近能　善範

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。イノベーションは、われわれの生活を一変するインパクトを有するばかりでなく、企業や経済が持続的に成長していくために必要不可欠な役割を果たします。

こうしたイノベーションを実現していく上では、一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激烈な競争に勝ち残っていくためのマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、単なる技術マネジメントを超えた、組織や戦略に対する深い理解と実践が問われることになります。

そこで本講義では、こうしたイノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる組織論・戦略論の考え方や概念などを、基礎から最新の理論まで含めて幅広く身につけて、実践できるようになっていただきたいと考えています。

【到達目標】

イノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる考え方や概念などを身につけて、実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、前半に講義を行い、後半は受講生の発表と全員参加の議論を行う、という構成にする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イノベーション・マネジメントとは何か、なぜ重要なのかについて学ぶ
2	企業とは何か／組織とは何か、グループとチームのマネジメント	企業とは何か／組織とは何か、グループとチームのマネジメントについて学ぶ
3	モティベーションとインセンティブのマネジメント	モティベーションとインセンティブのマネジメントについて学ぶ
4	人的ネットワークのマネジメント	人的ネットワークのマネジメントについて学ぶ
5	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメント	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメントについて学ぶ
6	組織構造と組織デザインのマネジメント	組織構造と組織デザインのマネジメントについて学ぶ
7	組織学習と知識創造のマネジメント	組織学習と知識創造のマネジメントについて学ぶ
8	組織文化と組織変革のマネジメント	組織文化と組織変革のマネジメントについて学ぶ
9	競争戦略のマネジメント	ポジショニング戦略と資源・能力ベースの戦略について学ぶ
10	新製品開発のマネジメント	新製品開発のマネジメントについて学ぶ
11	企業間関係のマネジメント	企業間関係のマネジメントについて学ぶ
12	イノベーションのプロセス／パターン	イノベーションが、どのようなプロセスを経て、どのようなパターンを描きながら発展していくのかを学ぶ
13	イノベーションと企業の競争力	さまざまなタイプのイノベーションと企業の競争力について学ぶ
14	ビジネスモデルのマネジメント	ビジネスモデルのイノベーションについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010 年。

その他に、パワーポイントのレジュメ（毎回）、補助テキスト（適宜）、ケース（適宜）を配布します。

【参考書】

参考書は特にありません。必要があれば、講義の中で適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 下記の合計で、成績を評価する予定です。

①出席＋毎回のレポート提出（A4 で 1～2 枚程度の簡潔なもの）が 70 %

②授業内でのディスカッション参加（毎回）が 30 %

(2)3 分の 2 以上の出席を最低ラインとします。

【学生の意見等からの気づき】

タイムコントロールに注意します。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は、原則として法政大学授業支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】

上記「授業計画」に記載したスケジュールは 2021 年度のものであり、授業の詳細なシラバスは第 1 回目の講義の際に配布します。

本年度も、実施形態・計画・内容等が新型コロナ感染状況に応じて直前になって変更される可能性もありますので、予めご了承ください。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞

イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論

＜研究テーマ＞

イノベーションと企業間関係

【担当教員の主要研究業績】

1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）, 新世社, 2010 年。

2.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」,『日本経営学会誌』, 41 号, 2018 年 10 月。

3.「顧客との取引関係とサプライヤーの成果：日本自動車部品産業の事例」,『一橋ビジネスレビュー』, 65 巻 1 号, 2017 年 6 月。

4.「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」,『一橋ビジネスレビュー』, 54 巻 4 号, 2007 年 3 月。

5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」,『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002 年 3 月。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, business cases and discussions, etc.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】
Grades will be based on a total of (1) attendance + submission of reports (50%), and (2) contribution to class discussions (50%).

MAN500F1 － 0054

国際経営論

安藤　直紀

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げてしまうことが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。本講義では、この問題を考えるために必要な事項を学びます。国際経営学における伝統的な研究領域や、近年注目されている研究領域を、国際経営の理論と関連させながら学んでいきます。

【到達目標】
１．国境を越えた企業の経営活動（国際経営）を理解するために必要な理論を習得します。
２．国際経営の伝統的なトピックおよび近年のトピックを概観し、理解します。
３．理論に基づき企業の海外での事業活動を分析する能力の習得を目指します。
４．国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義の授業形態は、対面形式（ハイフレックス）とします。ですが、内容により、一部、リアルタイムオンラインでも行います。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム（Hoppii）内でお知らせします。
授業計画に示したトピックについて、ます基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連したディスカッションを行います。トピックに関連した論文を読んでもらい、それについてのディスカッションも行います。また、トピックに関連した課題やケースについて調査してもらい、報告やディスカッションを行います。
学期の中盤で、プロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果のプレゼンテーションを学期の終盤に行います。
課題の提出等は学習支援システムを通した提出と E メールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	イントロダクション	講義の概要とオリエンテーション 海外進出する日本企業が直面する課題 国際経営の研究方法
第 2 週	グローバル・ビジネス環境	海外で直面する外部環境と企業への影響
第 3 週	制度と多国籍企業	新興経済の制度、制度が多国籍企業に与える影響、制度理論
第 4 週	文化的距離	多国籍企業が海外で直面する文化の壁
第 5 週	言語の障壁	多国籍企業の本社・海外子会社間および海外子会社内での言語の壁
第 6 週	海外直接投資	海外直接投資を説明する理論、取引費用理論

第 7 週	多国籍企業のパフォーマンスと地域性	多国籍性のベネフィット、グローバライゼーションとリージョナライゼーション、国際化の程度と多国籍企業のパフォーマンス
第 8 週	エントリー戦略	エントリー・モードの類型、エントリー・モードの選択、エントリー・タイミング
第 9 週	多国籍企業の戦略	グローバル戦略、マルチドメスティック戦略、国際企業戦略と組織
第 10 週	国際提携戦略	グローバル戦略的提携の類型と形成プロセス、グローバル戦略的提携のマネジメント
第 11 週	海外子会社の人的資源管理	海外子会社の人材戦略、PCN,HCN,TCN の役割、エージェンシー理論
第 12 週	海外子会社の現地化 (1)	海外子会社の現地化の動機、日本企業の海外子会社の現地化の状況と課題
第 13 週	海外子会社の現地化 (2)	海外子会社の現地化と海外子会社のパフォーマンスの関係
第 14 週	プレゼンテーション	プロジェクトの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に課題に取り組んだり、ディスカッションの準備をしたり、資料を読んだりすることが求められます。
講義のための準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。
下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1 週　社会科学の方法論に関して調べる
2-3 週　国ごとの政治的、法的、経済的差異に関して調べる
4 週　文化の違いが企業経営に及ぼす影響について考える
5 週　言語の違いが企業経営に及ぼす影響について考える
6 週　取引費用理論に関して調べる
7 週　企業が地理的に拡大することのベネフィットについて考える
8 週　完全子会社とジョイント・ベンチャーの違いについて考える
9 週　多国籍企業の競争戦略の類型に関して調べる
10 週　国際戦略的提携の事例を調べる
11 週　エージェンシー理論に関して調べる
12-13 週　日本企業の海外子会社の人材現地化を阻害する要因に関して考える
14 週　プロジェクトのプレゼンテーションを準備する

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

【参考書】
下記に参考書を示しますが、より新しい版が出版されているものもあります。
Cavusgil, S.T., Knight, G. & Riesenberger, J.R.2008. International Business: The New Realities (2nd ed.). Prentice Hall: NJ.
Cullen, J.B. & Parboteeah, K.P. 2008. Multinational Management: A Strategic Approach. South-Western: OH.
Collinson, S., Narula, R., & Rugman, A.M. 2020. International Business. Pearson Education: Harlow, UK.
Peng M. & Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.
Shenkar, O. & Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
下記の比率で評価します。
プロジェクト： 50 %
クラスへの貢献： 50 %
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。クラスへの貢献に含まれる課題は、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

【学生の意見等からの気づき】
より高度な理論にも言及します。
理論と実務のつながりに言及します。
活発なディスカッションになるよう、モデレートします。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【その他の重要事項】
各回とも、１００分 × ２時限の連続授業です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
② Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)
③ Intra-organizational communication and its consequences. 2019. Management Decision, 57(1): 71-85. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)

【Outline (in English)】
(Course outline)
Firms that are competitive in their home country often fail overseas. This is partially because the environment of the host country, which is different from that of the home country, reduces the value of their firm-specific advantages. How should firms compete overseas?
This course introduces students to key concepts and frameworks of international business studies. It also gives an overview of recent research topics of international business studies as well as traditional ones.
(Learning objectives)
The goal of this course is to understand basics of international business studies, which include traditional and recent topics. Students are also expected to understand the theoretical foundation of international business and build skills to read academic papers. At the end of this course, students are expected to improve an ability to analyze firms' success and failure in foreign countries.
(Learning activities outside of classroom)
Students are required to read materials, complete assignments, and prepare for presentations and discussions. Time for preparatory study and review will be at least 4 hours for each class.
(Grading Criteria/Policies)
Students will be evaluated on a term project (50%) and in-class contribution (50%).

MAN500F1 － 0058

国際人事

戎谷　梓

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、多国籍企業や海外進出を目指す企業が検討・実践する必要のある人的資源管理について様々な視点から考えます。本授業を通して受講者は、人的資源管理に関する既存の知識を土台とし、国際的・多文化的な観点から人的資源の活用について深い考察を得ることができます。

【到達目標】

本授業を通して受講者は、国際人的資源管理に関する最先端の研究に触れ、「採用」「育成」「評価」「報酬」など人事の面で多国籍企業が直面する様々な課題について考察することができます。また受講者は、ドメスティックな環境と国際的な環境における人的資源管理上の相違点を理解し、異文化環境ならではの問題および問題への対処方法について深い理解を得ることができます。これにより、特定の国際的・多文化的コンテクストにおけるふさわしい人的資源管理方法について自分自身で有意義な検討を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は、国際人的資源管理に関して多角的・包括的に扱った書籍"International Human Resource Management" (Reiche et al., 2019) を教科書として輪読形式で進めます。受講者は当該教科書を各自で購入し、毎回授業前までに授業で扱う章を熟読の上、内容に基づくディスカッションに参加できるよう準備しておく必要があります。また受講者は学期中、教科書のいずれかの章に基づくプレゼンテーションを 1 度か 2 度、行うことが求められます。加えて学期末には、多国籍企業における多様性管理または多国籍企業の社会的責任に関するテーマでレポートを提出することが求められます。

なお本授業は、新型コロナウイルス・変異型ウイルスの感染リスクへ配慮し、学期を通して Zoom 会議システムによるオンライン形式で授業を実施します。初回授業の Zoom ID・パスコードは、学習支援システムに登録されているメールアドレス宛にご連絡します。本科目の履修を希望される方は 、4 月 7 日までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。

授業の受講にあたって不明な点がある場合は、以下までご連絡ください：

azusa.ebisuya.56@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業イントロダクションとクラスビルディング	授業コンセプトを説明した後、教科書を外観します。教員および受講者同士で自己紹介を行い、プレゼンテーションの担当章を決めます。
第 2 回	第 1 章：文化および異文化間マネジメント	経営における多文化の現状に対する肯定的・否定的・中間的な立場それぞれに基づいた研究を外観します。
第 3 回	第 2 章：人的資源管理における様々な比較	人的資源管理のグローバル化およびコンテクストへの配慮の重要性について議論します。
第 4 回	第 3 章：多国籍企業における国際的な雇用の実践	国境を越えた転職や、多国籍企業における効果的な多文化人材の雇用について議論します。
第 5 回	第 4 章：国際人的資源管理の様々なアプローチ	一般的な人的資源管理と国際人的資源管理を比較しながら議論し、相違点について考察します。
第 6 回	第 5 章：多国籍企業における海外派遣や出向の実践	国際的な人事や人材のモチベーション管理、海外赴任者の様々な役割について議論します。
第 7 回	第 6 章：多国籍企業と現地国要因	現地国要因を多角的に議論し、多国籍企業の現地国における効果的な振る舞いについて考察します。
第 8 回	第 7 章：グローバルな文脈における国家間の規制や政策	経営上の関係国における政策への理解の重要性と、多国籍企業経営への影響について議論します。
第 9 回	第 8 章：国際的 M&A における人的資源管理	文化的な相違が M&A パフォーマンスへ与える影響や、効果的なインテグレーションについて議論します。
第 10 回	第 9 章：国際人的資源管理のポリシーと実践	多国籍企業におけるナレッジ共有に影響を与える要因や、効果的なナレッジ管理の方法について議論します。
第 11 回	第 10 章：国際人材の育成と開発	グローバルな環境における人材トレーニングやリーダーの育成、人材開発のための海外派遣について議論します。
第 12 回	第 11 章：グローバルかつローカルな資源管理	外部労働市場の活用と内部での人事戦略について、日本、台湾、中国、ベトナムの事例から考察します。
第 13 回	第 12 章：国際的な人事評価	効果的な人材パフォーマンス管理について、中国、ドイツ、インド、日本、韓国、イギリス、アメリカの事例をもとに議論します。
第 14 回	第 13 章：国際的な文脈におけるトータルリワード	本国人材、第三国人材、現地人材へのトータルリワードの仕組みの導入やその上での障害、対処方法について議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は輪読形式で行われるため、各授業でプレゼンテーションを行う受講者はそのための準備、それ以外の受講者は章の内容に基づいたクラスディスカッションに参加できるよう、毎回事前に章全体を熟読しておく必要があります。そのため受講者には、授業の準備と復習を合わせて、毎週平均 3 時間程度の学習時間が授業外で必要となります（教科書は英語で執筆された書籍であるため、受講者の英語読解力によって必要な準備時間にばらつきが生じるものと思います）。加えて学期末には、レポート提出のため 10 時間程度の執筆時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

B. Sebastian Reiche, Anne-Wil Harzing, & Helene Tenzer (2019) "International Human Resource Management (5th Edition)", SAGE Publications Ltd.

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点： 14 %
ディスカッションへの参加： 28 %
プレゼンテーション： 28 %
期末レポート： 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はオンラインで実施するため、受講者には、授業への参加や課題の提出のため学期を通して各自のパソコンとネットワーク環境が必要となります。また使用するパソコンには、Zoom 会議システムのアプリをインストールしておく必要があります。

【その他の重要事項】

オフィスアワーで研究相談を希望する受講者は、指定の手続き（事務より別途連絡）で事前に申し込みをしてください。なお、オフィスアワーもオンラインでの対応となります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際人的資源管理
＜研究テーマ＞
多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理
＜主要研究業績＞
(1)Ebisuya, A., Sekiguchi, T., & Hettiarachchi, G. P., (2021). Narrowing the communication gap in internationally distributed teams: the case of software-development teams in Sri Lanka and Japan. Asian Business & Management. DOI: 10.1057/s41291-021-00169-9
(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., & Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring, Management International Review, 59(5): 825-853.
(3)Liu, T., Ebisuya, A., & Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. Proceedings of Academy of International Business 2019.

【Outline (in English)】
Course outline: this course is designed to provide with the opportunities to learn the highlights, challenges and problems encountered by managers and HR practitioners in the international environment. The lectures and discussions emphasize the national and cultural contexts of human resource management and provides attendees with a global understanding of employee motivation, reward systems, recruitment and selection, etc.
Learning objectives: by the end of this course, the attendees will be able to deepen their own knowledge on human resource management by applying the knowledge to the international or multicultural managerial environment. Also, the attendees are expected to be able to grasp the significance of cases of global human resource management being practiced all over the world.
Learning activities outside of classroom: the attendees are expected to read the materials for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Each attendee should prepare at least one presentation based on the assigned chapter(s). In addition, each attendee should submit a term-paper after the course ends.
Grading criteria/policy: learning attitude(14 %), discussion participation(28 %), presentations(28 %), and term-paper(30 %).

MAN500F1 － 0060

国際物流論

李　瑞雪

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ロジスティクスと国際物流に関する概論的講義です。ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの概念・理論とロジスティクス・オペレーションに関する基礎的理解と分析能力を養うことを主たる目的とします。具体的には、ロジスティクス・マネジメントとサプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する基本概念を学んだうえで、企業におけるロジスティクス・オペレーション、国際物流がどのように行われるかを検討します。

【到達目標】
企業経営におけるロジスティクス・マネジメント、ロジスティクス・オペレーション、サプライチェーン・マネジメント、国際物流に関する全般的な知見の習得を目標とします。また、ケースメソッドや現場観察などを通して、ロジスティクス実務に関わる分析能力と立案能力につながる知的基盤の形成を狙います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義方式で行いますが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。事前にレジュメやケースなど講義資料を配布し受講生の予習を求めます。また、毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（Introduction）	（1）ビジネス・ロジスティクスの定義、概念の起源と変遷 (Definition of Business Logistics, the Origin of Business Logistics and its Changes) （2）企業におけるロジスティクスの役割 (Logistics' Role in the Firm) （3）主なロジスティクス活動 (Key Logistics Activities) （4）ロジスティクス活動のトレードオフと統合 (The Trade-offs between Logistics Activities, and the Integration of Logistics Activities)、トータルコストの概念 (The Total Cost Concept) （5）ロジスティクスと企業収益の関係 (Logistics and Corporate Profit Performance) （6）経済におけるロジスティクスの重要性 (Logistics' Role in the Economy)

2	サプライチェーンマネジメント (Supply Chain Management)	（1）サプライチェーンマネジメントの定義、ロジスティクスとの相違 (Definition of Supply Chain Management, Difference between Logistics and Supply Chain Management), （2）延期戦略と投機戦略 (Postponement Strategy and Speculation Strategy) ,（3）サプライチェーンマネジメントとスピードの経済性 (Supply Chain Management and Economies of Speed, Time-to-Market Pressures)、サプライチェーンの反応性 (Creating the Responsive Supply Chain)、ERP(効率的な顧客対応) と QR(迅速な顧客反応) の概念（Concepts of Efficient Consumer Response: ERP and Quick Response: QR)、ブルウィップ効果（Bull Whip Effect）, （4）サプライチェーン・ネットワーク構造 (Supply Chain Network Structure), （5）サプライチェーン・ビジネス・プロセス (Supply Chain Business Process), （6）サプライチェーンマネジメントの経営要素 (The Management Components of Supply Chain Management), （7）サプライチェーンと競争的パフォーマンス (The Supply Chain and Competitive Performance)
3	ロジスティクス/サプライチェーンマネジメントの戦略とプランニング (Logistics / Supply Chain Management Strategy and Planning)	（1）全社戦略とロジスティクス/サプライチェーンマネジメント戦略 (Corporate Strategy and Logistics / Supply Chain Management Strategy), （2）プロセス・ベースの戦略指向、マーケット・ベースの戦略指向、チャネル・ベースの戦略指向のロジスティクス戦略 (Process-based, Market-based, and Channel-based Strategic Logistics Orientations), （3）機能的ロジスティクス戦略と外部指向のロジスティクス戦略 (Functional Logistics (FL) Strategy and Externally Oriented Logistics (EOL), （4）ロジスティクス/サプライチェーン・プランニング (Logistics / SC Planning), （5）プランニングの次元 (Levels of Planning), （6）主要なプランニング領域 (Major Planning Areas), （7）ロジスティクス/サプライチェーンの計画問題の概念化 (Conceptualizing the Logistics / SC Planning Problem), （8）戦略策定のためのガイドライン (Guidelines for Strategy Formulation)
4	顧客サービス (Customer Service)	（1）顧客サービスの定義 (Definition of Customer Service), （2）顧客サービスの要素 (Elements of Customer Service), （3）顧客サービス戦略の策定方法 (Methods of Establishing a Customer Service Strategy): トレードオフ分析とＡＢＣ分析、顧客サービス調査 (Trade-offs Analysis, ABC Analysis, and the Customer Service Audit),（4）グローバル顧客サービスの問題 (Global Customer Service Issues)
5	ケーススタディ (Case-study)	ケースを用いる受講生のプレゼンとディスカッション (Presentations and Discussion by Students using the Case-method)
6	ロジスティクス・オペレーションⅠ：在庫管理 (Logistics Operations Ⅰ: Inventory Management)	（1）在庫の機能範囲 (Inventory Functionality), （2）在庫の定義と種類 (Inventory Definitions and types), （3）在庫保持コスト (Inventory Carrying Cost), （4）在庫計画（Inventory Planning）, （5）注文管理（Order Management）, （6）ABC 分析と在庫管理（ABC Analysis and Inventory Management）, （7）ベンダー主導の在庫管理（Vendor Managed Inventory: VMI)、連続自動在庫補充（Continuous Replenishment Program: CRP)、共同計画・予測・在庫補充（Collaborative Planning, Forecasting, and Replenishment: CPFR）
7	ロジスティクス・オペレーションⅡ：輸送インフラと輸送業務 (Logistics Operations Ⅱ: Transportation Infrastructure and Operations)	（1）リンク、ノード、モード、キャリア（Link, Node, Mode, Carrier）, （2）輸送モードとモーダルシフト（Transportation Mode and Modal Shift）, （3）輸送規制（Transportation Regulation）, （4）輸送サービス（Transportation Service）：混載（Freight Consolidation）, 複合輸送（Intermodal Transportation）, 運賃構造（Freight Cost Structure）, 船荷証券（Bill of Lading）, ロジスティクス業務統合（Logistical Integration）, 宅配便（Door-to-door Parcel Delivery and Express Courier）, サードパーティロジスティクス（Third Party Logistics: 3PL）, （5）輸送管理システム（Transportations Management System: TMS）, （6）国際輸送（International Transportation）

8	ロジスティクス・オペレーションⅢ：保管 (Logistics Operations Ⅲ: Warehousing)	（1）保管施設の種類（Types of Warehousing Facility），（2）保管機能と保管業務（Warehousing Functions and Warehousing Operation），（3）自社倉庫と営業倉庫（Private Versus Public Warehousing），（4）ダブル・トランザクション・システム（Double Transaction System: DTS），（5）倉庫管理システム（Warehouse Management System: WMS），クロスドッキングとミルクラン（Cross Docking and Milk Run），（6）倉庫の統廃合（Warehouse Consolidation），（7）バイヤーズ・コンソリデーション（Buyer's Consolidation），（8）保管サービスと物流金融（Warehousing and Asset-based Loan (ABL)）
9	ロジスティクス・オペレーションⅣ：包装と荷役 (Logistics Operations Ⅳ: Packaging and Materials Handling)	（1）包装の機能（Functions of Packing）: Marketing and Logistical,（2）包装材料の選択（Selection of Packing Materials），（3）ユニットロードシステム、パレッチゼーション、コンテナリゼーション（Unit-load System, Palletization, Containerization），（4）荷役活動（Materials Handling Activities），（5）荷役機器（Materials Handling Equipment），（6）デザイン・フォ・ロジスティクス（Design For Logistics）
10	ケーススタディ（Case-study)	ケースを用いる受講生のプレゼンとディスカッション (Presentations and Discussion by Students using the Case-method)
11	製造戦略と調達戦略 (Manufacturing Strategies and Purchasing Strategies)	（1）生産戦略の類型 (Types of Manufacuring Strategies)、（2）マスカスタマイゼーション (Mass Customization)、（3）生産工程の基本タイプ (Basic Manufacturing Processes)、（4）製品・工程マトリックス (Product/Process Matrix)、（5）生産性ジレンマ (Productivity Delemma)、（6）４つの調達方式 (Four Procurement Approaches)、（7）TCO の最小化 (Lowest Total Cost of Ownership)、（8）調達戦略のマトリックス (Purchasing Strategies Matrix)
12	ロジスティクス組織（Logistics Organization）	（1）効果的なロジスティクス組織の重要性（Importance of an Effective Logistics Organization），（2）ロジスティクス組織構造の多様性（Various Types of Logistics Organizational Structures），（3）ロジスティクス組織の有効性に影響する要素（Factors That Can Influence the Effectiveness of a Logistics organization），（4）ロジスティクス人材の育成問題（Training Issues related to Logistics Personnel）
13	グローバル・ロジスティクス（Global Logistics）	（1）海外市場進出の戦略形態（International Market Entry Strategies），（2）グローバル市場における制御不可能な要素（Uncontrollable Elements in the Global Marketplace），（3）輸出活動に関わる事業者（Organizations involved in the exporting activities），（4）貿易条件（Terms of Trade）、インコタームズ（INCOTERMS），（5）主要国の国際物流パフォーマンス指標（Logistics Performance Index (LPI) of Each Main Countries ），（6）グローバル企業のロジスティクス・マネジメント（Logistics Management of Global Companies），（7）世界主要地域のロジスティクス特徴（The Foundation of Logistics System in Major Geographic Regions）（8）主要新興国の物流環境（The Logistical Environment of Major Emerging Economy Countries,（9）モード選択の戦略（The Strategies of Mode Selection），（10）新興国市場におけるロジスティクス要素技術の導入戦略（The Strategies on Employing Logistics Technologies），（11）基礎的キャパシティの確保と独自の高度な能力構築のジレンマ（The Dilemma between Ensuring Basic Logistics Capacities and Building Own Advanced Capabilities），（12）機能的なロジスティクス戦略と外部指向型のロジスティクス戦略の組み合わせ（Mixed Strategy of FLS & EOS）
14	総括ディスカッション、質疑、期末テスト（Sum-up Discussion, Q&A, Term-end Examination）	総括ディスカッション、質疑、期末テスト（Sum-up Discussion, Q&A, Term-end Examination）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの予習、復習を行います。ケーススタディの発表とディスカッション問題のために、事前に報告資料を準備します。指定リーディング内容を読んでおきます。

【テキスト（教科書）】
『業界別　物流管理と SCM の実践』ミネルヴァ書房（2022 年）

【参考書】
Global Logistics and Supply Chain Management, 4th Edition, John Mangan, Chandra Lalwani, Agustina Calatayud, Wiley, 2021
The Handbook of Logistics and Distribution Management: Understanding the Supply Chain, 7th Edition, Alan Rushton, Phil Croucher, Peter Baker, Kogan Page, 2022
Logistics Management and Strategy: Competing through the Supply Chain, 6th Edition, Alan Harrison, Pearson, 2019
E-Logistics: Managing Digital Supply Chains for Competitive Advantage, 2nd Edition, Yingli Wang, Stephen Pettit, Kogan Page, 2021.
Supply Chain Logistics Management,5th Edition, Donald Bowersox, David Closs, M. Bixby Cooper, McGraw Hill, 2019.

【成績評価の方法と基準】
基本的に講義方式で行うが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定し、予習・復習を求めます。プレゼンテーション (20%)、ディスカッション (20%)、期末テスト (60%) を総合して成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替えが速いとか、リーディング資料が多すぎるとかいった意見がありました。受講生の理解度を確認しながら、適宜スピードを調整していきます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論
＜研究テーマ＞新興国市場におけるロジスティクス戦略、中国物流産業の高度化など
＜主要研究業績＞
①『中国物流産業論―高度化の軌跡とメカニズム―』白桃書房、2014 年.
②『日本企業物流与供応鏈管理案例精選』中国財富出版社、2013 年.
③「ロジスティクス戦略論の再検討：新興国市場におけるロジスティクス戦略の理論枠組みに関する予備的考察」『経営志林』(ISSN 0287-0975) 第 49 巻第 4 号,pp.29-47.
④『変わる中国変わらない中国』全日出版、2003.

【Outline (in English)】
This course deals with logistics management and supply chain management. The main aim is to help students acquire basic knowledge and analytical ability regarding the theories and frameworks of logistics/supply chain management and operations. At the end of the course, students are expected to have basic abilities to plan and analyze logistics/supply chain strategies, organizations, and operating systems based on knowledge acquired from this course. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and handout uploaded on the HOPPII system. During each class meeting, students will be welcomed to contribute to the discussion and Q&A. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Presentation: 20%, Contribution in class: 20%.

MAN500F1 － 0061

国際会計論

松井　泰則

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日のグローバル資本市場における開示制度の中で、財務会計にかかわる高度な知識と技術を理解したうえで、国際連結財務諸表を正しく読み取ることができるようにすることを目的とする。特に連結財務諸表の仕組みと、IFRS の構造上の概念を正しく理解していくことに重点を置く。また、簿記ならびに会計の歴史は、今日の国際会計を理解する上で不可欠な教養であることから、その概要は理解しておく必要がある。

【到達目標】
国際資本市場での財務会計上の基本的な概念を理解することにより、国際的な（具体的には IFRS のもとでの）会計利益計算の考え方を理解する。そのために、IFRS ならびに ASBJ 基準において重要とされる財務会計基準を取り上げ各会計処理について理解を深めていきたい。特に議論の過程では、単なる会計処理的な計算的な問題としてではなく、その基底にある資産概念あるいは利益概念などの会計概念を正しく把握したうえで理解することが重要である。こうした今日の財務会計の仕組みに対して、会計の有する本質的な課題を念頭に置いて理解できるようにすることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
IFRS ならびに ASBJ 基準に関して、重要な財務会計基準を取り上げ議論を深めていく。具体的には、まずは講義の前半では、財務会計における基本財務諸表（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結キャッシュ・フロー計算書）についての理解を中心に学習を進めていく。続く後半では、IFRS に規定される重要な基準について講義形式で理解を深めていく。最後に総括として、今日のグローバル資本市場と企業財務会計との関連性について将来を展望しながら、国際的視点からその課題を探っていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	An Introduction to Financial Statements	今日の国際資本市場における財務諸表の役割と今後の展望。
第 2 回	The Balance sheet	貸借対照表に関して、資産・負債・純資産のそれぞれの概念に対する理論的考察。
第 3 回	The Income Statement	利益計算に関して、新しい利益概念としての包括利益に対する理論的考察。
第 4 回	The Statement of Cash Flows	キャッシュ・フロー計算書の仕組みと読解。
第 5 回	How the Financial Statements Relate to Each Other	基本財務諸表間の連関についての考察と実務上のポイント。
第 6 回	Generally Accepted Accounting Principles and International Financial Reporting Standards(IFRS)	主要各国の会計基準：英米型会計基準 vs 独仏型会計基準。国際財務報告基準の概要。

第 7 回	4 Accounting Standards in Japan	４つの会計基準。 日本基準 IFRS JMIS SEC 基準
第 8 回	Accounting History and International Accounting	簿記の歴史と会計基準の発達史。利益計算構造に関する学説的分析。
第 9 回	Conceptual Framework on IFRS	資産負債アプローチ vs 費用収益アプローチ。 IFRS における利益概念と計算構造。
第 10 回	IFRS 1	主に貸借対照表に関連する会計処理を中心に、各会計基準を理解・究明する。
第 11 回	IFRS 2	主に損益計算書に関連する会計処理を中心に、各会計基準を理解・究明する。
第 12 回	IFRS 3	その他、連結財務諸表作成上、重要と思われる特殊かつ重要な会計基準を理解・究明する。
第 13 回	Multinational Enterprise in International Capital Market	多国籍企業会計と今日の経済取引：金融商品取引と経済価値の変動と会計測定.
第 14 回	Wrap-up	今日の財務会計の意義と抱えている限界、そして将来への展望.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
基本的に簿記・会計の基礎知識を習得していることを本講義の受講前提としている。そのレベルについては必ずしも高いレベルを要求するものではないが、各自において日々そのレベルアップを図ってほしい。

【テキスト（教科書）】
様々なテーマについて議論することから、毎回の講義中に必要な資料等を配布し講義を進めていくので、授業テキストとしての特定の書籍の使用予定はない。必要な場合あるいはテーマによっては適宜、授業中において著書や論文等を紹介していく。その際、配布資料に活用した引用文献については詳細に明示する。

【参考書】
必要な場合あるいはテーマによっては適宜、授業中において関連する著書や論文等を紹介していきたい。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60 点、レポート課題（小レポート・期末レポート合計）40 点

【学生の意見等からの気づき】
会計学は、簿記など専門的要素の強い学問であり、したがって一方的な講義形式になりがちだが、可能な限り理解しやすいように心がけて講義を行っていくつもりである。このためにも学生からの質問や要望も受けやすいオープンな雰囲気つくりを心がけるとともに、学生からの質問に対しては、その都度、耳を傾けながら進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業を基本とするので普段は特に必要とするものはないが、パワーポイント等による発表などの時はそれなりの準備が必要である。

【その他の重要事項】
本講義の担当教員（松井泰則）は会計関連の試験委員担当等の経験を有することから、会計学を学習する際の重要な論点となる理論ならびに計算についての学習アドバイスも行っていきたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際会計論
＜研究テーマ＞
IFRS
＜主要研究業績＞
各国比較会計制度論

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to enable students to correctly read international consolidated financial statements with an understanding of advanced knowledge and techniques related to financial accounting in today's global capital market disclosure system. Lectures will focus particularly on understanding the structure of consolidated financial statements and the structural concepts of IFRS. In addition, the students will understand the history of bookkeeping and accounting, which is indispensable for managing today's international accounting. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
In class contribution: 60% , Short reports : 40%

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

西川　真規子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

西川　真規子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

奥西　好夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

奥西　好夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

長岡　健

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

長岡　健

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

小川　憲彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）
The goal of this seminar is to write a superior master thesis on HRM (which includes OB, HRD, or Organization theories).
You need to:
(1) read extensively and also understand, sort, organize, and constructively critique previous studies concerning your theme,
(2) set adequate research questions based on critical literature review on the subject you study,
(3) design an empirical study including deciding the research method, data type, ways to analyze, and proposing an analytical framework consist of hypotheses,
(4) select and find a research target suitable for your theme and questions
(5) implement research practices
(6) document and report the results as a master thesis.
Although we also accept theoretical studies as well as empirical studies, studies using your own resources such as an affiliation you work for and/or workplace would be suitable for night-course students who have a lot of hands-on working experiences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。
A seminar for one or a small number of students is usually opened on Saturday or weekday nights in accordance with study progress, schedule, available time before the due date of the master thesis, and others.
The method of instruction depends on the number of students, instruction policy, methodology used, and others. The format for conducting the class (in person, online, or hybrid of them) also depends on situations such as COVID-19.
Note: It is mandatory for students in the HRM course to attend and give presentations at both regular course meetings in early April and September. There will be opportunities, not only to receive advice from various professors in our course, but to recognize your progress compared to other students, and to reconsider your research from new points of views or alternative approaches.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。
Although it is obvious to read articles and publications designated by your instructor, you should read previous studies or other related documents spontaneously and initiatively. Studying analytical methods by yourself is also encouraged.

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 4 割、修士論文の評価 6 割で総合的に評価します。
Your overall grade in the seminar will be decided on (1) attendance and attitude, assignments, progress reports, and others in seminar (40%), and (2) the manuscript of your master thesis (60%).

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
対面の場合はクラス人数分の報告資料。オンラインの場合は電子データで事前送付。特に見てほしい長文があれば１週前を目途に送付することが望ましい。

【Outline (in English)】
The purpose of this seminar is to learn fundamentals needed for academic studies. Academic or scientific studies are meant to add something new to a knowledge system in a certain field. You need to utilize existing knowledge of your study field (i.e., previous studies including theories) to know what something new is in the field. Accordingly, you have to independently explore, read, summarize, and constructively critique articles concerning your theme, which should be premised for academic studies, and to find room for academic contributions (adequate research questions). In this seminar, you will acquire instruction, advice, and suggestions for advancement of your study.

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

小川　憲彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。
The purpose of this seminar is to learn fundamentals needed for academic studies. Academic or scientific studies are meant to add something new to a knowledge system in a certain field. You need to utilize existing knowledge of your study field (i.e., previous studies including theories) to know what something new is in the field. Accordingly, you have to independently explore, read, summarize, and constructively critique articles concerning your theme, which should be premised for academic studies, and to find room for academic contributions (adequate research questions). In this seminar, you will acquire instruction, advice, and suggestions for advancement of your study.

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）
The goal of this seminar is to write a superior master thesis on HRM (which includes OB, HRD, or Organization theories).
You need to:
(1) read extensively and also understand, sort, organize, and constructively critique previous studies concerning your theme,
(2) set adequate research questions based on critical literature review on the subject you study,
(3) design an empirical study including deciding the research method, data type, ways to analyze, and proposing an analytical framework consist of hypotheses,
(4) select and find a research target suitable for your theme and questions
(5) implement research practices
(6) document and report the results as a master thesis.
Although we also accept theoretical studies as well as empirical studies, studies using your own resources such as an affiliation you work for and/or workplace would be suitable for night-course students who have a lot of hands-on working experiences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。
A seminar for one or a small number of students is usually opened on Saturday or weekday nights in accordance with study progress, schedule, available time before the due date of the master thesis, and others.
The method of instruction depends on the number of students, instruction policy, methodology used, and others. The format for conducting the class (in person, online, or hybrid of them) also depends on situations such as COVID-19.
Note: It is mandatory for students in the HRM course to attend and give presentations at both regular course meetings in early April and September. There will be opportunities, not only to receive advice from various professors in our course, but to recognize your progress compared to other students, and to reconsider your research from new points of views or alternative approaches.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。
Although it is obvious to read articles and publications designated by your instructor, you should read previous studies or other related documents spontaneously and initiatively. Studying analytical methods by yourself is also encouraged.

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 4 割、修士論文の評価 6 割で総合的に評価します。
Your overall grade in the seminar will be decided on (1) attendance and attitude, assignments, progress reports, and others in seminar (40%), and (2) the manuscript of your master thesis (60%).

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
対面の場合はクラス人数分の報告資料。オンラインの場合は事前に電子データの送付。長文を見てほしい場合は 1 週間前には電子メールで送付しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
The purpose of this seminar is to learn fundamentals needed for academic studies. Academic or scientific studies are meant to add something new to a knowledge system in a certain field. You need to utilize existing knowledge of your study field (i.e., previous studies including theories) to know what something new is in the field. Accordingly, you have to independently explore, read, summarize, and constructively critique articles concerning your theme, which should be premised for academic studies, and to find room for academic contributions (adequate research questions). In this seminar, you will acquire instruction, advice, and suggestions for advancement of your study.

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

岸　眞理子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

岸　眞理子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

佐野　嘉秀

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

佐野　嘉秀

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

戎谷　梓

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

戎谷　梓

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN500F1 － 0067

人的資源管理論

佐野　嘉秀

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人的資源管理の基本的な考え方を学ぶとともに、個別の人的資源管理の分野、すなわち雇用区分、社員格付け、採用、教育訓練、配置転換、昇進、人事評価、賃金管理、福利厚生等について、主要な議論を把握する。また、そうした知見にてらして、参加者は、各人の身近にある企業や職場の事例をとりあげ、対応する実態や課題について報告・議論する。これらを通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人事管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としたい。

【到達目標】
①人事管理論の対象領域の広がりと基本的な考え方を知る。②人事管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。③以上を踏まえ、身近な事例について考察する視点を得る。④人事管理に関連する論文について批判的に検討する視点を得る。⑤修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業時間（月曜 6 限・7 限）に対面ないしリアルタイムのオンライン授業を行います。授業は、①人的資源管理論の基本的な理論・考え方・議論に関する講義と、②参加者による課題文献・事例の報告とディスカッションによる演習を組み合わせて進めます。できるだけ毎回、講義形式の部分に加えて、演習の部分があるようにし、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・ディスカッションの準備が課題となります。授業内容に関するおよそのスケジュールは下記（授業計画）のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：人的資源管理の考え方と「理論」	人的資源管理の機能と担い手、「伝統的」人事管理と人的資源管理（ＨＲＭ）のちがいや「理論」について学ぶ
第 2 回	雇用区分の多様化と人材ポートフォリオ	雇用区分の多様化の現状、人材ポートフォリオの理論について理解する
第 3 回	雇用区分の設計とキャリア管理	異なる雇用区分のあいだの仕事・キャリアの設計、雇用区分間の転換の仕組みについて考える
第 4 回	社員格付け制度の機能と多様性	社員格付け（等級）制度にもとめられる用件、格付け基準の多様性について理解する
第 5 回	社員格付け制度の変化と「成果主義」	「能力主義」および「成果主義」のもとでの社員格付け制度の特徴と合理性について考える
第 6 回	労働市場の変化と採用	採用の前提となる労働市場の変化について理解する、育成（make）か採用（buy）かの選択およびＲＪＰの理考え方について検討する
第 7 回	人的資源管理のなかの人材育成（ＨＲＤ）	人的資源管理のなかの人材育成の位置づけ、教育訓練の機能、配置転換の人材育成機能について理解する
第 8 回	人的資源管理の変化と人材育成	「投資」としての教育訓練の性格、変化する人的資源管理のもとでの配置転換・教育訓練について考える
第 9 回	昇進管理の機能と多様性	昇進の機能、国際的にみた日本の昇進管理の特徴、早期のエリート選抜について考える
第 10 回	昇進管理の変化と専門職制度	「フラット化」・高齢化のもとでの昇進の課題、専門職制度について検討する
第 11 回	変化のなかの賃金管理	賃金管理の基礎、「成果主義」化のなかでの賃金管理の特徴、雇用区分間の均衡処遇について考える
第 12 回	評価制度の課題と福利厚生	人事評価制度の課題のほか、福利厚生に関する近年の変化について考える
第 13 回	まとめ：人的資源管理の変化とライン・マネジャーの役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでのラインマネジャーの役割 (人事部門との連携関係) について総括的に検討する
第 14 回	まとめ：人的資源管理の変化と人事部門の役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでの人事部門の役割 (ライン・マネジャーとの連携関係) について総括的に検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各回のテーマに関連する課題の論文を授業内に提示します。受講者は、事前に論文を読んで、論点を把握し、疑問点やコメントを考えて授業にのぞんでください。それをもとに授業内で議論し、テーマに関する理解を深める予定です。また、各回について、1～2 名程度の代表者に課題論文についてのレジュメ作成を行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】
テキストはとくに設定しません。学習支援システムに掲載するパワーポイント資料（PDF 形式にて配布）をもとに授業を進めます。

【参考書】
①日本労働研究雑誌（　http://www.jil.go.jp/institute/zassi/　）
②佐野嘉秀『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会
③今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（第３版）』日本経済新聞社

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（20 点）、文献・事例の報告（30 点）、議論への貢献（30 点）、最終レポート（20 点）
授業への参加度、報告の担当回での報告内容のほか、授業内での議論への貢献度を評価します。最終的には、各自の問題関心に即した人的資源管理に関するレポートを提出してもらいます。以上を総合して最終的な評価を判定します。

【学生の意見等からの気づき】
人事管理の基礎に関する体系的な講義編成、学習支援システムによる配布資料の共有、参加者の実務を踏まえたディスカッションなど、高く評価していただいている本授業の良さを大事にしたいと思います。

【その他の重要事項】
授業で利用するパワーポイント資料は、学習支援システムにて事前に入手できるようにします。適宜、プリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞人的資源管理・産業社会学
＜研究テーマ＞雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携 等
＜近年の主な業績（市販書籍のみ）＞
①『英国の人事管理・日本の人事管理－日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会、2021 年

②「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一編『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣、2014 年
③「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子編『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房、2012 年
④『実証　日本の人材ビジネス－新しい働き方と人事マネジメント』（共編著）日本経済新聞社、2010 年
⑤「非典型雇用の人材活用－非典型雇用の仕事とその割り振り」佐藤博樹編『人事マネジメント』ミネルヴァ書房、2009 年
⑥「『成果主義』先進企業の変革」（共著）中村圭介・石田光男（編）『ホワイトカラーの仕事と成果』東洋経済新報社、2005 年

【Outline (in English)】
【Course outline】
Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system. We are to focus on each area of HRM system respectively. Wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM. Both lecture and discussion is expected. Students are supposed to participate in the discussion actively. Making presentation is also required.
【Learning Objectives】
(1) To understand the breadth of the subject area and basic concepts of human resource management theory. (2) To understand the basic theories and discussions on individual areas of human resource management. (2) To understand the basic theories and debates on individual areas of human resource management (3) To learn how to consider familiar cases based on the above (3) To understand the basic theories and discussions on individual fields of human resource management (4) To learn how to critically review articles related to human resource management (5) To obtain hints for the theme of research for the master's thesis, etc.
【Learning activities outside of classroom】
A paper on an issue related to the theme of each session will be presented in class. Students are expected to read the papers in advance, understand the issues, and come to class with questions and comments. These will be discussed in class to deepen understanding of the topic. For each session, one or two representatives will be asked to prepare resumes for the assigned papers. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Participation in class (20 points), reports on literature and case studies (30 points), contribution to discussions (30 points), final report (20 points)
Students will be assessed on their participation in the class, the quality of their reports in the sessions for which they are responsible, and their contribution to the discussions in the class. At the end of the course, students will be asked to submit a report on human resource management that is in line with their own problematic interests. The final evaluation will be based on the above factors.

MAN500F1 － 0069

キャリアマネジメント論

小川　憲彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアに関する基本的な考え方・理論を学ぶことを目的とします。理論と受講者自身や他の受講生のキャリア事例とを照らし合わせることで、自身のキャリアの展望を考える機会を提供します。

【到達目標】
授業を終えた段階で学生に期待するのは以下三点です。
①キャリアに関する主要理論を知っており、それら理論間の関係、発展のあり方を理解している
②個別具体の事例を理論と照らし合わせて、理論の意義や限界を考えることができる
③理論を参照しながら受講生自身のキャリア展望・開発を自律的に考えることができる
Students who complete the course will be expected to:
(1) recognize and recall major career theories and explain relationships among them or the developmental process of those theories,
(2) describe theoretical and practical contributions and limitations of each theory by applying the theories to your own and others' concrete examples of career history,
(3) reflect your own career history and consider prospects for your career development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
クラスの前半では、キャリアに関する諸理論の講義を行います。その中で適宜、課題や課題を踏まえた受講者同士の意見交換・共有の場を設ける予定です。
クラスの後半は、受講者自身のキャリアに関する事例報告とこれに基づく意見交換を行う予定です。
ただし、受講人数によって発表時間や形式は変更がありえます。授業内容のおおよそのスケジュールは下記の通りですが、進捗状況や参加者人数等によって順序や内容の大幅な変更もありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義方針や参加ルールの説明、発表順などを決めるので参加は必須です。
2	キャリア論の性質	経営学におけるキャリア論の位置づけについて
3-4	職業の決定①	社会学的職業決定の理論
5-6	職業の決定②	心理学的職業決定の理論
7-9	キャリア発達の理論	ライフサイクル論
10	キャリアの移行期	キャリア・トランジション論
11	キャリア初期	組織社会化、LMX、キャリア・ツリー
12-13	キャリア中期・後期	キャリア・プラトー、リタイアメント
14	近年のキャリア論	偶発性、構成理論等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回、その場で記入する課題と、次回までに準備する課題があります。いわゆるレポートも数回予定しています。事前に指示された本や論文（英文を含む）を読んできてもらうこともあります。最大の課題は、各自のキャリアについての発表準備です。

Readings, short reports, and other assignments that include reaction papers may be given before and after each class. In addition, you should give oral presentations on your own career using the materials you prepare (50 to 100 minutes).

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。

Not specified.

【参考書】

Greenhaus,J.H.,Callanan,G.A.,& Goldshalk,V.M.(1999). Career Management 3rd. Orlando,FL: Harcourt.

Gunz,H.&Peiperl,M.eds.(2007). Handbook of Career Studies. Thousand Oaks, California:Sage.

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。

エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で総合的に評価します。

講義への参加:50 点

・出席や発言の頻度、議論への参加度や貢献度、課題の質など

・担当回における報告内容や資料・準備の度合い・質、提出物や質疑応答の内容等

レポート： 50 点

内容、形式、論理性、期限など

（レポート内容は講義内で指示します）

Your overall grade in the class will be decided on (1) attendance, contribution, and attitude in class (50%) and (2) assignments, reports, and career presentation (50%).

【学生の意見等からの気づき】

スケジュールは昨年度のものであり、受講者数等によって講義内容や方法は変わることがあります。それらを理解したうえで参加して下さい。

また、科目履修生の方等も資料等の配布や連絡に授業支援システムを使いますので必ず登録し、適宜チェックして下さい。その方法は大学院事務で事前に確認しておいて下さい。

システムが使えない場合や緊急連絡は以下にメールしてください。

nogawa ■ hosei.ac.jp （■を@に変換）

【学生が準備すべき機器他】

対面の場合は、配布用に発表資料など人数分印刷して臨んで下さい。オンラインの場合は事前にメールで送ってください。授業支援システム経由で学生に配布されます。

【その他の重要事項】

・履修者は、初回講義での説明内容を踏まえ、これに同意したとみなします（初回講義の参加の有無は加味しませんので各自でフォローして下さい）。

・経営学研究科でのキャリア論という性質上、組織という文脈を前提とした議論が多いため、組織での仕事経験がない方にはあまり適したものではないかもしれません。それを踏まえて参加して下さい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

経営管理論、組織行動論

＜研究テーマ＞

組織社会化、組織文化、人材採用等

＜主要研究業績＞

・Norihiko Ogawa, Osato,D. & K.Takahashi (2015) “Criteria for Screening Job Applicants in Japanese Companies: Policy Capturing Approach,”Journal of Academy of Business and Economics,Vol.15 (1), pp.101-109.

・Norihiko Ogawa, Takahashi,K. & D.Osato (2014) “The Empathetic Sorting Technique: Measuring Corporate Culture by Sorting Illustrated Value Statements” Business Studies Journal, Vol.6, pp.81-103.

・小川憲彦 (2013)「人材育成方針がもたらす若手従業員への影響」金井壽宏・鈴木竜太編著『日本のキャリア研究組織人のキャリア・ダイナミクス』白桃書房，第Ⅲ部第 6 章, 169 - 196 頁.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn career theories and the relationships among theories. You are expected to participate in class discussions actively as well as to reflect your own career using theoretical tools and approaches.

MAN500F1 － 0070

人事制度論

奥西　好夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、人事制度を設計、運用、評価するために必要な基礎理論（ミクロ経済学、社会心理学など）をまず簡単に学んだ上で、採用、訓練、昇進、賃金、人事評価、退職・定年、職務設計など人事制度の各パーツについて学ぶ。さらに、各パーツ相互の補完性を強調する戦略的、システム的なモノの見方、考え方を学ぶ。

【到達目標】
現実の人事制度が運用面も含めて、「どうなっているのか」、「なぜそうなっているのか」、そして（いっそう難しいことだが）「どうしたらもっとよくなるのか」を、自ら考え、理解し、提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
大きく「基礎理論」（①～④回）、「各論」（⑤～⑫回）、「応用」（⑬～⑭回）の 3 部からなる。「基礎理論」の授業は講義中心に行う。「各論」、「応用」の授業は、原則として、講義と受講者による報告・討論を合わせて行う。報告のノルマ、分担等については、受講者数や受講者の希望を勘案して決める。報告者は要点を記した簡単なハンドアウトを用意すること。
また、これらとは別に、学期末に各人の研究報告をレポートとして提出してもらう。この最終レポートは、受講者が本講義で学んだことの成果を総括するものとして、重要な位置を占める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	人事制度論の概要	・人事制度論の概要 ・関連領域、方法論の紹介
②	個人の行動原理	・経済合理性 ・経済非合理性 ・不完全情報
③	取引の効率性	・効率性 ・取引費用 ・コースの定理
④	組織の公正性、人々の福祉	・さまざまな公正観 ・組織内公正性 ・いくつかの福祉指標
⑤	雇用関係と労働市場	・雇用関係の特徴 ・内部労働市場論 ・雇用関係の経済モデル
⑥	雇用形態・区分の多様化	・日本の現状と国際比較 ・背景と理論 ・政策課題
⑦	採用・退職・定年	・採用量・質の決定 ・効率的な離職理論 ・定年制の理論と実際
⑧	人的資本と訓練	・一般訓練と特殊訓練 ・OJT とキャリア
⑨	昇進	・昇進の機能 ・トーナメント、アップ・オア・アウト ・キャリア・コンサーンズ
⑩	人事評価	・人事評価の目的 ・評価者 ・評価項目・方法 ・結果のフィードバック
⑪	賃金	・賃金決定要素 ・賃金水準・格差 ・賃金プロファイル ・福利厚生
⑫	職務設計	・職務設計の重要性 ・職務設計のポイント
⑬	多様性管理	・背景と内容 ・日本の現状と課題 ・ケースと理論
⑭	雇用モデルの多様性と変化	・高コミットメント HRM ・日本的雇用慣行の現状と評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
単一のテキストは特に用いない。各回の講義内容のレジュメ、一部の参考文献は、原則として Hoppii を用いて事前に配付する。

【参考書】
講義全体にわたる参考書として、次の文献がある。ただし、講義ではこれらの逐語的な解説をする予定はなく、各自購入する必要は必ずしもない。
①ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』（NTT 出版、1997 年）
②ラジアー、ギブス『人事と組織の経済学 実践編』（日本経済新聞出版社、2017 年）
③ Baron, James N. and David M. Kreps. Strategic Human Resources（John Wiley and Sons, 1999）
なお、日本の人事制度に関する副読本として、守島基博・大内伸哉『人事と法の対話』（有斐閣、2013 年）、海老原嗣生・荻野進介『人事の成り立ち』（白桃書房、2018 年）を挙げておく。

【成績評価の方法と基準】
全講義のうち出席が半分に満たない場合は、自動的に「未受講扱い」とする。成績評価は、授業参加（30%）、口頭報告（20%）、最終レポート（50%）に基づく。最終レポートの評価は、【授業の到達目標】で掲げた 3 つの目標（「どうなっているのか」、「なぜそうなっているのか」、「どうしたらもっとよくなるのか」を、自ら考え、理解し、提案する力）がどの程度達成されているかで判断する。

【学生の意見等からの気づき】
過去の経験では、内容が難しいとの評価が比較的多い。そこで、四則演算を超える数学は一切用いず、抽象的な概念は身近な実例を交えて説明するなどの努力をしているが、不明な点はぜひ積極的に質問して欲しい。率直で気軽な質問こそ、対面授業のメリットの一つと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii を授業外でのコミュニケーション・ツールとして多用するので、事前にシステムに授業登録するとともに（事務上の履修登録とは別であることに注意）、各自の連絡先メールアドレスも登録すること。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　労働経済学、人事制度論
＜研究テーマ＞　人事制度、労働市場の統計分析、国際比較。特に雇用形態、賃金格差など。
＜主要研究業績＞下記サイトを参照されたい。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001419/profile.html

【Outline (in English)】
First, students study basic theories such as microeconomics and social psychology which are required to design, practice and evaluate HR policies. Then, they learn various aspects of HR policies such as hiring, training, promotion, wages, performance evaluation, separation, and job design. Furthermore, they learn strategic or systematic views to synthesize the above various aspects which may well be complementary each other.
It is required that students make a presentation and submit a report on a topic which is relevant to this course.

The grade of this course depends on class participation (30%), the presentation (20%), and the report (50%).

MAN500F1 － 0071

労働市場論

藤本　真

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、日本の労働市場の構造と現状について、制度的なアプローチから解明していきます。ここでいう「制度」とは、政府が法律などを通じて管理しつつ、求人者と求職者そして仲介者ら市場関係者の日々の参加によって作り上げられていく労働力需給調整システムを意味します。
現実の労働市場は、単純なマーケットメカニズムによって構造化されるものでは決してなく、その国・地域の社会・文化や政治・経済が色濃く反映され組み上げられた「制度」から数々の制約を受けつつ、長い経緯を経て形成されてきた社会システムであるからです。具体的には、職業紹介、労働者派遣、求人広告などの「制度（事業システム）」を舞台に、それらの事業マーケット担当者（公的機関の職業相談担当者や人材紹介コンサルタントなど）の目線を加えながら、その市場の構造と規模、法の規制と経緯、需給（求人者と求職者）双方の動向、情報化・国際化・高齢化の影響などについて検討していきます。

【到達目標】
現在、日本も含め、多くの先進諸国において労働市場は、政府の法制度によって管理されています。日本の政府はこれまで、日本の労働市場に対してどう関与してきたのか、そしてその関与によって現在のマーケットがどう動き、経済社会の変化とともに今後どこへ向かおうとしているのか。授業の到達目標は、こうした労働市場に関する洞察力を向上させることにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
１．本授業は、対面型授業として、実施します。
２．第１回から第３回までは、この授業の進め方などに関するイントロダクション、ガイダンスと、労働市場および日本の労働市場についての基本的な枠組みに関する講義を実施します。
３．第４回目以降は、日本の労働市場に関わる個別のテーマを取り上げ、そのテーマについての「講義」（６時限目）と「演習」（７時限目）を行ないます。
４．「講義」では、各回のテーマに関連して、これまでの傾向や近年の変化の動向、生じている課題や新たに進められている取り組みについてトピックを整理し、そのテーマに関する基本的な理解の促進を目指します。
５．「演習」では、各回のテーマに関連して、現状と課題及び個人的な問題意識をまとめた参加者作成のレポートの報告に基づき、ディスカッションを行います。
６．授業で取り上げる予定の個別テーマとしては、「授業計画」に挙げたものや、以下のようなものを考えています（「授業計画」には、2021 年度の授業で取り上げたテーマとそのテーマに関わるトピックを、取り上げた順に記しています）。今年度の授業で実際に取り上げるテーマと順番については、第２回のガイダンスの際に参加者の皆さんと協議の上、決定します。
＜取り上げる個別テーマの例：「授業計画」に挙げたもの以外＞
〇高卒・大卒の新卒労働市場
〇公共職業訓練とキャリア形成支援の諸政策
〇非正規化の進展と格差対策
〇就職・キャリア形成困難者に対する支援の取り組み
〇労働市場における都市と地方
〇技術の変化・進化・革新と労働市場
〇新型コロナの感染拡大と労働市場
７．授業期間中、マッチングや採用、労働市場の諸制度に関わる実務者の経験をうかがうことで、日本の労働市場についての理解をより深める機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明。
第 2 回	ガイダンス (６時限目)・労働市場論の基礎①「労働市場とは」(７時限目)	ガイダンス－参加者の問題関心の共有、取り上げるテーマの検討 労働市場論の基礎①－「労働市場」を捉える 3 つの観点、労働市場の参加者、労働市場の機能
第 3 回	労働市場論の基礎②「日本の労働市場の基本的枠組み」	日本における雇用・就業機会と賃金、雇用・就業契約とその終了、労働市場の「セーフティネット」
第 4 回	日本の労働市場の現状と課題①「ホワイトカラー労働市場の流動化と民間のマッチングビジネス、労働移動支援」	中途採用の増加、ミドル層ホワイトカラーの転職、変化、エンプロイヤビリティ、キャリア自律
第 5 回	日本の労働市場の現状と課題②「専門職の労働市場」	医療・介護職、士業従事者、研究・開発職、博士人材、「プロフェッショナル人材」
第 6 回	日本の労働市場の現状と課題③「職業能力評価のための社会的枠組みと課題」	職業資格の分類、技能検定制度、企業による活用、資格取得とキャリア
第 7 回	日本の労働市場の現状と課題④「女性就業者をめぐる労働市場」	M 字カーブ、マミートラック、パートタイム労働、103 万円の壁・130 万円の壁、男女間賃金格差、女性の大学進学率、性別職域分離、統計的差別、男女雇用機会均等法、コース別採用、女性活躍推進法、アファーマティブ・アクション、ファミリー・フレンドリー、ワークライフバランス
第 8 回	日本の労働市場の現状と課題⑤「高齢化する労働市場」	高年齢者雇用安定法、年金制度改革、70 歳までの就業確保措置、長澤運輸事件、出向・転籍、早期退職、アウトプレースメント、産業雇用安定センター、シルバー人材センター、NPO ／ボランティア、高齢者の能力開発・意識改革
第 9 回	日本の労働市場の現状と課題⑥「国際労働力移動に関わる諸制度と課題」	日本国内で働く外国人雇用者の急増、外国人の採用と外国人労働者、日系人出稼ぎ労働者、労働許可制、入国管理制度、在留資格、技能実習生、特定技能制度
第 10 回	日本の労働市場の現状と課題⑦「中小・自営業セクターの労働市場」	中小企業の人手不足、二重構造、中小企業における働きがい／働きやすさ、中小企業と「働き方改革」、フリーランス、ウーバー、雇用類似の働き方
第 11 回	日本の労働市場の現状と課題⑧「日本の「雇用改革」について考える」	労働ビッグバン、「働き方改革」、規制改革会議、解雇の金銭解決
第 12 回	日本の労働市場の現状と課題⑨「三者構成 (事業者・ユーザー・雇用者) によるマッチング (労働者派遣・請負・アウトソーシング) の現状と課題」	登録型、常用型、自由化業務、事前面接、紹介予定派遣、派遣法の度重なる改正、構内請負労働、事務処理請負業、BPO、偽装請負
第 13 回	日本の労働市場の現状と課題⑩「労働市場における「差別」と障がい者の就労支援」	採用差別、賃金差別、昇進・昇格差別、直接差別／間接差別、思想・信条による差別、ダイバーシティ・マネジメント、障がい者差別、「合理的配慮」、障害者雇用促進法、障がい者の法定雇用率
第 14 回	日本の労働市場の現状と課題⑪「社会保障・社会福祉と労働市場」	Welfare to Work、ベーシックインカム、年金のポータブル性、雇用と年金の接続、最低賃金制度、生活保護と最低賃金、全世代型社会保障、自助・公助・共助

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。

【参考書】
毎回、次の回のテーマの参考となる文献・資料等を、提示します。

【成績評価の方法と基準】
１．各回の出席を「授業における学習姿勢」として評価します。
（第 2 回以降。2 点 × 出席回数）
２．第 4 回目以降の各回におけるレポートの提出を評価します。
（3 点 × 提出回数）
３．出席、レポート提出に加えて、演習での「レポート報告」を評価します。
（15 点 × 担当教員の指名により授業内で報告した回数）
以上の３つの評価項目において
●「授業における学習姿勢」（上限 26 点）
●「演習時のレポート全提出」（上限 33 点）
●３回の「レポート報告」(45 点)
を達成すれば、100 点（Ａ＋）に到達するというイメージです。

【学生の意見等からの気づき】
１.「講義」では、日本の労働市場に関わる多種多様なテーマについて、①現状を左右する制度的な枠組み、②各テーマに関わる現象の経済・社会全体における位置付け、③それぞれのテーマに関わる当事者（企業、労働者、政策当局など）の活動・意向を、データに基づきながら、わかりやすく、具体的に説明し、労働市場の問題を立体的・複眼的にとらえるきっかけを提供していきます。
２.「演習」では、「講義」の内容と、参加者のこれまでの経験や関心を踏まえて、日本の労働市場の活性化やよりよいあり方につながる今後の取組みについて、活発に議論していきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業社会学、人的資源管理論
＜研究テーマ＞
①転職・中途採用と能力開発・キャリア形成
②能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能
③中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動
④環境変化のもとでの日本企業における能力開発活動、キャリア管理
＜主要研究業績＞
（書籍 [共著]）
○労働政策研究・研修機構編 [2012]『中小企業における人材育成・能力開発』, 労働政策研究・研修機構.
○藤本真・佐野嘉秀・高見具広・山口塁 [2017]『日本企業における人材育成・能力開発・キャリア管理』, 労働政策研究・研修機構.
○梅崎修・池田心豪・藤本真編著 [2019]『労働・職場調査ガイドブック』, 中央経済社.
○藤本真・田中秀樹・清原悠［2022］『ミドルエイジ層の転職と能力開発・キャリア形成』, 労働政策研究・研修機構.
（論文）
○藤本真 [2012]「民間教育訓練プロバイダーにおける教育訓練サービスの改善活動－サービス改善に向けた活動を規定する要因」, 日本労働研究雑誌 619 号.
○藤本真 [2018]「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」, 日本労働研究雑誌 691 号.
○藤本真 [2019]「中小企業セクターで働くシニア労働者」, 日本政策金融公庫論集 44 号.

【Outline (in English)】
【Outline】
The actual labor market is never structured by a simple market mechanism. It has received numerous constraints from the "institution" that was reflected in the society, culture, politics and economy of the country/region. It is a social system that has been formed over a long process.
In the lesson, we try to understand the structure and current situation of Japanese labor market from an institutional approach. Specifically, with the theme of employment introduction, worker dispatch, matching business, and so on, we will consider the structure and scale of the market, the regulation, and the impact of globalization and aging.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to understand the followings:
(1) How the Japanese government has been involved in the Japanese labor market to date.
(2) How the labor market is changing as a result of government involvement.
(3)How the Japanese labor market will change with economic and social changes.
【Learning activities outside of classroom)】
Students are required to prepare a short report on the topics to be covered in each class meeting. Your required study time is at least two or three hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 45% and in class contribution ： 55%

MAN500F1 － 0072

労使コミュニケーション論

呉　学殊

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本における労使コミュニケーションの実態と問題点を把握して望ましいあり方を探ってその実践に向けた企業、労働組合、政府のなすべき方向性を具体的に認識する。

【到達目標】
企業の労使コミュニケーションの実態を把握できる思考力を得る。
労使コミュニケーションの経営資源性の内容を把握できる。
労使コミュニケーションを中心に企業、労働組合、国のあり方を的確に認識できる。
社会の望ましいあり方を考える力を得る。
There are 4 goals of this class as follows. The first is to gain the ability to think about the actual state of labor-management communication in a company.
The second is to to understand the contents of management resources in labor-management communication.
The third is to accurately recognize the ideal state of companies, labor unions, and countries. focused on labor-management communication,
The fourth is to gain the ability to think about the desirable way of society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的に学生は講師の書いた本、論文、報告書を毎回読んで報告して議論する。講師は、論文等の執筆背景等を述べて議論を深めていく。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
授業形式は、オンライン授業 (リアルタイム配信型) を予定している。ただし、受講生の要望や状況によって変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（1）	授業の基本的な方針について述べて学生からコメントを頂き方向性を確定する
第 2 回	オリエンテーション（2）	授業で取り上げる講師の本、論文、報告書について概略的にその内容を紹介する
第 3 回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点（1）	日本の内部労働市場、国際比較等から労使コミュニケーションの問題点を明らかにする
第 4 回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点（2）	労働組合の組織率、従業員過半数代表制の問題点を明らかにする
第 5 回	日本の労使コミュニケーションの方向性（1）	問題点の解決に繋がる法的な措置のあり方を探る
第 6 回	日本の労使コミュニケーションの方向性（2）	諸外国の法制を紹介しながらより具体的に法的な組織の内容を考える
第 7 回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化（1）	労働組合の結成の実態、結成に伴う労使関係の変化を確認する

第 8 回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化（2）	労働組合結成効果を考える
第 9 回	パートタイマーの組織化と異見反映システム（1）	非正規労働者問題の実態と労働組合の組織化実態
第 10 回	パートタイマーの組織化と異見反映システム（2）	組織化戦略の違いがどう現れてその結果はどのようなものかを学ぶ
第 11 回	CSR と企業別組合の役割（1）	CSR の内容と動向
第 12 回	CSR と企業別組合の役割（2）	企業別組合が CSR におけるどのような役割を果たせるかを学ぶ
第 13 回	企業グループ連結経営と人事労務管理（1）	個別企業の事例を取り上げて、企業グループ経営の実態を把握する
第 14 回	企業グループ連結経営と人事労務管理（2）	企業グループ経営に伴う人事労務管理の変化や課題、また、労使関係の変化を学ぶ
第 15 回	純粋持株会社企業グループの労使関係（1）	4 つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性を把握する
第 16 回	純粋持株会社企業グループの労使関係（2）	4 つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性について議論と理解を深める
第 17 回	企業グループの労使関係の望ましい姿（1）	企業グループの労使関係の望ましい姿の事例を把握する
第 18 回	企業グループの労使関係の望ましい姿（2）	企業グループの労使関係の望ましい姿についての討論を通じて、その姿の波及可能性を探る
第 19 回	中小企業の労使コミュニケーション（1）	中小企業の労使コミュニケーションの実態についてアンケート調査結果から学ぶ
第 20 回	中小企業の労使コミュニケーション（2）	中小企業の労使コミュニケーションの多様性について議論を通じて理解力を高める
第 21 回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例（1）	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例の実態を学ぶ
第 22 回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例（2）	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例から労使コミュニケーションの経営資源性を理解する
第 23 回	個別労働紛争の実態と解決（1）	個別労働紛争の実態をヒアリング調査とアンケート調査から理解する
第 24 回	個別労働紛争の実態と解決（2）	個別労働紛争の解決・予防におけるユニオン・合同労組の役割・意義について討論を通じて理解度を高める
第 25 回	事例発表（1）	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第 26 回	事例発表（2）	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第 27 回	労使コミュニケーションの経営資源性（1）	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために必要な課題を労使関係の実態、法制等の観点から探り、解決への認識を高める
第 28 回	労使コミュニケーションの経営資源性（2）	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために想像力を高めて、その実現可能性を目指す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週に発表する論文等を読むこと
To read the recommended papers for next week's class

【テキスト（教科書）】
呉学殊（2013）『労使関係のフロンティアー労働組合の羅針盤』（増補版）労働政策研究・研修機構、本体定価 3500 円。
労働政策研究・研修機構（2013）『労使コミュニケーションの経営資源性と課題』労働政策研究・研修機構。

【参考書】
下記、講師の勤め先 HP
http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html

【成績評価の方法と基準】
授業発表内容（30 %）
授業への貢献度：出席、積極的な発言（30 %）
レポート（自分の事例発表をベースにしたもの）（40 %）
Content of class presentation (30%)
Contribution to class: Attendance, positive remarks (30%)
Report (based on own case study) (40%)

【学生の意見等からの気づき】
今後自分の職場における労使コミュニケーションの改善と日本の本質的な再生に向けた授業と考えて積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
ない。

【労使コミュニケーション論】
＜専門領域＞労使関係論、産業社会学
＜研究テーマ＞労使関係、CSR、労働組合の組織化、企業組織再編
＜主要研究業績＞次のサイトをご参照
http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html

【Outline (in English)】
This class aims to understand the actual conditions and problems of labor-management communication in Japan, and to explore desirable ways and specifically recognize the direction that companies, labor unions and governments should take for practicing.

MAN500F1 － 0073

経営組織論

長岡　健

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織にとって「変化」は避けることのできない現象である。ビジネス環境の変化、戦略の転換、組織内に発生する硬直化などに伴い、大小さまざまな規模での「組織変革」が絶えず要求されている。
この授業では、「人、集団、組織にどう変革を起こすか」という問題意識を起点として、経営組織のマネジメントに関する諸理論（組織と人間行動に関する理論、協調活動と知識共有に関する理論、組織マネジメントと変革に関する理論）の理解を深め、現実の経営組織における諸問題に対する洞察力と解決力を磨いていくことをめざす。

【到達目標】
（１）組織と人間行動の理論をもとに、経営組織の諸問題を分析し、解決策を提案できる。
（２）協調活動と知識共有の理論をもとに、経営組織の諸問題を分析し、解決策を提案できる。
（３）組織マネジメントと変革の理論をもとに、経営組織の諸問題を分析し、解決策を提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業では、組織論・組織行動論における概念やアプローチに加え、個人のパフォーマンス向上に関する学習科学の研究成果、認知科学や知識創造論における協調活動と知識共有に関する理論、組織文化に関する組織エスノグラフィー研究の知見、等々を幅広く取り上げ、経営組織のマネジメントに関する諸理論を丹念に読み解くと同時に、現実の経営組織への適用可能性について、多面的かつ批判的な考察を進める。基本的な授業の進め方は以下の通り。

（１）各回のテーマに関する講義：６０分
（２）休憩：５分
（３）各回のテーマに関する講義：６０分
（４）休憩：５分
（５）検討課題についてのグループ討議：３０分
（６）グループ討議の結果報告＆全体討議：３０分
（７）教員による総括：１０分

第４・１２回の授業では、実務家向けに書かれた文献を取り上げ、紹介されている組織マネジメントの考え方・方法論の可能性と課題について、批判的に検討する。また、第７・１０回の授業では、ゲスト講師（研究者）を招き、組織マネジメントに関する研究報告を聞いた上で、関連するテーマに関するディスカッションを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	経営学的な組織分析の視座に関する講義・グループ討議
第 2 回	職場における学習	熟達化の理論と実践に関する講義・グループ討議
第 3 回	仕事の「やる気」	動機付けの理論と実践に関する講義・グループ討議
第 4 回	文献研究①	『他者と働く』（宇田川元一著）に関するグループ討議
第 5 回	対話の可能性	コミュニケーションの理論と実践に関する講義・グループ討議
第 6 回	創造的活動	知識創造論とその実践に関する講義・グループ討議
第 7 回	ゲスト講義①	組織マネジメントの実践的研究に関する検討
第 8 回	組織のフラット化	組織デザインの理論と実践に関する講義・グループ討議
第 9 回	組織文化と日本的経営	企業文化論とその実践に関する講義・グループ討議
第 10 回	ゲスト講義②	組織マネジメントの実践的研究に関する検討
第 11 回	組織と個人の関係	キャリアの諸理論と実践に関する講義・グループ討議
第 12 回	文献研究②	『モチベーション 3.0』（D. ピンク著）に関するグループ討議
第 13 回	組織学習の可能性	学習棄却の理論と実践に関する講義・グループ討議
第 14 回	ラップアップ	組織研究におけるフィールド調査の方法論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（１）第１４回の授業終了後、授業全体を振り返った上で気づきをまとめ、最終レポート（３０００字程度）を作成する。
（２）ゲスト講義①②では、授業内での検討をもとに気づきをまとめ、振り返りレポート（１０００字程度）を作成する。
（３）文献研究①では、事前に課題図書を講読し、個人でレポート（１０００字程度）を作成する。
（４）文献研究②では、事前に数名のグループで課題図書を講読し、以下の項目についてグループ発表を行う。
・課題図書の要約
・興味深かった／現場で役立ちそうな箇所
・課題図書に関する疑問点／問題点
・グループで考察した内容

【テキスト（教科書）】
（１）宇田川元一 『他者と働く』 NewsPicks パブリッシング
（２）D. ピンク 『モチベーション 3.0』 講談社

【参考書】
（１）中原淳ほか 『企業内人材育成入門』 ダイヤモンド社
（２）松尾睦 『経験からの学習』 同文舘出版
（３）中原淳・長岡健 『ダイアローグ 対話する組織』 ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
（１）最終レポート：３０％
　【評価基準】議論内容／構成の妥当性/新規性/進歩性/明快性
（２）ゲスト講義に関する振り返りレポート：２０％
　【評価基準】議論内容／構成の妥当性/新規性/進歩性/明快性
（３）文献研究に関する個人レポート：１０％
　【評価基準】要約の正確さ／考察の深さ
（４）文献研究に関するグループ発表：１０％
　【評価基準】要約の正確さ／考察の深さ／提出資料の質
（５）授業への参画度：３０％
　【評価基準】出席頻度／議論での積極性／授業への貢献度

【学生の意見等からの気づき】
今年度はグループ討議を積極的に行っていく。

【学生が準備すべき機器他】
（１）zoom を使ったライブ配信型オンライン授業を受講するための機器と環境は各自で準備する。（詳細については別紙「受講の準備と注意点」を参照すること）
（２）資料配布・課題提出等に「学習支援システム」を利用する。

【その他の重要事項】
（１）オンライン受講の準備については別紙「受講の準備と注意点」を参照すること。
（２）受講者の人数、関心、理解の進度を勘案し、受講者と相談の上で、内容や構成、授業形態、使用するテキスト等を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
　組織社会学、経営学習論、質的調査法
〈研究テーマ〉
　組織と学習、組織エスノグラフィー、
　創造的なコラボレーションのデザイン
〈主要研究業績〉
　『みんなのアンラーニング論』（単著）
　『ダイアローグ　対話する組織』（共著）
　『企業内人材育成入門』（共著）
　『越境する対話と学び』（共著）
〈ウェブサイト〉
　http://www.tnlab.net/
〈フェイスブック〉
　https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9
〈ツイッター〉
　https://twitter.com/TakeruNagaoka
〈学部ゼミ〉
　http://www.tnlab.net/seminar/

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In the area of organisation management, “change” is an indispensable phenomenon. In fact, business persons are ceaselessly required to cope with “changes” of various sizes, from a small team level to a large-scale corporate group level, in their organizational lives. Therefore, it can be said that the theme of “organisational change” has practical value in the field of business studies.

In this course, I deliver lectures on a wide range of theories that bring deep insight to understanding of “organisational change”, including those of collaboration in cognitive science, those of knowledge sharing in learning sciences, those of organization cultures in sociology, as well as those of organisation management and organisational behaviour in business studies.

[Learning Objectives]
By discussing the problems of “organisational change” from the perspectives of those theories, and by examining the possibility of putting them into practice, the learners in this course are expected to deepen their understanding of various theories concerning “organisational change”, and to enhance an ability to solve the problems of “change” issues in business organisations.

[Learning Activities outside of Classroom]
The learners in this course are expected to complete the required assignments, as well as to attend the class meetings. The required assignments are the term-end academic essay, short academic essays about 2 guest lectures, a short academic essay about the text book, and the team presentation about the text book.

[Grading Criteria/Policies]
Grading is decided based on term-end academic essay (30%), short academic essays about guest lectures (20%), short academic essay about the text book (10%), team presentation about the text book (10%), and in-class contribution (30%).

MAN500F1 － 0075

経営情報論

岸　眞理子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営情報論は、経営の視点から、企業を中心に様々な組織の情報処理活動について、これまで培われてきた理論やモデルを学び、これを活用して現象を説明すると同時に、実際の組織の情報処理活動を理解し、その実践的知見を一般化することを試みる学問領域です。
この授業では、ICT(情報技術) 環境を前提とし、組織がどのようにして有効な情報処理を行うべきなのか、また実際に行っているのかについて学習することを目的としています。

【到達目標】
経営情報論は、理論と実践とを相互作用させ、その相乗効果によってレベルアップを図っていく独特の学問領域です。
この授業では、経営情報論の基礎となる理論や概念を学び、これらによって実際の企業活動の様々な現象を説明し、どのようにして企業組織が一つの有効な情報処理システムとして機能し得るのかについて、理論から実践へと向かう領域について検討できるようになるとともに、実際の企業の優れた情報処理活動の事例を理解することによって、現象から得られた実践的知見を理論にフィードバックし、これらを発展させていく、実践から理論へと向かう領域にも目を向けられるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
コロナ禍の状況が改善しなければ、オンラインでの開講となります。具体的な実施方法については、授業開始日までに、学習支援システム上でお知らせします。受講を検討されている方は、必ず、学習支援システムで仮登録をするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の確認 経営情報論の学問領域 経営情報論への接近方法
2	モダニストによる技術	技術とはなにか
3	意思決定の科学	合理的な意思決定モデル
4	コミュニケーション・モデル	情報伝達と相互理解
5	企業戦略と情報活用	競争優位と情報技術
6	組織の情報処理モデル	情報処理負荷と情報処理能力
7	ケース・スタディ（1）	ゲスト・スピーカーによる事例紹介と分析
8	組織化とイナクトメント	シンボリック・パースペクティブ
9	組織の情報処理モデルの展開	精緻化されたモデルの意義
10	デジタルメディアの能力開発	組織ルーティンと経験効果
11	ナレッジ・マネジメント	知識の創造と活用
12	データ解析による示唆	ビッグデータ解析
13	ケース・スタディ（2）	ゲスト・スピーカーによる事例紹介と分析

14　　課題についての報告会　課題報告、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各４時間を標準とします。理論や概念の理解と事例分析に積極的に参加できるよう、予め指定された教材を学習して授業に臨むことが求められます。
授業の詳細や報告会の課題については、初回のイントロダクションにおいて説明されます。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しませんが、初回のイントロダクションにおいて、各回ごとに主要教材が指定されます。

【参考書】
初回のイントロダクションにおいて、各回ごとに参考教材一覧が提示されます。

【成績評価の方法と基準】
成績評価配分は基本的には下記のとおりです。
・授業への貢献度（発表と議論）： 50 %
・レポート内容： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
ゲスト・スピーカーによるスピーチとディスカッションは好評により継続します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　経営情報論、経営組織論
＜研究テーマ＞　組織コミュニケーション、ICT と組織の情報処理
＜関連研究業績＞
①『経営情報学入門』（共編著、放送大学振興会、2019 年）
②『メディア・リッチネス理論の再構想』（中央経済社、2014 年）
③ Perceptions and use of electronic media: Testing the relationship between organizational interpretational differences and media richness, Information and Management 45(5), 2008.
④『情報技術を活かす組織能力ー IT ケイパビリティの事例研究ー』（共編著、中央経済社、2004 年）

【Outline (in English)】
【Course outline】
Organizations and Information Management involves learning the theories and models of corporate information processing, applying it to practice and developing it, and at the same time obtaining practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.
【Learning Objectives】
The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on the quality of the student's class-performance(50%) and the term-end repot(50%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

田路　則子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点）を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

田路　則子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete

master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least 4 or 5 hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

西川　英彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点）を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

木村　純子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点）を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

西川　英彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete

master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least 4 or 5 hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

木村　純子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete

master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least 4 or 5 hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

横山　斉理

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点）を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

横山　斉理

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete

master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least 4 or 5 hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

長谷川　翔平

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点）を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

長谷川　翔平

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete

master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least 4 or 5 hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 － 0079

ワークショップ（マーケティング）

朝岡　崇史

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
VUCA（先行きが不透明で将来の予測が困難）の時代、企業に求められるマーケティング革新について学びます。授業ではビジネスの最前線で活躍されているゲスト講師をお招きして最新のメソッドや企業事例をお話しいただくとともに、ゲスト講師から出題された課題について複数のグループでワークショップを行う形式で進めていきます。

【到達目標】
VUCA の時代に企業に求められるマーケティング革新の本質について深く「学ぶ」とともに「自分ゴト」として「問い」を立てられるようになること。具体的には、＜論点 1 ＞ CX がブランド差別化の最大のドライバーになること、＜論点 2 ＞卓越した CX を生み出すために EX の取り組み（インターナル活動）が重要になること、＜論点 3 ＞事業・環境・社会がトレードオンの関係になること、の 3 点について、考え方と具体的な企業の取り組みをセットで理解し、自分の考えを周囲に表明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
金曜日の夕方から、ゲスト講師による講義と質疑応答（第 6 限）・ワークショップ（第 7 限）と 2 時限連続の授業となります。今年度（2022 年）は 14 週（28 回）の授業をすべて対面方式@大学院棟 201 教室での実施とします。ただしゲスト講師はリモートでの参加となる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	＜イントロダクション＞ VUCA の時代、企業に求められるマーケティング革新	授業の目的と概要の共有
第 2 回	＜イントロダクション＞ VUCA の時代、企業に求められるマーケティング革新	授業の目的と概要の共有、ゲスト講師紹介、受講生の自己紹介など
第 3 回	ゲスト講師による講義 (1) 元メットライフ米国本社　クラー加奈恵氏	デザイン思考と CX 戦略
第 4 回	ワークショップ (1)	デザイン思考と CX 戦略に関するグループディスカッション
第 5 回	ゲスト講師による講義 (2) ヤッホーブルーイング よなよなピースラボ・ユニットディレクター　佐藤潤（ジュンジュン）氏	企業事例（CX 戦略）：ヤッホーブルーイング
第 6 回	ワークショップ (2)	ヤッホーブルーイングに関するグループディスカッション

第 7 回	ゲスト講師による講義 (3) 森永乳業 マーケティング統括副部長 谷口竜太氏	企業事例（CX 戦略）：森永乳業 トリプルヨーグルト
第 8 回	ワークショップ (3)	森永乳業 トリプルヨーグルトに関するグループディスカッション
第 9 回	ゲスト講師による講義 (4) スターフライヤー マーケティング部 マッコームズ夏野氏	企業事例（CX 戦略）：スターフライヤー
第 10 回	ワークショップ (4)	スターフライヤーに関するグループディスカッション
第 11 回	ゲスト講師による講義 (5) 電通 PR ソリューション局シニアコンサルティングディレクター 中町直太氏	組織文化の刷新（インターナルブランディング）
第 12 回	ワークショップ (5)	組織文化の刷新（インターナルブランディング）に関するグループディスカッション
第 13 回	ゲスト講師による講義 (6) 元トヨタ レクサスブランド部長　高田敦史氏	企業事例（組織文化の変革）：トヨタ自動車
第 14 回	ワークショップ (6)	トヨタ自動車に関するグループディスカッション
第 15 回	ゲスト講師による講義 (7) 富士フイルム イメージングソリューション 副事業本部長 執行役員 河野通治氏	企業事例（組織文化の変革）：富士フイルム
第 16 回	ワークショップ (7)	富士フイルムに関するグループディスカッション
第 17 回	ゲスト講師による講義 (8) 一般社団法人 CDO Club Japan 代表＆創立者　加茂純氏	DX の推進とサステナビリティ戦略
第 18 回	ワークショップ (8)	DX の推進とサステナビリティ戦略に関するグループディスカッション
第 19 回	ゲスト講師による講義 (9) KDDI 執行役員 経営管理本部長 明田健司氏	企業事例（サステナビリティ戦略）： KDDI
第 20 回	ワークショップ (9)	KDDI に関するグループディスカッション
第 21 回	ゲスト講師による講義 (10) 大広 D2C ビジネス推進局 鬼木美和氏	D2C ビジネスとサステナビリティ戦略
第 22 回	ワークショップ (10)	D2C ビジネスとサステナビリティ戦略に関するグループディスカッション
第 23 回	ゲスト講師による講義 (11) 電通 Team SDGs/食ラボ 大屋洋子氏	SDGs と企業のサステナビリティ戦略
第 24 回	ワークショップ (11)	SDGs と企業のサステナビリティ戦略に関するグループディスカッション
第 25 回	ゲスト講師による講義 (12) 東レ 地球環境事業戦略推進室 室長 野中利幸氏	企業事例（サステナビリティと地球環境事業）：東レ
第 26 回	ワークショップ (12)	東レに関するグループディスカッション
第 27 回	＜最終まとめ＞	振り返りのプレゼンテーション
第 28 回	＜最終まとめ＞	振り返りのディスカッションと授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の授業終了後に全体の振り返り・学び・気づきを個人レポートとして提出（PPT 形式のフォーマットを使用。A4 用紙で 1 枚程度、授業終了後 1 週間以内）していただきます。
・ゲスト講師の講義まとめの担当を受講生に事前に割り振り、コースの最後にまとめの報告会（プレゼンテーション）を行っていただきます（プレゼンテーション資料は後日レポートとして提出いただきます）。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、授業に関連する学びの機会として『なりわい革新 事業 × 組織文化の変革で経営の旗印をつくる』（朝岡崇史ほか著、宣伝会議、2022 年）の購読をお勧めします。

【参考書】

・『なりわい革新 事業 × 組織文化の変革で経営の旗印をつくる』朝岡崇史ほか著、宣伝会議、2022 年
・『ジョブ理論』クレイトン・クリステンセンほか著、ハーパー・コリンズ・ジャパン、2017 年
・『両利きの経営』チャールズ・オライリーほか著、東洋経済新報社、2019 年
・『ダイナミック・ケイパビリティ戦略』デビット・ティース著、ダイヤモンド社、2013 年
・『ワイズカンパニー』野中郁次郎・竹内弘 著、東洋経済新報社、2020 年
・『ビジョナリーカンパニー』ジム・コリンズほか著、日経 BP 出版センター、1995 年
・『ヤッホーとファンたちとの全仕事』佐藤潤著、日経 BP、2021 年
・『ドーナツ経済学が世界を救う』ケイト・ラワース著、河出書房新社、2018 年

【成績評価の方法と基準】

出席は取りませんが、授業後のレポート提出 8 回以上およびグループワーク/グループプレゼンの参加を前提にして授業レポート 50 %、ワークショップでのグループ別報告会、最終プレゼンテーションの成果 30 %、ディスカッションや質疑応答など授業へ貢献度 20 %の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゲスト講師とのやり取りの時間をもう少し長くとって欲しい、との声があるため、ゲスト 講師との質疑応答やディスカッションの時間を 30 分設けます。ワークショップのグループ分けは毎回変更し、異なるメンバーとディスカッションできるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

7 限目のワークショップでは PPT のテンプレートにグループワークの成果をまとめ、代表者にプレゼンテーションしていただきます。授業へは各自プロジェクターへの接続が可能なノート PC の持参をお願いします。

【その他の重要事項】

事業経営のスピードがますます速まる中、経験則に裏打ちされた絶対的な正解はありません。突破力のある仮説づくりのために、的確な「問い」を立てることが重要になります。受講生の皆さまには、VUCA の時代における企業の「なりわい」革新やアジャイル型の組織運営について、可能性を探るための積極的な提言や議論への関与を期待します。また、企業のビジネスの成長と社会課題の解決がトレードオン（両立）であることについても、先進企業の具体的な取り組みを通じて理解と共感を深めていただきたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

朝岡崇史（あさおかたかし）
＜経歴＞
ブランド戦略と CX（カスタマーエクスペリエンス）戦略を専門とするコンサルタント、ファシリテーター。（株）電通のコンサルティング室長を経て、2017 年に（株）ディライトデザインを起業。北京伝媒大学広告学院客員教授（2013 年）、日本マーケティング協会 マーケティングマスターコース・マイスター（2011 年～現在）、新宿区 U35 ビジネスプランコンテスト・アクティベーター（2019 年～現在）などを歴任。
＜専門領域＞
ブランド戦略、CX（カスタマーエクスペリエンス）戦略

＜研究テーマ＞
デジタルトランスフォーメーション（DX）時代における企業のカスタマーエクスペリエンス（CX）戦略、デザイン思考、アジャイル型組織
＜主な研究業績＞
『エクスペリンス・ドリブン・マーケティング』（ファーストプレス 2014 年）
『IoT 時代のエクスペリエンスデザイン』（ファーストプレス 2016 年）
『デジタルマーケティング成功に導く 10 の法則』　（徳間書店 共著 2017 年）
『なりわい革新 事業 × 組織文化の変革で経営の旗印をつくる』（宣伝会議 共著 2022 年）
*ウェブマガジン『JDIR』 powered by JBpress に記事連載中

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】
Students will learn about the marketing innovation required of companies in the VUCA era (the future is uncertain and the future is difficult to predict). In the class, 12 guest lecturers who are active in the forefront of business will be invited to talk about the latest methods and company cases, and multiple groups will hold workshops on the issues given by the guest lecturers.
【Learning activities outside of classroom】
Post-class report submissions and participation in group presentations(interim briefing and final debriefing session).
【Grading Criteria /Policy】
Although attendance will not be taken, we will evaluate lesson report 50%, group work briefing session, interim and final presentation results 30%, and the contribution to the lesson (discussion and Q & A) at a rate of 20%, assuming 8 or more post-class report submissions and participation in group work/group presentation.

MAN500F1 － 0080

マーケティング論

竹内　淑恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
製品やブランドを日常生活の一部にする消費者の、活発でインタラクティブなコミュニティづくりを行うことは、今日のマーケティング上の課題である。本講義では、顧客価値の創造とロイヤル顧客獲得の方法を学び、今日のマーケティングの本質を捉える顧客価値と顧客とのリレーションシップに関する革新的なフレームワークを理解する。また、発表の機会を通じてプレゼンテーション・スキルの向上を図るとともに、ディスカッションによって多面的な角度から問題を掘り下げる能力を身につける。

【到達目標】
・マーケティングの基本概念や理論について、自ら説明できるレベルに達する。
・マーケティングの理論を実務に応用し、マーケティング戦略を検討できるようになる。
・ディスカッションの場において、実践的かつ批判的な視点から討議できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で春学期の土曜日 1・2 時限に実施します。
ただし、初回とゲストスピーカーによる講義の回 (第 13 回を予定) にはオンラインで実施することを計画しています。Zoom の ID、パスコードは学習支援システムの「お知らせ」で確認ください。
・2 時限続きで 14 回開講します。
・テキストの第 1 章～第 14 章はレクチャー形式で行います。
・受講生には各章末にある「ディスカッション」を担当していただきます。予めプレゼンテーションファイルを用意し、討議のためのケースを紹介してください。その後、クラス全員で発表内容などについて検討します。
・「マーケティングと社会的責任」（第 15 章）をテーマに、革新的なマーケティング事例に関するグループワークをしていただきます。その内容を第 14 回授業でプレゼンテーションしてください。
・提出物やプレゼンテーションの内容に対して個別評価や全体講評を行い、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	①イントロダクション、オリエンテーション ②第 1 章：マーケティングの本質	①授業の進め方、文献の調査方法などを説明し、分担決定を行う。 ②マーケティングの定義、およびマーケティングの 5 つのステップについて学ぶ。
第 2 回	①第 2 章：企業とマーケティング戦略 ②第 3 章：競争優位の創造	①マーケティングのステップ 2「顧客主導型マーケティング戦略の設計」およびステップ 3「マーケティング・プログラムの設計」について学ぶ。 ②競合分析と競争的マーケティング戦略に関して学ぶ。

第 3 回	①第 4 章：マーケティングの基本枠組み ②ディスカッション	①顧客主導型マーケティングの基本的枠組みである STP(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング) について学ぶ。 ②ニッチマーケティング実践企業等のディスカッション。
第 4 回	①第 5 章：マーケティング情報とカスタマー・インサイト ②ディスカッション	①様々なマーケティング情報とその情報収集方法であるマーケティング・リサーチに関して学ぶ。 ②マーケティング・リサーチ等のケース・スタディ・ディスカッション。
第 5 回	①第 6 章：消費者の購買行動 ②ディスカッション	①消費者の購買行動に影響を与える文化的・社会的・個人的・心理的要因について学ぶ。 ②新製品の普及速度と製品特性等のディスカッション。
第 6 回	①第 7 章：製品、サービス、ブランド ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P の内の一つ、Product(製品・サービス・ブランド) 戦略に関して学ぶ。 ②ブランド拡張の成功例・失敗例等のディスカッション。
第 7 回	①第 8 章：新製品開発と製品ライフサイクル戦略 ②ディスカッション	① Product 戦略において重要な役割を担う新製品開発のプロセスについて学ぶ。 ②製品ライフサイクルの延命成功事例等のディスカッション。
第 8 回	①第 9 章：マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P の内の一つ、Place(チャネル) 戦略に関して学ぶ。 ②開放的流通、排他的流通、選択的流通の長所と短所等のディスカッション。
第 9 回	①第 10 章：価格設定 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P の内の一つ、Price(価格) 戦略に関して学ぶ。 ②コストベース、顧客価値ベース、競争ベースの価格設定の長所と短所等のディスカッション。
第 10 回	①第 11 章：コミュニケーションによる顧客価値の説得 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P の内の一つ、Promotion(コミュニケーション) 戦略に関して学ぶ。 ②購買準備段階に応じたマーケティング・コミュニケーション事例等のディスカッション。
第 11 回	①第 12 章：広告とパブリック・リレーションズ ②ディスカッション	① Promotion 戦略において重要な役割を担う広告、PR(パブリック・リレーションズ) について学ぶ。 ②消費者生成型広告の長所と短所等のディスカッション。
第 12 回	①第 13 章：人的販売と販売促進 ②ディスカッション	① Promotion 戦略において重要な役割を担う人的販売、販売促進について学ぶ。 ②モバイルを用いた消費者向けセールス・プロモーション事例等のディスカッション
第 13 回	①第 14 章：ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング ②研究手法と修論について	①近年の ICT の進展に伴って急成長しているダイレクト・マーケティング、オンライン・マーケティングに関して学ぶ。 ② OB・OG をゲストスピーカーとして迎え、修論完成に至るスケジュールやプロセス、心構えについて学ぶ。
第 14 回	グループワーク発表会	「マーケティングと社会的責任」（第 15 章）をテーマに、グループワークによる研究結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・テキストの予習をして内容を理解しておいてください。
・テキストにあるディスカッションテーマについて目を通し、ディスカッションに備えてください。
・プレゼンテーションを担当する回には pdf ファイルを作成し、遅くとも授業前日の 18 時までに提出してください。
・「マーケティングと社会的責任」をテーマに革新的なマーケティング事例を選定し、グループワークを行ってください。

【テキスト（教科書）】

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版、2014/3/4. ISBN-10:4621066226 ISBN-13:978-4621066225 ￥5,184

【参考書】

・授業では原著を使用しません。以下の書籍を参考にしてください。
Kotler, Philip & Gary Armstrong, Principles of Marketing, Global ed, Pearson Education, 2015/4/2 ISBN-10:1292092483, ISBN-13:978-1292092485 ￥11,653
・マーケティング・コースの修了生 (OB・OG) が執筆した以下の書籍を修士論文 (研究) の参考にしてください。
竹内淑恵編著 (2014)『リレーションシップのマネジメント』文眞堂, 2014/4/8. ISBN-10:4830947977 ISBN-13:978-4830947971 ￥2,808

【成績評価の方法と基準】

・担当する各章のプレゼンテーション内容 (40%)
・クラス討議への参加度、貢献度 (30%)
・グループワークによる事例発表 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本講義を受講した学生からの意見は以下の通りです。
・翻訳文をテキストとし、英語の原著は参考書とした方が良い。
・ゲストスピーカーとして OB・OG を招いた講義において、研究手法について説明してほしい。
・毎回のディスカッションで実務との関連が明確になった。

【学生が準備すべき機器他】

繰り返しになりますが、担当回に使用する pdf ファイルを発表の前日 18 時までに、担当教員にメール添付ファイルにて提出してください。担当教員のメールアドレスは学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で確認ください。

【その他の重要事項】

・マーケティング・コースの学生は、ワークショップ (マーケティング)、消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、流通システム論、サービス・マネジメント論、製品開発論を履修することをお勧めします。
・修士論文において、定量分析を活用した研究を計画している学生は、統計データ解析を履修することをお勧めします。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論に焦点を当てて講義します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞マーケティング論、ブランド論、消費者行動論
＜研究テーマ＞広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、ソーシャルメディアにおけるブランド・コミュニケーション
＜主要研究業績＞
①竹内淑恵 (2021)「Facebook ページにおけるネガティブ効果の発生とリレーションシップへの影響」『イノベーション・マネジメント』No.18, pp.55-88.
②竹内淑恵 (2020)「Facebook ページにおける消費者エンゲージメント行動：「いいね」とコメントの差異」『イノベーション・マネジメント』No.17, pp.59-88.
③竹内淑恵 (2019)「ブランド・コミュニティ研究へのマルチレベル分析の適用可能性－ Facebook ページへのリレーションシップがロイヤルティに及ぼす影響の検討－」『イノベーション・マネジメント』No.16, pp.53-78.
④竹内淑恵 (2018)「Facebook ページにおける消費者とブランドとのリレーションシップ構築」『イノベーション・マネジメント』No.15, pp.43-63.

他の研究業績等の詳細は以下を参照ください。
http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001706/profile.html

【Outline (in English)】
Course outline: Today's marketing challenge is to create a lively and interactive communities of consumers who make products and brands a part of their daily lives. This course will help students learn how to create customer value and acquire loyal customers.
Learning Objectives: The students will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing. They will develop the presentation skills through presentation opportunities and acquire the ability to delve into problems from a multifaceted angle through discussions.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term presentation (40%), term-end presentation (30%,) and in class contribution (30%).

MAN500F1 － 0082

マーケティング・リサーチ論

西川　英彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、マーケティングリサーチの知識は、実務や研究において必須ともいえるだろう。
本授業では、マーケティング・リサーチをはじめて学ぶ大学院生が理解しやすいように、定性調査と定量調査の方法論を理解した上で、実際にインタビューなどの定性調査をもとに仮説を設定し、アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査をもとにその仮説を検証することを通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を体系的・実践的に学ぶ。

【到達目標】
到達目標としては、以下の３点に整理できる。
①インタビューなどの定性調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。
②アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。
③複数の定量調査を用いて、仮説を検証することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
リサーチプロセスは、課題定義にはじまり、リサーチデザイン、データと収集法の決定、サンプルデザインとデータ収集、データ分析・結果の解釈、レポート作成となる。しかし、授業では、受講生が全体像や最終レポートをイメージしやすいように、順番を入れ替えて学習する。
さらに、受講生が理解しやすよう、以下の工夫も行う。まず、データ分析・結果の解釈では、定量調査を実践的に学べるように、サンプルデータをもとに、マニュアルにそって無料ソフトの「R」を使ったミニ演習を多く実施する。レポート作成では、複数の最終レポート例をもとに、その手続きも含めて詳しく説明する。大事なプロセスでは、中間報告があり、受講生の理解状況の確認が行われつつ、指導が行われる。こうした進め方をするため、はじめてリサーチを実施する方でも大丈夫である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	マーケティングリサーチとは 課題定義とリサーチデザイン	**リサーチプロセス** ・R の操作、パソコン持参のこと（次週以降も同様）
第２回	リサーチの実際	**東浦和宏氏 (P&G、ユニリーバ、ニールセン、モンデリーズ等で調査を実践) 講演** ・講演と質疑
第３回	データ分析・結果の解釈①	**平均・標準偏差と無相関検定** ・定量調査のミニ演習
第４回	データ分析・結果の解釈②	**χ^2 検定と t 検定** ・定量調査のミニ演習
第５回	データ分析・結果の解釈③	**回帰分析と因子分析** ・定量調査のミニ演習
第６回	データ分析・結果の解釈④	**分散分析** ・一元配置、二元配置の分散分析 ・定量調査のミニ演習
第７回	レポート作成	**最終レポートの説明** ・レポート例を提示

第 8 回	課題定義、データと収集法の決定①	**課題とリサーチクエスチョン、インタビュー、仮説** ・定性調査のミニ演習
第 9 回	第 1 回中間レポートの報告	**課題とリサーチクエスチョン、インタビュー、仮説の中間報告**
第 10 回	データと収集法の決定②、サンプルデザインとデータ収集	**アンケートとサンプリング** ・アンケートフォームを実際に作成 ・プレリサーチ
第 11 回	第 2 回中間レポートの報告	**アンケートとサンプリングの中間報告**
第 12 回	第 2 回中間レポートの再報告	**アンケートとサンプリングの再報告** ・修正して報告
第 13 回	早期最終レポートの報告	**早期最終報告** ・早期最終レポートの提出・報告
第 14 回	最終レポートの報告	**最終報告** ・最終レポートの提出・報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データ収集および、最終レポートの作成を行うこと。

【テキスト（教科書）】
テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップするので、パソコンあるいはタブレット、スマホで閲覧できるようにすること。

【参考書】
①山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
②マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践：理論編』同友館、2006 年.
③マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践：技術編』同友館、2007 年.
④高田博和・上田隆穂・奥瀬喜之・内田学『マーケティングリサーチ入門』PHP 研究所、2008 年.
⑤ベルク・フィッシャー・コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.

【成績評価の方法と基準】
・中間レポート・報告（10 点 ×2 回=20 点）、講義や演習での発言・議論参加（50 点）、最終レポートおよび報告（30 点）
・早期最終レポートの報告者には、全員加点あり（早期レポート制度）。
・評価対象は講義回数の 3 分の 2 以上の出席が最低条件である。なお、遅刻は２回で１回の欠席扱いとなる。

【学生の意見等からの気づき】
①受講生の理解に差があるため、基本編と解説編を分けて、説明を行う。
②サンプルデータを用いたミニ演習を多くし、理解をしやすくする。
③レポート例をもとにイメージしやすい課題の説明をする。さらに、確実に課題を進めらるように、リサーチ・プロセスの途中段階での中間報告を実施する。
④全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
各自、ノートパソコンを持参すること。なお、統計ソフトは、フリー・ソフトである R を使用するので、テキストを参考に、事前にパソコンにインストールしてくること。

【その他の重要事項】
受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング
＜研究テーマ＞
クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）
＜主要研究業績＞
著書に、『1 からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動 (第 2 版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。
論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。
＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
Currently, knowledge of marketing research can be said to be essential in practice and research.
In this lesson, to make it easier for graduate students to learn about marketing and research for the first time, they learn fundamentals and methods of marketing research systematically and practically to actually set up hypotheses based on qualitative surveys such as interviews, and test the hypothesis based on quantitative surveys such as questionnaire preparation and various data, after understanding the methodology of the qualitative survey and quantitative survey.

The learning objectives can be summarized in the following three points.
① To be able to acquire skills in qualitative research such as interviews, and to be able to actually analyze and discuss the results.
② To acquire skills in quantitative research, including questionnaire creation and various data analysis, and to be able to analyze and discuss the results.
③ To be able to test hypotheses using multiple quantitative surveys.

Students will be required to collect data and write a final report as part of their learning outside of class time.

Grading will be as follows。
· Mid-term report and report (10 points x 2 times = 20 points), comments and participation in discussions in lectures and exercises (50 points), and final report and report (30 points).
· All students who report the final report early will receive points (early report system).
· Attendance of at least two-thirds of the lectures is the minimum requirement for evaluation. Two tardies will count as one absence.

MAN500F1 － 0084

マーケティング・サイエンス論

長谷川　翔平

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業ではマーケティング・データを定量的に分析し，ビジネスで活用する手法を学ぶ。ビジネスにおいてマーケティング・データを分析する主な目的は予測と効果検証にある。本授業では，消費者の購買ブランドや将来の売上げを予測する手法と広告などのマーケティング施策が消費者の購買行動に影響を与えているか施策の効果を検証する手法を学ぶ。また，発展的な内容として，One-to－ One マーケティングのためのベイズ分析や，近年，マーケティングでも活用が進む商品レビューや口コミなどのテキストデータを分析する手法も学ぶ。授業では消費者の行動データおよびその集計データを中心に扱うが，分析手法は B-to-C だけでなく B-to-B マーケティングでも活用できるものである。

【到達目標】

・様々なデータに対して最適な分析手法を提案できる。
・データから市場構造や消費者特性に関する知見を得ることができる。
・分析結果を分かりやすく報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で教員による講義と受講生による論文輪読を行う。

[講義]

マーケティングの定量分析に関して書かれたテキストを用いてマーケティング・データの活用方法を学ぶ。主に消費者の行動データの分析手法を扱うが，一部アンケートデータの分析手法も扱う予定である。毎回，講義の後にフリーの統計解析ソフト R を用いた実習を行い，学んだ手法の理解を深める。

[論文輪読]

テキストで学んだ手法が使われている論文を輪読する。受講者は各自で興味のある論文を探し，その論文の研究目的や具体的なモデル，分析結果などを報告し，参加者で議論を行う。論文の探し方などは初回授業で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業で学ぶことを概観する
第 2 回	線形回帰分析	集計データからのマーケティング活動の効果測定
第 3 回	ロジットモデル	ブランド選択データからの消費者選択行動分析
第 4 回	生存時間解析	新製品の採択時期と生存期間の分析
第 5 回	クラスタリング	クラスタリングモデルと潜在クラスモデルによる消費者セグメンテーション
第 6 回	共分散構造分析	アンケートデータからの消費者態度分析
第 7 回	階層ベイズモデル	One to One マーケティングのための消費者行動データ分析
第 8 回	時系列分析	季節性や流行などを考慮した市場反応分析
第 9 回	因果推論	セレクションバイアスと RCT
第 10 回	差分の差分法	差分の差分法によるマーケティング施策の効果検証
第 11 回	傾向スコア分析	傾向スコアマッチングによるマーケティング施策の効果検証
第 12 回	テキスト分析	テキストデータからの知見獲得
第 13 回	期末レポート報告①	レポートのテーマ報告
第 14 回	期末レポート報告②	レポートの最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・講義：講義：事前にテキストの該当章を予習する。
・論文輪読：各自で報告する論文を探し発表資料を作成する。
・レポート報告：各自の報告テーマに関して調査を進め，発表資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

佐藤『マーケティングの統計モデル』朝倉書店（2015）

【参考書】

安井『効果検証入門』技術評論社（2020）
森田『実証分析入門』日本評論社（2014）
石田『R によるテキストマイニング入門 第 2 版』森北出版（2017）
村松ほか『R ユーザーのための RStudio 実践入門 改訂 2 版』技術評論社（2021）

【成績評価の方法と基準】

・議論参加： 20 %
・論文輪読の報告： 40 %
・レポート： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

・ノートパソコンを持参すること。
・Google Classroom で資料配付を行う。
・論文輪読とレポート報告では PowerPoint または Word で報告資料を作成する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス
＜研究テーマ＞
ベイズモデリングによる消費者行動データの分析
＜主要研究業績＞
Terui, N., S. Hasegawa, A. N. Smith, G. M. Allenby (2017), "An Integrated Model for Discontinuous Preference Change and Satiation," Data Science and Service Research Discussion Paper (Tohoku Univrsity), 70, pp.1-36.
長谷川翔平 (2017),「効用関数の構造異質性と広告戦略の最適化」,『経営志林』, 53(4), pp.1-9.

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn methods of analyzing marketing data. At the end of the course, students are expected to acquire skills to collect and analyze marketing data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (20%), paper reading and presentation (40%) and final report (40%).

MAN500F1 － 0085

サービス・マネジメント論

木村　純子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サービス・マーケティングを学ぶ人は、自分が経験・体験したことがあるサービスしか語ってはいけないと思っています。インターネットを始めとする情報技術の発達のおかげで、私たちはさまざまな情報を手に入れることができるようになりました。見たことがないことも、まるで見たことがあるように語ることが簡単にできてしまう世の中だからこそ、実際の体験が重要です。本講義では、各セッションのテーマに合わせた体験をしていただきます。授業の時間以外の時間とお金を費やすことになりますが、「コスト」とは思わず「（自分への）投資」だととらえてください。講義では、サービス・マーケティングに関わる理論と概念を身につけます。各受講生は学んだ理論を体系的に整理し組み立てながら、自身が集めたデータ（現実）を分析し現象を説明します。

【到達目標】
サービス・マネジメント論の理論を理解し、研究の方法も学びます。各章でサービス・イノベーションに成功した事例を取り上げます。現象を説明するための理論枠組みを理解し、分析概念を定義した上で、取り上げた事例の具体的なデータを用いて自身の仮説を検証していきます。
　活動を通じて、4 つの力を習得することを本講義の達成目標とします。
1)　自分で問題意識 (リサーチ・クエスチョン) を設定する力
2)　具体的な事例からデータを収集する力
3)　データを用いて自身の仮説を検証する力
4)　自分の主張を他の人たちに説得的に説明し理解させる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
（1）授業前課題をベースに、グループでディスカッションし発表します。
（2）講師が基本的概念・理論を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	マーケティングの基本的概念
第 2 回	理論と現実の架橋	古典的な理論枠組みを用いて現実のデータを説明する
第 3 回	方法論	定性的方法論の意義と限界
第 4 回	サービス・プロフィット・チェーン	事例：ブックオフ・コーポレーション
第 5 回	ホスピタリティ・マーケティング	事例：巣鴨信用金庫
第 6 回	グループプロジェクト中間報告	各グループによる進捗状況のプレゼンテーションとフロアとのディスカッション
第 7 回	ラグジュアリ・マーケティング	事例：リッツカールトン大阪
第 8 回	食品産業クラスターのサービス・イノベーション	事例：オランダのフードバレー
第 9 回	サプライチェーンのイノベーション	事例： CRAI
第 10 回	グループプロジェクトの中間報告会	各グループによる進捗状況のプレゼンテーションとフロアとのディスカッション
第 11 回	ゲスト・スピーカー	調整中
第 12 回	農産物のサービス・イノベーション	事例：サントリー
第 13 回	サービス・エンカウンターのマネジメント	事例：リテール・ソリューション
第 14 回	グループ・プロジェクト報告会	各グループによる最終プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業内でのディスカッションを活発にすることを目的としています。そのために、事前課題に取り組んでいただきます。
（1）授業マテリアルを読んでください。
（2）マテリアルの内容を要約してください。
（3）授業前課題が出ている場合はレポートに取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
ありません。

【参考書】
適宜、指定&配布します。

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業前課題（レポート）60%
(2) 授業内のディスカッションと発表 10%
(3) グループ・プロジェクト (Peer evaluation) 40%
100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
「フィールドワークが中心となる課題の負荷が高い」というご指摘がありますが、サービスは製品と異なり目に見えないことから、実際に体験して自身でそのサービス財の特性を理解することが重要です。インターネットの検索に依存しない、自分の足でデータを集める手間を惜しまないサービス・イノベーターになれるよう努めてください。

【担当教員の専門分野等】
テリトーリオ、農業政策、農村振興、原産地呼称保護制度、地理的表示保護制度、新しい地域主義

【最近の研究業績】
(1) 木村純子編著 (2022)『イタリアのテリトーリオ戦略：甦る都市と農村の交流』白桃書房.
(2) 木村純子編著 (2022)『持続可能な酪農： SDGs への貢献』中央法規.
(3) 木村純子 (2021「セッジャーノ・オリーヴオイル」田中洋編著『ブランド・ケースブック 2.0』同文舘.
(4) 木村純子「地理的表示」野林厚志編著『世界の食文化百科事典』丸善出版.

【委員等】
(1) 農林水産省 地理的表示登録における学識経験者（総合検討委員)
(2) 財務省国税庁・国税審議会委員
(3) 日本マーケティング学会　理事 (2019 年～)
(4) 編集委員 Sustainability (Geographical Indications, Public Goods, and Sustainable Development)
(5) 日 EU・EPA を受けた GI 実態調査検討会 検討委員 (2019 年)
(6) 農林物資規格 (JAS) 調査会 本委員 (2018 年～現在)
(7) 乳の学術連合牛乳食育研究会 ・副代表幹事 (2019 年～現在)

【2021 年度に獲得した競争資金】
(1)2019 年度～2021 年度「農業と知的財産 (特設分野研究：次世代の農業資源利用)」『2019 年度～2021 年度科学研究費補助金基盤研究 B』(代表：髙倉成男)
(2)2019 年度～2021 年度「地理的表示 (GI) を活用した SDGs に寄与する農業と農村振興に関する日欧比較研究」『2019 年度～2021 年度科学研究費補助金基盤研究 B』(代表：木村純子)

【Outline (in English)】
【Course outline】Students who learn service management can talk about and argue services only when they have experienced the services by themselves. Thanks to the development of information technology such as the Internet and social networking systems, we can obtain various types of information. The actual experience becomes more important in such a world where people can mention things they have never seen. In this lecture, students will experience services based on the theories they learn in each session. Any time and money they spend outside the classroom would be investment (instead of "cost") on themselves. In the lecture, they interdisciplinarily learn the theory and analytical concepts related to service management. Each student systematically organizes and learns the theories they have learned, while analyzing the data (reality) they collected and experienced.
【Learning Objectives】
Using the theory of service management, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.
【Learning activities outside of classroom】
You study this lecture with an emphasis on after class review. After attending the lecture, please read and review the assigned sections of the textbook. Assignments will be given in class as needed. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Each time, the report assignment will be graded as a GP on a scale of 11: D, C-, C, C+, B-, B, B+, A-, A, A+, S. Your semester grade will be the average of the total divided by the number of times given (GPA for this course).

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習

福田　淳児

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコースの演習では、これまで当コースで学習してきた内容および関連する他コースの授業での学習内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点をさらに明確にするとともに、仮説設定さらに仮説の検証を行うことで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にする。関連した学術論文を読みこみ，理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果を理解する。さらに，自分の研究テーマに適した研究方法論を身につける。それによって，学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
文献のレビューおよび演習での議論を通じて，修士論文で取り扱う問題の論点の明確化を行う。論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、論文の作成を行うとともに，それについての議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	修士論文作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの領域で検索を行う対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。
2 回目	修士論文作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を検索して見つける。
3 回目	研究テーマの選択①	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討する。
4 回目	研究テーマの選択②	研究テーマの検討を続ける。具体的には、比較的短期間で書き上げなければいけない修士論文の性質上、テーマを具体的に絞ることが必要となる。さらに、データの入手可能性を検討する。
5 回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行ってもらう。
6 回目	先行研究のレビュー②	引き続き先行研究のレビューを行ってもらう。また、その結果として、選択した領域において何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。

7 回目	問題意識の具体化①	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかとういう点について議論する。
8 回目	問題意識の具体化②	解明すべき問題と、解明するための方法を引き続き検討する。
9 回目	仮説の設定①	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき仮説の設定を行う。
10 回目	仮説の設定②	前回の議論に基づいて、検証すべき仮説についての検討を続ける。
11 回目	研究方法論について①	各種の研究方法について全般的な説明を行う。
12 回目	研究方法論について②	各自の問題意識に適切な研究方法論について議論・検討する。
13 回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成①	研究テーマに応じて、データの入手方法を検討する。質問票調査を行う場合、仮説に応じた質問項目の設定を行う。またケース研究を行う場合、リサーチ・クエスチョンの設定を行うとともに、リサーチサイトの決定を行なう。
14 回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成②	データの入手方法、質問票の作成、ケース研究の方法等の検討を続ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行ってください。

1～2 回目　各自の問題意識に基づいて、その問題意識と関連した学術論文を自分なりにできるだけ読んでおくこと。

3～4 回目　自分の実務経験、またこれまでの学習に基づいて具体的な研究テーマを考えておく。その際、何をどこまで明らかにしたいかを明確に説明できるようにしておくこと。

5～6 回目　各人の研究テーマに応じて、紹介した学術論文などを参考に先行研究のレビューを行っておくこと。

7 ～ 8 回目　先行研究のレビューに基づいて，これまで何が明らかにされたか。何が残された問題であるかを明確にしておくこと。

9～10 回目　先行研究のレビューに基づき、これまでの研究で何がどこまで明らかにされているのか、また各自の修士論文では何をどこまで明らかにするのかを明確にしてくること。

11 ～ 12 回目　これまでの文献で使用されていた研究方法について検討すること。

13 ～ 14 回目　必要なデータを収集するためのソース、あるいは、質問票調査を行う場合は質問項目などを考えておく。

15 回目　先行研究のレビューに基づいて仮説の設定を行い、簡単なレジュメを作成すること。その際、仮説はこれまでの研究をふまえた上で論理的に構築できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。各自の問題意識に基づいて関連した文献を紹介します。

【参考書】

各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。管理会計の領域で修士論文を書く場合は、例えば以下のジャーナルに目を通してみてください。

The Accounting Review
Journal of Management Accounting Research
Accounting, Organizations and Society
Management Accounting Research

【成績評価の方法と基準】

毎回の議論のための準備および授業での議論への貢献で 30 %，中間レポートの提出で 70 %

【学生の意見等からの気づき】

本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】

In the seminar of the Accounting and Finance Course, students are asked to set a theme for their master's thesis based on the content they have studied in this course and in other related courses, as well as on their awareness of problems based on their own practical experience. Students will then review academic papers related to the theme they have chosen in order to further clarify the issues and create a paper with content suitable for a master's thesis by setting and testing hypotheses. Clarify the author's awareness of the problem in writing the master's thesis. Understand the basic academic results related to the theme by reading and understanding related academic papers. In addition, students will acquire research methodologies appropriate to their own research topics. The goal is to complete a thesis that is academically appropriate for a master's thesis.

The master's thesis is to be written based on each student's awareness of the problem. The following preparations are required for each exercise.

Sessions 1 and 2: Based on your own awareness of the issues, read as much as you can of the academic papers related to your awareness of the issues.

Third and fourth sessions: Think of a specific research theme based on your own practical experience and previous studies. You should be able to clearly explain what you want to clarify and to what extent.

Students are expected to review previous research, referring to the academic papers introduced, according to their own research themes.

Based on the review of previous studies, what has been clarified so far? Clarify what has been clarified so far based on the review of previous studies and what remains to be clarified.

Based on the review of the previous studies, what has been clarified so far and to what extent, and what is to be clarified in each student's master's thesis.

In the 11th and 12th sessions, we will discuss the research methods used in the previous literature.

13th-14th To consider the sources for collecting the necessary data, or the questions to be asked if a questionnaire survey is to be conducted.

Students should formulate a hypothesis based on a review of previous research and prepare a brief resume. In doing so, the hypothesis should be able to be logically constructed based on the previous research.

Grading will be based on preparation for each discussion and contribution to the class discussion (30%), and submission of the mid-term report (70%).

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習

川島　健司

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコース演習では、これまで当コースで学習してきた内容や他のコースで学んだ内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点を明確にするとともに、実務から生まれた問題意識と照らし合わせることで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目標とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にします。関連した学術論文を読み込み、咀嚼することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法を身につけます。よって、学術的に修士論文に相応しい論文に仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	修士論文作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。
2 回目	修士論文作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を検索して見つける。
3 回目	研究テーマの選択①	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討する。
4 回目	研究テーマの選択②	研究テーマの検討を続ける。具体的には、比較的短期間で書き上げなければいけない修士論文の性質上、テーマを具体的に絞る。さらに、データの入手可能性を検討する。
5 回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行ってもらう。
6 回目	先行研究のレビュー②	引き続き先行研究のレビューを行ってもらう。また、その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7 回目	問題意識の具体化①	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかという点について議論する。
8 回目	問題意識の具体化②	解明すべき問題と、解明するための方法を引き続き検討する。
9 回目	仮説の設定①	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき仮説の設定を行う。
10 回目	仮説の設定②	設定すべき仮説についての検討を続ける。
11 回目	研究方法論について①	各種の研究方法について全般的な説明を行う。
12 回目	研究方法論について②	各自の問題意識に適切な研究方法論について議論・検討する。
13 回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成	研究テーマに応じて、データの入手方法を検討する。質問票調査を行う場合、仮説に応じた質問項目の設定を行う。またケース研究を行う場合、リサーチ・クエスチョンの設定を行うとともに、リサーチサイトの決定を行なう。
14 回目	中間報告	中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。
1～2 回目　各自の問題意識に基づいて、参考となりそうな学術論文をできるだけ読んでおくこと。
3～4 回目　自分の実務経験、またこれまでの学習に基づいて具体的な研究テーマを考えておく。その際、何をどこまで明らかにしたいかを明確に説明できるようにしておくこと。
5～6 回目　各人の研究テーマに応じて、紹介した学術論文などを参考に先行研究のレビューを行っておくこと。
7 ～ 8 回目　先行研究のレビューに基づいて，これまで何が明らかにされたか。何が残された問題であるかを明確にしておくこと。
9～10 回目　先行研究のレビューに基づき、これまでの研究で何がどこまで明らかにされているのか、また各自の修士論文では何をどこまで明らかにすることができるのかを明確にしてくること。
11 ～ 12 回目　これまでの文献で使用されていた研究方法について検討すること。
13 回目　必要なデータを収集するためのソース、あるいは、質問票調査を行う場合は質問項目などを考えておく。
14 回目　先行研究のレビューに基づいて仮説の設定を行い、レジュメを用いて報告すること。その際、仮説はこれまでの研究をふまえた上で論理的に構築できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の問題意識に基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、議論への貢献 30 %および報告内容 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】
Learning Objectives: Students will clarify the problem awareness of the author of the master's thesis (or the issues the student wishes to address in his or her master's thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a master's thesis. Learning Activities Outside of Classroom: The master's thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address). The following should be done before each class. In the first class, you will do the work requested in the interim report given in the spring semester. The second and third classes will be devoted to learning the analytical technique that are appropriate for each student's research. In the fourth and fifth classes, students will apply the analytical technique they have learned to the data they have obtained. In the sixth and seventh classes, students will interpret the results of their analyses. In the eighth and ninth classes, students will plan the outline of their master's thesis and prepare a rough draft. In the tenth and eleventh classes, students will prepare a more detailed draft based on comments from the instructor. In the twelfth to the fourteenth classes, students will revise their master's thesis based on comments from the instructor to complete it. Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the seminar.

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習

福田　淳児

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコースの演習では、これまで当コースで学習してきた内容および関連する他コースの授業での学習内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点をさらに明確にするとともに、仮説設定さらに仮説の検証を行うことで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にする。関連した学術論文を読みこみ，理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につける。それによって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	中間報告の follow-up	春学期に行った中間報告で教員または他の大学院生より指摘された点ついてその結果を報告し、議論する。
2 回目	データの分析方法①	仮説の検定方法について説明する。
3 回目	データの分析方法②	引き続き、仮説の検定方法について説明する。
4 回目	データの分析①	各自が収集したデータを使い、その分析結果の検討を行なう。
5 回目	データの分析②	前回に引き続き、データの分析結果を議論する。
6 回目	データ分析の結果の解釈①	分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
7 回目	データ分析の結果の解釈②	前回に続き、分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈について議論する。
8 回目	修士論文のドラフトの作成①	提出されたドラフトに基づいて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
9 回目	修士論文のドラフトの作成②	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
10 回目	修士論文のドラフトの修正①	前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
11 回目	修士論文のドラフトの修正②	引き続き、前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
12 回目	修士論文の報告および議論①	修士論文の内容を報告してもらい、全体の構成を踏まえて議論を行う。

13 回目	修士論文の報告および議論②	引き続き、修士論文の内容について議論を行う。
14 回目	論文の修正および完成原稿の作成①	提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。
1 回目　春学期に行った中間報告で要請された作業を行う。
2 ～ 3 回目　各自の研究に適当と思われる分析方法について検討し，学習すること。
4～5 回目　各自が得たデータに対して学習した分析方法を適用して分析を行なう。
6～7 回目　分析結果について解釈を行なう。
8～9 回目　修士論文の章立てを構成し、大雑把なドラフトを作成する。
10～11 回目　教員からのコメントに基づいてより詳しいドラフトを作成する。
12～13 回目　教員からのコメントに基づいて修士論文を加筆・修正する。
14～15 回目　教員からのコメントに基づいて修士論文の最終版を作成する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の研究テーマに沿って適切な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。管理会計の領域で修士論文を書く場合は、例えば以下のジャーナルに目を通してみてください。
The Accounting Review
Journal of Management Accounting Research
Accounting, Organizations and Society
Management Accounting Research

【成績評価の方法と基準】
演習における議論への貢献 40 %および報告の内容 60 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】
In the seminar of the Accounting and Finance Course, students are asked to set a theme for their master's thesis based on the content they have studied in this course and in other related courses, as well as on their awareness of problems based on their own practical experience. Students will then review academic papers related to the theme they have chosen in order to further clarify the issues and create a paper with content suitable for a master's thesis by setting and testing hypotheses. Clarify the author's awareness of the problem in writing the master's thesis. Understand the basic academic results related to the theme by reading and understanding related academic papers. In addition, students will acquire research methodologies appropriate to their own research topics. The goal is to complete a thesis that is academically appropriate for a master's thesis.
The master's thesis is to be written based on each student's awareness of the problem. The following preparations should be made for each exercise.
In the first session, you will perform the work requested in the interim report given in the spring semester.
The second and third sessions will be devoted to the study of analytical methods that are appropriate for each student's research.
Students will apply the analysis methods they have learned to the data they have obtained and conduct analysis.
Students will interpret the results of their analyses.
Students will compose chapters of their master's thesis and prepare a rough draft.
Students will prepare a more detailed draft based on comments from the instructor.
12th - 13th Additions and revisions to the master's thesis based on comments from the instructor.
Students will prepare a final version of their master's thesis based on comments from the instructor.
Evaluation will be based on 40% of the contribution to the discussion in the exercise and 60% of the content of the report.

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習

川島　健司

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコース演習では、これまで当コースで学習してきた内容や他のコースで学んだ内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点を明確にするとともに、実務から生まれた問題意識と照らし合わせることで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目標とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にします。関連した学術論文を読み込み、理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につけます。よって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	中間報告のフォロー・アップ	春学期に行った中間報告で要請された作業についてその結果を報告し、議論する。
2 回目	データの分析方法	仮説の検定方法について説明する。
3 回目	データ分析の修正	データ分析の修正を行う。
4 回目	データ分析の結果の解釈①	分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
5 回目	データ分析の結果の解釈②	引き続き、分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
6 回目	修士論文のドラフトの作成①	提出されたドラフトに基づいて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
7 回目	修士論文のドラフトの作成②	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
8 回目	修士論文のドラフトの作成③	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
9 回目	修士論文のドラフトの修正①	前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
10 回目	修士論文のドラフトの修正②	引き続き、前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
11 回目	修士論文の報告および議論①	修士論文の内容を報告してもらい、全体の構成を踏まえて議論を行う。
12 回目	修士論文の報告および議論②	引き続き、修士論文の内容について議論を行う。
13 回目	論文の修正および完成原稿の作成①	提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。
14 回目	論文の修正および完成原稿の作成②	引き続き、提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。
1 回目　春学期に行った中間報告で要請された作業を行う。
2 ～ 3 回目　各自の研究に適当と思われる分析方法を学習する。
4～5 回目　各自が得たデータに対して学習した分析方法を適用して分析を行なう。
6～7 回目　分析結果についての解釈を行なう。
8～9 回目　修士論文の章立てを構成し、大雑把なドラフトを作成する。
10～11 回目　教員からのコメントに基づいてより詳しいドラフトを作成する。
12～14 回目　教員からのコメントに基づいて修士論文を加筆・修正し，完成させる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の研究テーマに沿って適切な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、議論への貢献 30 %および報告内容 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】
Learning Objectives: Students will clarify the problem awareness of the author of the master's thesis (or the issues the student wishes to address in his or her master's thesis). By reading and understanding relevant academic papers, students will acquire basic academic results and research methodologies related to the theme. Therefore, the goal is to complete a thesis that is academically appropriate as a master's thesis. Learning Activities Outside of Classroom: The master's thesis will be based on each student's awareness of the problem (or the issues the student wishes to address). The following should be done before each class. In the first class, you will do the work requested in the interim report given in the spring semester. The second and third classes will be devoted to learning the analytical technique that are appropriate for each student's research. In the fourth and fifth classes, students will apply the analytical technique they have learned to the data they have obtained. In the sixth and seventh classes, students will interpret the results of their analyses. In the eighth and ninth classes, students will plan the outline of their master's thesis and prepare a rough draft. In the tenth and eleventh classes, students will prepare a more detailed draft based on comments from the instructor. In the twelfth to the fourteenth classes, students will revise their master's thesis based on comments from the instructor to complete it. Grading Criteria / Policy: Students will be graded based on the following criteria: 20% is based on the general participation, 30% on contribution to the discussion in the seminar, and 50% on the content of the report made in the seminar.

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習（代表シラバス）

岸本　直樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコース演習では、これまで当コースで学習してきた内容や他のコースで学んだ内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点を明確にするとともに、実務から生まれた問題意識と照らし合わせることで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目標とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にします。関連した学術論文を読み込み、咀嚼することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法を身につけます。よって、学術的に修士論文に相応しい論文に仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	修士論文作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。
2 回目	修士論文作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を検索して見つける。
3 回目	研究テーマの選択①	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討する。
4 回目	研究テーマの選択②	研究テーマの検討を続ける。具体的には、比較的短期間で書き上げなければいけない修士論文の性質上、テーマを具体的に絞る。さらに、データの入手可能性を検討する。
5 回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行ってもらう。
6 回目	先行研究のレビュー②	引き続き先行研究のレビューを行ってもらう。また、その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7 回目	問題意識の具体化①	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかという点について議論する。
8 回目	問題意識の具体化②	解明すべき問題と、解明するための方法を引き続き検討する。
9 回目	仮説の設定①	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき仮説の設定を行う。
10 回目	仮説の設定②	設定すべき仮説についての検討を続ける。
11 回目	研究方法論について①	各種の研究方法について全般的な説明を行う。
12 回目	研究方法論について②	各自の問題意識に適切な研究方法論について議論・検討する。
13 回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成	研究テーマに応じて、データの入手方法を検討する。質問票調査を行う場合、仮説に応じた質問項目の設定を行う。またケース研究を行う場合、リサーチ・クエスチョンの設定を行うとともに、リサーチサイトの決定を行なう。
14 回目	中間報告	中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。
1～2 回目　各自の問題意識に基づいて、参考となりそうな学術論文をできるだけ読んでおくこと。
3～4 回目　自分の実務経験、またこれまでの学習に基づいて具体的な研究テーマを考えておく。その際、何をどこまで明らかにしたいかを明確に説明できるようにしておくこと。
5～6 回目　各人の研究テーマに応じて、紹介した学術論文などを参考に先行研究のレビューを行っておくこと。
7 ～ 8 回目　先行研究のレビューに基づいて，これまで何が明らかにされたか。何が残された問題であるかを明確にしておくこと。
9～10 回目　先行研究のレビューに基づき、これまでの研究で何がどこまで明らかにされているのか、また各自の修士論文では何をどこまで明らかにすることができるのかを明確にしてくること。
11 ～ 12 回目　これまでの文献で使用されていた研究方法について検討すること。
13 回目　必要なデータを収集するためのソース、あるいは、質問票調査を行う場合は質問項目などを考えておく。
14 回目　先行研究のレビューに基づいて仮説の設定を行い、レジュメを用いて報告すること。その際、仮説はこれまでの研究をふまえた上で論理的に構築できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の問題意識に基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、議論への貢献 30 %および報告内容 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】
The objective of this seminar is to help students complete their master thesis. Students are required to set a research theme based on not only their working experience but an academic perspective they have acquired in this MBA program. By the review of prior studies and discussions with the instructor, students will clarify the purpose and the methodology of their research. In the last class of this course, students are required to report the progress of their thesis.

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習（代表シラバス）

岸本　直樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコース演習では、これまで当コースで学習してきた内容や他のコースで学んだ内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。その上で、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行うことで問題点を明確にするとともに、実務から生まれた問題意識と照らし合わせることで修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目標とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にします。関連した学術論文を読み込み、理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につけます。よって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	中間報告のフォロー・アップ	春学期に行った中間報告で要請された作業についてその結果を報告し、議論する。
2 回目	データの分析方法	仮説の検定方法について説明する。
3 回目	データ分析の修正	データ分析の修正を行う。
4 回目	データ分析の結果の解釈①	分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
5 回目	データ分析の結果の解釈②	引き続き、分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
6 回目	修士論文のドラフトの作成①	提出されたドラフトに基づいて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
7 回目	修士論文のドラフトの作成②	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
8 回目	修士論文のドラフトの作成③	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
9 回目	修士論文のドラフトの修正①	前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
10 回目	修士論文のドラフトの修正②	引き続き、前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
11 回目	修士論文の報告および議論①	修士論文の内容を報告してもらい、全体の構成を踏まえて議論を行う。
12 回目	修士論文の報告および議論②	引き続き、修士論文の内容について議論を行う。
13 回目	論文の修正および完成原稿の作成①	提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。
14 回目	論文の修正および完成原稿の作成②	引き続き、提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に望むにあたって各回以下の準備を充分に行っておくこと。
1 回目　春学期に行った中間報告で要請された作業を行う。
2 ～ 3 回目　各自の研究に適当と思われる分析方法を学習する。
4～5 回目　各自が得たデータに対して学習した分析方法を適用して分析を行なう。
6～7 回目　分析結果についての解釈を行なう。
8～9 回目　修士論文の章立てを構成し、大雑把なドラフトを作成する。
10～11 回目　教員からのコメントに基づいてより詳しいドラフトを作成する。
12～14 回目　教員からのコメントに基づいて修士論文を加筆・修正し，完成させる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の研究テーマに沿って適切な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、議論への貢献 30 %および報告内容 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【Outline (in English)】
This course is a sequel to accounting and finance seminar held in the spring semester. The objective of this seminar is to help students complete their master thesis. Students will improve the quality of their thesis by revising the draft based on discussions and comments given by the instructor in each class.

MAN500F1 － 0092

ワークショップ（アカウンティング・ファイナンス）

川島　健司、福田　淳児

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計の最新のトピックまた多様な業種に属する企業における実務の状況を理解します。これによって、自社の状況だけではなく、企業横断的に様々な領域に関わる問題についての理解を深めるとともに、新しい領域のテーマについても学習します。さらに，修士論文の作成のためのテーマを考えるひとつのヒントとします。

【到達目標】
各テーマについて実際の企業で実務に携わる講師の方のお話を聞くことで、財務会計、管理会計、ファイナンス、税務会計、監査論のテーマについて理解すると共に、自社だけの状況ではなく他社の実務を理解することで，多様な実務が存在することを理解することを目標とします。また，他社の実務の理解を通じ、自分の問題意識が自社固有のものなのか、または他の企業にも共通するものであるのかを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
　ワークショップは基本的には対面で行います。ただし、状況に応じてオンラインを積極的に活用する予定です。本授業では、最初に担当教員にから財務会計と管理会計の概略的な説明を行います。その後，外部から講師の方を招き、各テーマまたは各企業の実務についての説明を行っていただきます。講師の方からのお話の後，これらの内容について質疑応答をおこないながら理解を深めていきます。なお、以下の授業計画は以前のものを例として示しています。今年度の具体的な講師の方の紹介またその内容は現在調整中ですので，初回講義の際に説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ワークショップの概要，ゲストとしてお招きする企業または個人の方の報告内容を説明する。
2	財務会計の全般的な説明	ワークショップでお招きする企業の方が取り扱う財務会計に関わるテーマについて学術的な側面から事前に説明する。
3	管理会計の全般的な説明	ワークショップでお招きする方が取り扱う管理会計に関わるテーマについて学術的な側面から事前に説明する。
4	経営に必要な IT 統制の知識、IT 監査、情報セキュリティ	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
5	M&A と会計	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
6	内部監査、ガバナンス、企業不正	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
7	企業再生、ＰＭＩと会計	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
8	経営哲学、人を大切にする経営と会計	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
9	相続税、資産税、持株会社などの税務	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
10	ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）とビジネス・会計	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
11	中小企業の経営計画、経営哲学、経営者のための会計知識	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
12	ベンチャー経営、IPO と会計	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
13	国際経営と会計	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。
14	IR 実務	ゲストをお招きし，ゲストの方が専門とする実務について紹介していただき，議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各回の講師の方のテーマに関連して事前に文献などを紹介しますので，それらを読んできてください。また、企業からのゲストの方の場合にはその企業のホームページには必ず目を通してきてください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
各回のテーマに合わせ、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義中の議論への参加およびその貢献を 50 %、最終レポートの評価を 50 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
外部のゲストの方からのお話に先立って，そのお話と関連した学術的な議論を知りたいという要請がありました。できる限り，ゲストの方のお話に関連した学術的な議論も紹介したいと考えています。

【Outline (in English)】
Students will gain an understanding of current topics in management accounting and the state of practice in companies in a variety of industries. In this way, students will deepen their understanding of not only their own company's situation, but also issues related to various areas across companies, as well as learn about themes in new areas. In addition, this course will provide students with a hint on how to think about themes for their master's thesis.
By listening to lecturers who are engaged in actual business practices in actual companies on each theme, we aim to understand the themes of financial accounting, management accounting, finance, tax accounting, and auditing theory, as well as to understand the existence of diverse practices by understanding the practices of other companies, not just the situation of our own company. In addition, through understanding the practices of other companies, the goal is to understand whether one's own awareness of the issues is unique to one's own company or whether it is common to other companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
We will introduce literature and other materials related to the theme of each lecturer in advance, so please read them. In addition, if the lecturer is a guest from a company, please be sure to read the company's website.
Grading will be based on 50% on participation and contribution to the discussion in the lecture and 50% on the final report.

MAN500F1 － 0094

財務会計論

倉田　幸路

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計報告書を理解する上で重要な財務会計に関する基本的考え方が理解できるようになります。単に、現在の制度の会計規定を理解するだけでなく、どのように変わってきたのか、今はどのような規定かを理解できるようになります。

【到達目標】
現在の財務会計のルールはどのようになっているか、また現在の財務会計の規定はどのように変遷してきたかを理解することにより、将来どのように変わっていくかといことを理解できるようになります。また、国際会計基準やアメリカ基準との相違も理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は Zoom を用いて、オンラインで行います。授業のお知らせ（Zoom のアドレス）、レジュメ、課題（コメントカード）等は、学修支援システム（Hoppii）を通して行います。授業は講義形式で行います。２コマ連続の講義ですので、各週ごとに（合計 14 回）コメントカードを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第１回	Ⅰ財務会計の基礎 Ⅱ財務会計の理論１ 理論とは？	財務会計の定義、会計の種類、会計における測定と報告、企業を取り巻く利害関係者との関係、財務会計の機能、財務会計の精度性と公共性について講義します。 理論の方法論的基礎、実証的命題と規範的命題およびアメリカにおける会計理論の発展について講義します。
第２回	Ⅱ財務会計の理論２ Ⅱ財務会計の理論３	ドイツにおいて展開された静態論、動態論、新静態論の理論的展開の意義について講義します。 アメリカにおいて議論が進んだ、資産・負債アプローチと収益・費用アプローチについて講義します。
第３回	Ⅲ概念フレームワーク１ Ⅲ概念フレームワーク２	日本の概念フレームワークについて講義します。 IASB と FASB の共同作業による概念フレームワークの第１章「財務報告の目的」と第２章「有用な財務情報の質的特性」を講義します。
第４回	Ⅲ概念フレームワーク３ Ⅳ日本の会計制度１	IASB の概念フレームワークの第３章「財務諸表と報告企業」から第８章「資本維持」まで講義します。 日本の会計制度の特質、会社法における会計の特質、特に、株式会社における純資産の部の変革について講義します。
第５回	Ⅳ日本の会計制度２ Ⅳ日本の会計制度３	金融商品取引法における会計規制の特徴および税務会計における確定決算基準について講義します。 日本の会計基準審議会（会計基準委員会）による会計基準設定の問題、および各会計規定との関係について講義します。
第６回	Ⅴ収益費用１ Ⅴ収益費用２	収益費用の定義および費用の認識基準としての発生主義、収益の認識基準としての実現主義（リスクからの解放）について講義します。 収益認識基準の具体的形態、特に工事進行基準について講義します。
第７回	Ⅴ収益費用３ Ⅴ収益費用４	包括利益と純利益の定義および両者の関係について講義します。特に、リサイクリング（組替調整）の問題について講義します。 新たな収益認識基準について、具体的な収益認識のステップ、変動対価や契約資産、契約負債など新たに導入された概念について講義します。
第８回	Ⅵ資産の概念と測定１ Ⅵ資産の概念と測定２	資産の概念と測定および金融商品の時価評価について講義します。特に、金融商品の時価評価の経緯と内容、金融商品の時価評価の問題点について講義します。 棚卸資産の概念と測定および強制された低価評価の内容について講義します。
第９回	Ⅵ資産の概念と測定３ Ⅵ資産の概念と測定４	固定資産の減損について、減損の兆候、減損の認識と測定、減損損失の戻入れ、日本基準、アメリカ基準、国際会計基準との比較について講義します。 リース会計とは何か、日本基準におけるファイナンスリースとオペレーティングリースの区別、ファイナンスリースにおける借り手と貸し手の処理、新たな、IASB におけるリース会計について講義します。
第10回	Ⅵ資産の概念と測定５ Ⅵ資産の概念と測定６	日本における無形資産の会計処理、無形資産とのれんの定義、企業結合会計について講義します。 現在計上が認められている、5つの繰延資産について講義します。
第11回	Ⅵ資産の概念と測定７ Ⅵ資産の概念と測定８	研究開発費に関する会計基準における研究と開発の範囲とそれぞれの会計処理およびソフトウェアの会計処理について講義します。 外貨換算会計基準について、外貨換算の方法、在外支店の会計処理、在外子会社の会計処理および国際会計基準との比較について講義します。
第12回	Ⅵ資産の概念と測定９ Ⅶ負債の概念と測定１	税効果会計の導入の経緯、税効果会計の具体的考え方、資産負債法による一時差異の認識、繰延税金資産と繰延税金負債の認識および具体的計算例について講義します。 負債の概念と測定、特に、引当金の目的および引当金の種類、債務性のない引当金の問題について講義します。

第 13 回	Ⅶ負債の概念と測定２ Ⅶ負債の概念と測定３	退職給付に係る会計基準について、基本的考え方、確定給付年金制度における退職給付債務の概念、退職給付制度の会計処理、米国基準および国際会計基準との比較について講義します。 資産除去債務について、基本的考え方、資産除去債務の会計処理、具体的計算例について講義します。
第 14 回	Ⅷ純資産の表示１ Ⅷ純資産の表示２	会計理論上の資本の分類と会社法における純資産の区分、株式会社の資本金、増資・減資の会計処理、自己株式、評価換算差額等、新株予約権について講義します。 株主資本等変動計算書の目的、区分、内容について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
桜井久勝著『財務会計講義』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
各回のコメントカード（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ、国際的動向も含めて講義していきます。

【学生が準備すべき機器他】
Zoom を用いて講義しますので、パソコン等が必要になります。学習支援システム（Hoppii）を利用して、授業のお知らせ（Zoom のアドレス）、レジュメ、課題をアップし、提出してもらいます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
会計学、財務会計、国際会計
＜研究テーマ＞
財務諸表の表示、会計基準の国際的調和化
＜主要研究業績＞
・「純資産の部の会計と法務」成道秀雄編『純資産の部の総合的検討』日本税務研究センター、2019 年 7 月。
・「EU における会計制度改革」、「ドイツにおける会計制度改革」河崎照行編『会計制度のパラダイムシフト』中央経済社、2019 年 3 月。倉田幸路編著『財務会計の現状と展望』白桃書房、2014 年 7 月。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The understanding of what the current financial accounting rules are and how the current financial accounting rules have changed over the years will allow you to be able to understand how they will change in the future . In addition, you will be able to understand the differences between the International Financial Reporting Standards and US GAAP.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to A,B and C.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria/Policies)
Final grade will be calculated according to the following process. Each time comment card 50%, Term-end report 50%.

MAN500F1 － 0095

税務会計論

金子　友裕

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法人税法における課税所得所得計算は，確定決算主義により企業会計の利益計算に基づくことから税務会計と呼ぶことがある。税務会計論では，法人税法における課税所得計算の基礎となる租税法の考え方を確認した上で，法人税法における課税所得計算の各項目を学習し，税務会計の理論的内容の理解及び実践的技術の習得を目的とする。

【到達目標】
法人税申告書の別表四の作成を通じた課税所得計算を行うことができ、この課税所得計算の基礎となる法人税法の体系的な理解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業形態としては、基本的に演習によるものとし、授業内での学生の発表に対し、議論を行うものとする。
なお、テキストのうち『法人税法入門講義』は大学生向けの概要のみ示しているものであるが、これを基礎として各自で制度の概要、学説、判例等を調べて発表するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学生の現時点での理解度や授業の進め方の確認
第 2 回	税務会計とは何かに関する検討	租税法と会計学にまたがる税務会計という分野に関する特徴等の検討
第 3 回	税務会計と租税原則等	租税原則等に関する検討
第 4 回	税務会計と租税法律主義	租税法律主義に関する検討
第 5 回	税務会計と租税公平主義	租税公平主義に関する検討
第 6 回	法人税法の概要	法人税法の概要の確認
第 7 回	法人税法における課税所得計算の概要	法人税法における課税所得計算の概要の確認
第 8 回	法人税額の計算の概要	法人税額の計算の概要の確認
第 9 回	益金の額と損金の額	法人税法における益金の額と損金の額の概要の確認と概念の検討
第 10 回	交際費等	交際費等の概要の確認と検討
第 11 回	寄附金	寄附金の概要の確認と検討
第 12 回	同族会社に対する課税	同族会社に対する課税の概要の確認と検討
第 13 回	役員給与	役員給与の概要の確認と検討
第 14 回	租税公課	租税公課の概要の確認と検討
第 15 回	受取配当等	受取配当等の概要の確認と検討
第 16 回	有価証券	有価証券の概要の確認と検討
第 17 回	棚卸資産	棚卸資産の概要の確認と検討
第 18 回	減価償却資産	減価償却資産の概要の確認と検討
第 19 回	圧縮記帳	圧縮記帳の概要の確認と検討
第 20 回	繰延資産	繰延資産の概要の確認と検討
第 21 回	貸倒損失	貸倒損失の概要の確認と検討
第 22 回	貸倒引当金（廃止された引当金の議論を含む）	貸倒引当金の概要の確認と法人税法における引当金に関する検討

第 23 回	繰越欠損金	繰越欠損金の概要の確認と検討
第 24 回	法人税法における課税所得計算の実践	別表四の作成
第 25 回	組織再編税制	組織再編税制の概要の確認と検討
第 26 回	グループ通算制度	グループ通算制度の概要の確認と検討
第 27 回	国際課税	国際課税の概要の確認と検討
第 28 回	税務会計論のまとめ	税務会計論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金子友裕『法人税法入門講義』中央経済社（最新版）
金子宏『租税法』弘文堂（最新版）

【参考書】
金子宏他『ケースブック租税法』弘文堂（最新版）

【成績評価の方法と基準】
報告・質問などの授業中の発表・発言（50 %），レポート等の提出物（50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出のために学習支援システムを使用する可能性がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
税務会計、租税法、会計学
＜研究テーマ＞
企業会計や法人税における利益（所得）概念や資本概念
＜主要研究業績＞
「消費税法における仕入税額控除の考察」『税法学』585 号、3-25 頁、2021 年 5 月。
「「時価の算定に関する会計基準」における「時価」の検討」『産業経理』81 巻 1 号、66-78 頁、2021 年 4 月。
「剰余金配当の課税の検討」『租税実務研究』11 号、1-29 頁、2021 年 3 月。

【Outline (in English)】
（Course outline）　This course deals with the Tax Accounting. It also enhances the development of students' skill in preparing tax returns.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to prepare tax returns.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Reports : 50%、in class contribution: 50%

MAN500F1 － 0096

会計情報論

坂上　学

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、会計データモデル論と事業報告言語である XBRL について学ぶ。
　会計データモデルは、Sorter の事象アプローチをきっかけとして、主としてデータベース理論の一領域であるデータモデル論の展開とともに進展してきた。具体的には、階層モデル、網モデル、関係モデル、実体関連モデル、オブジェクト指向モデルなどのモデルが提唱されてきたが、これらの集大成である REA 会計モデルについて学習する。
　また今日において、日本の金融庁による EDINET などの電子開示システムを通じて、財務会計情報が自由に入手できるようになり、会計情報の高度な利用が可能となっているが、ここに至るまでの技術的な展開を踏まえながら、財務会計情報を記述するために開発されたコンピュータ言語である XBRL の基本について学習する。

【到達目標】
会計データモデル論については、REA 会計モデルが開発されるに至るまでの展開を概観し、会計データモデルの意義と、その背後にあるデータベース理論の基礎を理解することを目標としている。
　また XBRL については、電子開示システムの仕組みと、財務情報を記述する際に用いられる拡張可能な事業報告言語 XBRL の基礎概念である仕様、タクソノミ、インスタンス文書を理解し、実際の XBRL データを扱うための基礎知識を理解することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	会計データモデル論へのイントロダクション	テキスト前半部分の会計データモデル論についての全体像と講義の進め方を解説する。
第 2 回	事象理論の形成	テキスト第 1 章「序論」および第 2 章「事象理論の形成」について学ぶ。
第 3 回	事象理論研究の展開	テキスト第 3 章「事象理論研究の展開」について学ぶ。
第 4 回	データモデリングの基本と ANSI/X3/SPARC の 3 層スキーマ	テキスト第 4 章「会計データモデル論の展開」のデータモデルの基本について学ぶ。
第 5 回	階層モデルおよび網モデルによる会計データモデル論の展開	テキスト第 4 章「会計データモデル論の展開」の階層モデルおよび網モデルについて学ぶ。
第 6 回	関係モデルにおけるデータベースの構造	テキスト第 4 章「会計データモデル論の展開」の関係モデル（データベースの構造）について学ぶ。
第 7 回	関係モデルにおけるデータベースの一貫性	テキスト第 4 章「会計データモデル論の展開」の関係モデル（データベースの一貫性）について学ぶ。

第 8 回	関係モデルにおけるデータ操作言語	テキスト第 4 章「会計データモデル論の展開」の関係モデル（データ操作言語）について学ぶ。
第 9 回	オブジェクト指向モデルによる会計データモデルの展開	テキスト第 4 章「会計データモデル論の展開」のオブジェクト指向モデルについて学ぶ。
第 10 回	REA 会計モデル①－概念モデル研究の展開	テキスト第 5 章「REA 会計モデル」の概念モデル研究の展開について学ぶ。
第 11 回	REA 会計モデル②－REA 会計モデルの開発	テキスト第 5 章「REA 会計モデル」の REA 会計モデルの開発について学ぶ。
第 12 回	会計事象の体系化とオントロジー	テキスト第 6 章「会計事象の体系化とオントロジー」のオントロジーの基礎について学ぶ。
第 13 回	REA 会計モデルのオントロジー分析	テキスト第 6 章「会計事象の体系化とオントロジー」の REA 会計モデルのオントロジー分析について学ぶ。
第 14 回	会計データモデル論のまとめ	講義前半の会計データモデル論に関するまとめをおこなう。
第 15 回	電子開示システム論へのイントロダクション	会計データモデル論から電子開示システム論へのつながりと、電子開示システム論の全体像について説明する。
第 16 回	電子開示システムの始動と事象アプローチ	テキスト第 7 章「電子開示システムと事象アプローチ」について学ぶ。
第 17 回	EDGAR システムと EDINET システムの概要	テキスト第 8 章「電子開示システムにおける財務諸表データの記述」の EDGAR システムと EDINET システムについて学ぶ。
第 18 回	事業報告言語 XBRL と 3 つの基礎概念	テキスト第 8 章「電子開示システムにおける財務諸表データの記述」の XBRL の基礎概念について学ぶ。
第 19 回	XBRL タクソノミの基礎	テキスト第 8 章「電子開示システムにおける財務諸表データの記述」のタクソノミの基礎について学ぶ。
第 20 回	EDINET タクソノミの構造	テキスト第 8 章「電子開示システムにおける財務諸表データの記述」のタクソノミの構造について学ぶ。
第 21 回	XBRL インスタンスの基礎	テキスト第 8 章「電子開示システムにおける財務諸表データの記述」の XBRL インスタンスの基礎について学ぶ。
第 22 回	EDINET の XBRL インスタンス	別途プリント教材で、現在の EDINET システムにおける XBRL インスタンスについて学ぶ。
第 23 回	ディメンションの基本	テキスト第 9 章「ディメンションを用いた未集約情報の記述」のディメンションの基本構造について学ぶ。
第 24 回	ディメンションによる未集約情報の記述	テキスト第 9 章「ディメンションを用いた未集約情報の記述」のディメンションを用いた未集約情報の記述について学ぶ。
第 25 回	XBRL GL の基礎	テキスト第 10 章「XBRL GL による会計事象の記述」の XBRL GL の基礎について学ぶ。
第 26 回	XBRL GL データと財務報告との連携	テキスト第 10 章「XBRL GL による会計事象の記述」の XBRL GL データと財務報告との連携について学ぶ。
第 27 回	事象会計報告システムの実現可能性	テキスト第 10 章「XBRL GL による会計事象の記述」の SRCD による事象会計報告システムの実現について学ぶ。
第 28 回	本講義のまとめ	会計データモデル論を含めた講義全体のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読んで、あらかじめ分からない点などを把握したうえで授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
坂上学（2016）『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』中央経済社。

【参考書】
増永良文（2003）『リレーショナルデータベース入門－データモデル・SQL・管理システム〔新訂版〕』サイエンス社。
坂上学（2011）『新版 会計人のための XBRL 入門』同文舘。

【成績評価の方法と基準】
授業へのコミットメント（質疑応答等）を総合的に判断して成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テクニカルな用語がたくさん出てくるので、理解するのが大変かもしれないが、頑張ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特にはなし。

【その他の重要事項】
「IT パスポート」程度のコンピュータ全般に関する知識は、本授業の理解を大いに助けることになると思われるので、余裕があれば合わせて「基本情報技術者試験」「応用情報処理技術者試験」といった資格の取得も目指して欲しい。
また、本講義は「データベーススペシャリスト試験」に必要な内容を一部カバーしているので、将来データベーススペシャリストを目指す場合には、大いに役立つものとなるだろう。
・基本情報技術者試験： https://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/fe.html
・応用情報技術者試験： https://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/ap.html
・データベーススペシャリスト試験： https://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/db.html

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞会計学、会計情報システム
＜研究テーマ＞事象アプローチによる会計情報開示システムの構築、機械学習を用いた企業評価方法の探索、財務諸表データのテキストマイニング。
＜主要研究業績＞
・『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』、中央経済社、2016 年.（2016 年度経営分析学会森脇賞受賞）
・"The Impact of XBRL Adoption on the Information Environment: Evidence from Japan," The Japanese Accounting Review, Vol. 4 (January 2015), pp. 49-74. (with Bai Zhenyang and Fumiko Takeda)
・"Value Relevance of Profit Available for Dividend," (with Shin'ya Okuda, and Atsushi Shiiba) Asia-Pacific Journal of Accounting & Economics, Vol. 17, 2010, pp. 41-56.
・"Japanese Accounting Profession in Transition," (with Hiroshi Okano and Hiroshi Yoshimi) Accounting, Auditing & Accountability Journal, Vol. 12 No. 3, March 1999, pp. 340-357.
・『新版 会計人のための XBRL 入門』（単著）、同文舘、2011 年.
・『財務情報の利用可能性と簿記・会計の理論』（新田忠誓氏との共編著）、森山書店、2008 年.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The objective of this lecture is to acquire basic knowledge of the accounting data model and electronic disclosure system frameworks and of the extensible business reporting language (XBRL) that is used when describing financial information.
The design and development of accounting information systems proceeds on the premise of a fixed database management system (DBMS) and what is key at this time is the accounting data model. This lecture gives an overview of the development of accounting data model theory as represented by the REA accounting model with the objective of having students understand the fundamentals of accounting data models.

Today, financial accounting information can be freely obtained via electronic disclosure systems, such as EDGAR of the US SEC or EDINET of the Japanese Financial Services Agency, making it possible to use advanced accounting information, so in this course students will be given an overview of the history of electronic disclosure systems, including the technological developments to date, and will also learn the basics of XBRL, which is a computer language developed to write financial accounting information.
(Learning Objectives)
The goal of the course is to provide students with an overview of the development of the REA accounting model, the significance of the accounting data model, and the basic knowledge of the database theory behind it. The goal of this course is also to understand the basic concepts of specifications, taxonomies, and instance documents of XBRL, and to acquire basic knowledge for handling actual XBRL data.
(Learning activities outside of classroom)
This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.
(Grading Criteria/Policy)
Students are expected to participate in class, take an active role in discussions, and submit term report. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.
Grading will be based on the following percentages:
100-90:S
87-89:A+
86-83:A
82-80:A-
79-77:B+
76-73:B
72-70:B-
69-67:C+
66-63:C
62-60:C-
59-0:D
No term report: E

MAN500F1 － 0097

経営分析

福多　裕志

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営分析とは、企業会計システムを通して創出される会計情報に着目し、効率的な経営管理と合理的意思決定の促進を目的とし、創出された情報の意味内容を解釈するプロセスと技術である。本科目では、主として定量的財務諸表分析に焦点を絞り、日米の文献（およそ日本文献８：米文献２の割合）を参照しながら、講義、問題演習、受講者による発表・討論をもって授業を進行する。有価証券報告書の中身を精査する授業とは異なるので注意されたい。

【到達目標】
1. 予備技術として、オンラインデータベースより必要とされる財務データを精確に検索すること。
2. 当該財務データを統計的に処理し（記述統計）、計算結果を評価すること。
3. 財務比率・指標を比較・検討するための平均値、分散を推定し（推測統計）、計算結果を評価し、合理的意思決定に供すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンライン上の財務データを積極的に利用し、データ分析（統計解析）の実行結果を経営分析の観点から参加者間で議論・評価する。

[重要]
コロナ状況下による授業形態情報を、学習支援システム上の「お知らせ」や「授業内掲示板」に掲載します。現時点での基本方針として、キャンパス内での対面授業を予定しております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	講義計画と経営分析の目的	コース概要、経営分析の目的、機能等についての説明
第２回	財務諸表分析の枠組み：その１	財務諸表分析の基本事項および基本統計量の確認と計算
第３回	財務諸表分析の枠組み：その２	財務安全性、効率性、収益性、成長性の４領域の確認と問題演習
第４回	短期利益計画	損益分岐点分析の応用、現実データへの展開
第５回	中間発表	参加者が有する事例研究
第６回	経営分析への基礎統計学の応用１	財務諸表分析において使用される主な分布－正規分布。問題演習
第７回	経営分析への基礎統計学の応用２	財務諸表分析において使用される主な分布－ｔ分布等。問題演習
第８回	経営分析への基礎統計学の応用３	経営領域のいくつかの推定に関連する問題
第９回	経営分析への基礎統計学の応用４	財務諸表分析において使用される主な分布－χ^2分布、F 分布等。問題演習
第10回	統計解析を応用した経営分析関連のケース発表	財務諸表分析における業界平均値の推定およびその有用性の検討
第11回	経営分析への基礎統計学の応用５	複数業界の分散の推定
第12回	経営分析への基礎統計学の応用６	推定・検定の事例研究、問題演習

第 13 回	統計解析を応用した経営分析関連のケース発表	平均値、分散の推定を含む事例研究
第 14 回	最終試験	統計分析の応用に関し授業内で学習した事項の最終筆記試験および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データベースにアクセスし、関心ある個別企業、業界の財務諸表分析を様々な角度から実施することを推奨する。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に独自に作成したスライドを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】
1) Colin Drury(2008), Management and Cost Accounting 7th ed.,South-Western.
2) Ray H. Garrison(2008)，Managerial Accounting, McGraw Hill International.
3) 青木茂男『要説　経営分析　五訂版』森山書店, 2016 年.
4) 大津広一『企業価値を創造する会計指標入門』ダイヤモンド社, 2005 年.
5) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995 年.
追加的英語、日本語の参考文献は学習支援システム上に掲載する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への貢献度、事例発表）40%、最終試験 60%とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が有する予備知識に応じて柔軟に対応したい。

【学生が準備すべき機器他】
最終試験の際、一般的電卓のみ使用可とする。授業では、インターネット接続および計算ソフト（エクセル等）の利用を推奨する。

【その他の重要事項】
【重要事項】
感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞意思決定会計
＜研究テーマ＞財務体質の日米比較
＜主要研究業績＞
・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000 年.
・「売上高経常利益率の 1 次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007 年.

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In particular, in order to ensure that comparisons with industrial means are practiced, estimation and testing of population means from samples of accounting data will be conducted and discussed. Please note that this course is not intended to provide detailed interpretation of the contents of financial statements.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare and review for each class by solving assignments.
[Grading criteria]
Contributions to class activities (40%), final exam (60%)

ECN500F1 － 0098

基礎ファイナンス

山嵜　輝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ファイナンス理論の広範な成果は実社会に多大な影響を与えており、これなくして現代の金融ビジネスは成立しない。本授業では、ファイナンスを初めて学ぶ学生を対象に、証券分析や現代ポートフォリオ理論など、証券投資の理論を中心に講義を行う。また、金融実務における基礎理論の役割や活用方法についても詳しく解説したい。多くのビジネススクールでは、ファイナンスは必修科目に指定されているため、ファイナンスが専門ではない学生でも一通りのファイナンスの基礎を学ぶのが一般的である。この授業ではそのような機会を提供したい。ビジネスでファイナンスの知識が必要な学生はもちろんのこと、株式投資や資産形成に興味のある学生も歓迎である。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げる。
①金融市場の基礎知識・用語を習得し、金融商品・金融取引のしくみを理解する。
②債券や株式の基本的な計量分析や価値評価ができる。
③無裁定価格理論などのファイナンスの基本概念や将来の不確実性を伴うキャッシュフローの価値評価手法が説明できる。
④証券投資の基礎を現代ポートフォリオ理論に沿って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面授業で開講するが、初回のみオンライン授業となる。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をすること。初回オンライン授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内する。
授業は講義と Excel を用いた演習を交互に行うことで進んでいく。毎回、Excel の使えるノート PC を用意すること。ノート PC は大学で貸し出しているので、必ずしも自前の PC を持参する必要はない。Excel の使い方については、授業内で丁寧に説明する。
授業中に演習課題に対する講評をすることで、個別のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとイントロダクション	講義の進め方等の説明。
第 2 回	金融・証券市場	債券・株式市場を中心に市場の機能や分類の概説。
第 3 回	キャッシュフローと現在価値	分析に必要な数学の予備知識および現在価値の概念の解説。
第 4 回	債券分析入門 1	債券投資の収益率、スポットレート、フォワードレートの概念の解説。
第 5 回	債券分析入門 2	金利の期間構造や債券投資のリスク分析の入門的な解説。
第 6 回	債券分析入門 3	社債の信用リスクと債券格付けの入門的な解説。社債価格の評価。
第 7 回	株式分析入門 1	配当割引モデルの概説とそれを活用した理論株価の分析。
第 8 回	株式分析入門 2	株式評価のための財務分析、サスティナブル成長率、成長機会の現在価値などの解説。
第 9 回	株式分析入門 3	同業他社間比較による株式分析。

第 10 回	金融危機とファイナンス理論	リーマン・ショックなど、過去の金融危機に関するファイナンス理論の立場からの考察。
第 11 回	ポートフォリオ理論入門 1	現代ポートフォリオ理論の紹介、ノーベル経済学賞を受賞した投資理論とは？
第 12 回	ポートフォリオ理論入門 2	個別株と株式ポートフォリオのリスクとリターンについての解説。
第 13 回	ポートフォリオ理論入門 3	平均分散アプローチによる証券投資の意思決定。
第 14 回	ポートフォリオ理論入門 4	CAPM（資本資産価格モデル）の導出とアルファとベータの解釈。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
スライド資料の復習を十分に行うこと。知識を積み上げて学んで行くので、途中で理解できなかった箇所は放置せずに質問すること。また、指定した参考書を活用して理解を深めることが好ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。スライド資料を用意するので、各自ダウンロードすること。ダウンロードの方法は初回授業で説明する。

【参考書】
①佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2020 年、ビジネス教育出版社
②伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II　実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
③ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション
④小林孝雄、芹田敏夫、『新・証券投資論 I　理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
演習（50 %）、平常点（50 %）
授業中に基礎的な問題を解いたり、Excel 演習の課題発表を行ってもらうことで理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例をたくさん紹介することでファイナンスの基礎理論が理解しやすくなるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
毎回 Excel を使うので、Excel が使えるノート PC を各自で用意すること。ノート PC は大学で貸し出しているので、必ずしも自前の PC を持参する必要はない。

【前提知識】
中学・高校の数学の基礎知識（連立方程式、2 次方程式、関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス
＜研究テーマ＞　金融テクノロジー、資産価格理論
＜主要研究業績＞
① “A General Control Variate Method for Levy Models in Finance,” *European Journal of Operational Research*, Vol.284, No.3, 2020, Elsevier
② “Probability Weighting and Default Risk: A Possible Explanation for Distressed Stock Puzzles,” *Quantitative Finance*, Vol.20, No.5, 2020, Taylor & Francis
③ “A Dynamic Equilibrium Model for U-Shaped Pricing Kernels,” *Quantitative Finance*, Vol.18, No.5, 2018, Taylor & Francis

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わった。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説する。

【関連科目】
基礎ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、実証ファイナンス入門

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides fundamentals of modern finance theory and its applications to basic security analysis, investment decisions, financial asset pricing, and financial risk management.
[Learning objective] The objectives of this course are to give: (1) basic knowledge of financial system, financial markets, and securities; (2) valuation methods of stocks and bonds; (3) methods for incorporating risk analysis into valuation models, including the mean-variance approach and the Capital Asset Pricing Model; and (4) applications to corporate financial decisions, including optimal capital structure, capital budgeting, and dividend policy.
[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Exercises: 50%, in class contribution: 50%.

ECN500F1 － 0099

実証ファイナンス入門

金　瑢晋

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、主にファイナンスや会計関連分野で実証研究を行う上で必要とされる分析方法を身に付けることを目的とします。実証ファイナンスは、計量経済学と密接な関係があり、そのファイナンス関連分野への応用と、ファイナンス分野発祥の分析手法で成り立ちます。問題意識と符合する推定モデルの選択は、先行研究の理解及び研究遂行の上で、極めて重要なプロセスです。授業は、分析手法の学習、金融・財務データを用いた実習、関連文献の紹介で構成されます。アカウンティング・ファイナンスコース以外の学生の受講も歓迎します。

【到達目標】
・論文作成に必要な実証分析の基礎を身に付けることができます。
・仮説の立て方と検定について一定レベルの知識が培われます。
・企業と金融・資本市場から入手できるデータの加工能力が高まります。
・計量分析ソフトウェアの使い方を身に付けられます。
・ファイナンス・会計関連分野の先行研究について理解が深まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に講義と実習に基づきます。時間の制約上、推定モデルの直観的な理解と実際のデータ処理能力の向上に照準を合わせます。授業中には、計量分析ソフトウェアを用いた実習を行い、理解力を高めます。講義内容は、受講者の前提知識と要望などにより変更があり得ます。授業計画については、トピックの順序が前後する、または、時間の配分が流動的になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	具体例から始める：マーケットモデルの理解 1	収益率の理解、収益率データ（離散、連続）の計算（日次、月次）と統計量
第 2 回	具体例から始める：マーケットモデルの理解 2	マーケットモデルの推定と直観的理解、計量分析ソフトウェアの使い方
第 3 回	統計学の復習 1	母集団と標本、収益率と確率変数、収益率データの記述統計量、ボラティリティの推定
第 4 回	統計学の復習 2	推定量の性質（不偏性、有効性、一致性）、仮説検定、t 値・p 値の理解
第 5 回	標準的仮定の下での回帰分析 1	標準的仮定の理解、最小二乗法における最小化問題の解の表現
第 6 回	標準的仮定の下での回帰分析 2	最小二乗法における推定量の望ましい性質
第 7 回	標準的仮定の下での回帰分析 3	決定係数、t 検定、予測
第 8 回	実習 1	マーケットモデルの推定（再訪）、CAPM の推定
第 9 回	多重回帰分析 1	多重共線性、自由度修正済決定係数
第 10 回	多重回帰分析 2	ダミー変数の理解、F 検定、構造変化の検定
第 11 回	実習 2	ファマ・フレンチのマルチファクターモデル
第 12 回	イベント分析 1	イベント分析方法の解説、イベント分析手法の種類、適用例の紹介
第 13 回	イベント分析 2	イベント分析における統計量の理解、イベント分析のための収益率データのマネジメント、結果の解釈
第 14 回	イベント分析 3: 実習 3	イベント分析の適用例：公募増資、新規株式公開
第 15 回	株価長期パフォーマンスの測定	BHAR、CTP、文献の紹介
第 16 回	標準的仮定の緩和 1	不均一分散、系列相関の下での推定量の性質と対応
第 17 回	実習 4	企業の財務行動分析への応用例
第 18 回	パネルデータ分析	パネルデータの作成、個別（個人）効果の理解、推定法
第 19 回	実習 5	企業の財務行動分析への応用例
第 20 回	標準的仮定の緩和 2	内生性の問題、同時方程式、操作変数法、二段階最小二乗法
第 21 回	実習 6	供給関数の推定、ファインナス分野への応用例の紹介
第 22 回	質的従属変数モデルの推定	プロビット・トービットモデルとその拡張
第 23 回	実習 7	企業の資金調達手段の選択への応用
第 24 回	時系列分析の基礎	金融時系列の性質、定常性、古典的 ARMA モデル、金融時系列データへの応用
第 25 回	ベクトル自己回帰モデル	グレンジャー因果性、インパルス応答関数、分散分解
第 26 回	実習 8	国際株式市場分析
第 27 回	個人プロジェクトの報告	報告と討論、講師からのフィードバック
第 28 回	総括	学習内容のおさらい、実証分析における留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
表計算や計量分析ソフトウェアの使い方に慣れるよう心かけましょう。

【テキスト（教科書）】
・配布物
・テキストはいくつかの候補の中で初回の授業で決めます。

【参考書】
沖本竜義、『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』、朝倉書店、2010

【成績評価の方法と基準】
質疑応答、討論などの授業参加度 30 %、期末プレゼンテーション 40 %、期末レポート 30%。期末レポートは、期末プレゼンテーションに付き、受講者と講師が行ったフィードバックを受け、更なる改善を加えたものとする。

【学生の意見等からの気づき】
更に分かりやすい解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに関連資料をアップロードします。大学院棟 2 階講師控え室からノートパソコンを借りることができます。

【その他の重要事項】
受講者にはアカウンティング・ファイナンスコース関連科目の履修を前提としませんが、これらの科目を履修または並行受講する場合、より理解が深まります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ファイナンス
＜研究テーマ＞企業の財務行動
＜主要研究業績＞
(1)J-REIT の IPO におけるスポンサーの役割、現代ファイナンス、近刊 (with 伊藤昌哉). (2)Prepayment Behaviors of Japanese Residential Mortgages, Japan and the World Economy, 30, 1-9, 2014 (with N. Kishimoto). (3)Effects of Stochastic Interest Rates and Volatility on Contingent Claims, Japanese Economic Review, 58, 71-106, 2007 (with N. Kunitomo).

【Outline (in English)】
The course offers an introduction to empirical finance for those who plan to write master's theses on finance and related topics. It also discusses empirical results in some often-quoted finance literature to understand how those analytical methods are applied.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A. acquire empirical methods needed to write theses.
B. deepen understanding of previous studies.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Class participation: 30%, Project presentation;40%, and Term paper: 30%.

ECN500F1 － 0102

コーポレート・ファイナンス

岸本　直樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目の主要な目的は、企業財務上の重要な事項についてコーポレート・ファイナンス理論が提供する知見を学ぶことにある。本年度は，標準的なコーポレート・ファイナンスの入門書ではなく，企業評価を中心的テーマにおいてコーポレート・ファイナンスを解説する専門書（マッキンゼー・アンド・カンパニーの『企業価値評価　上』）を輪読する予定である。

【到達目標】
本科目においては，次の 5 点を学ぶ。
(1) ファイナンスの要点
(2) 資本市場は情報について効率的か？
(3) 企業価値評価のフレームワーク
(4) 業績予想
(5) 資本コストの推定

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的には、教科書の指定箇所を輪読した後，ディスカッションを行うという形式で授業を進める。ただし、理解が難しい部分や、教科書が十分説明していない部分については、講師が講義したり，追加的な資料を提供したりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書の第 1 章「なぜ企業価値か？」
2	ファイナンス概説	教科書の第 2 章「ファイナンスの要点」
3	企業価値	教科書の第 3 章「価値創造の基本原則」
4	リスクと資本コスト	教科書の第 4 章「リスクと資本コスト」
5	株式市場	教科書の第 1 章「株式市場の魔力」
6	効率的市場仮説	教科書の第 1 章「市場はすべて織り込み済み」
7	収益性を測る	教科書の第 8 章「投下資産収益率」
8	企業価値評価概説	教科書の第 10 章「企業価値評価のフレームワーク」
9	財務諸表	教科書の第 11 章「財務諸表の組み換え」
10	業績評価	教科書の第 12 章「業績の分析」
11	業績予想	教科書の第 13 章「将来の業績予測」
12	継続価値	教科書の第 14 章「継続価値の算定」
13	資本コスト	教科書の第 15 章「資本コストの推定」
14	企業価値評価	教科書の第 16 章「企業価値から 1 株当たりの価値へ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修生全員が各回で指定された部分についてテキストをしっかり予習することを履修要件とする。 なお，本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
マッキンゼー・アンド・カンパニー，『企業価値評価　第 7 版　上』ダイヤモンド社

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、授業中の発表，ディスカッションにおける発言の内容，さらに，期末に実施する小テストに基づく。評価における各要素への配分は，授業中の発表とディスカッションが 70%，小テストが 30%。

【学生の意見等からの気づき】
さらに授業内でのディスカッションを活性化する。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
本科目を履修する前に「基礎ファイナンス」を履修することが望ましい。また，ファイナンス，あるいは，ファイナンスに近い分野で修士論文を書く計画を立てている履修者は，「実証ファイナンス」も履修することが必須である。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> ファイナンス
< 研究テーマ> 債券、先物、オプション、デリバティブ、証券化商品、住宅ローンの期限前償還。
< 主要研究業績>
①『入門・証券投資論』（池田昌幸氏との共著），有斐閣，2019. ② "Prepayment Behaviors of Japanese Residential Mortgages," Japan and the World Economy, No. 30 (2014), pp. 1-9. ③"Pricing Path-Dependent Securities by the Extended Tree Method," Management Science, Vol. 50 No. 9 (2004), pp. 1235-1248.

【Outline (in English)】
Course outline: The main objective of this course is to learn the knowledge provided by the finance theory on important issues in the corporate finance area. This year, we will not read a standard introductory textbook on corporate finance, but a specialized book (McKinsey & Company's "Valuation") that explains corporate finance with a focus on the valuation of corporations.
Learning objectives: In this course, students will learn the following five points.
(1) Finance in a nutshell
(2) Are capital markets efficient with respect to information?
(3) Framework of corporate valuation
(4) Earnings forecast
(5) Estimation of the cost of capital
Learning activities outside of classroom: All students are expected to prepare the summary of an assigned part of the textbook. I expect that it will take about four hours to prepare the summary.
Grading criteria/policy: Grading will be based on presentations in class, comments in discussions, and a quiz at the end of the semester. 70% of the grade will be based on class presentations and discussions, and 30% on the quiz.

MAN500F1 － 0107

経営学基礎

福島　英史

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は，経営学の基礎的な知識を習得・復習することにあります。企業組織が市場を中心とした環境に働きかける戦略の活動とこれを支える組織の問題を考えていきます。どのように精緻に活動を計画できたとしても，組織がこれを適切に遂行できなければ，期待するような成果を得ることはできるはずもありません。そこで，組織の対外的な戦略の活動とこれを計画し，遂行する組織内部の問題についてみていきます。

【到達目標】
経営学のエッセンシャルな概念・視角について理解・復習し，説明できることが到達目標です。現代の経営問題につなげて考えられることが，期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は講義を中心に進めます。株式会社の意義や戦後の日本的経営，組織の存在と人々の参加，顧客・競合他社をとらえる経営戦略の視点など，経営学の一般的トピックスを学びます。ただし授業中に，トピックスに関連したエクササイズ（経営学クイズ）を解く課題があります。その際，発言を求められることがあります。教員のコメントや解説が行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要と問題意識の共有
第 2 回	株式会社の意義	日本企業の所有と統治
第 3 回	雇用問題の視点	日本的雇用慣行
第 4 回	組織と市場	組織の存在意義
第 5 回	モチベーション	実体とプロセスの理論
第 6 回	リーダーシップ	スタイルと状況適合
第 7 回	企業戦略	経営戦略と組織
第 8 回	事業の範囲	事業の多様化と再集中
第 9 回	競争構造と収益性	業界構造の観点
第 10 回	競争戦略	競争と協調の論理
第 11 回	構造の変革と維持	パワー分布と利益配分
第 12 回	イノベーションの視点	イノベーションと市場地位
第 13 回	グローバル戦略	市場機会と競争優位
第 14 回	まとめ，試験	学習成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回講義について復習するとともに，身近な事例についてその意味を考えてみる．本授業の準備学習・復習時間は，各２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。担当教員が作成した教材を配布します。

【参考書】
多岐にわたるため，授業中に各トピックスに関連した文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】
学習成果を確認する試験を行い（５０％），授業中のエクササイズ課題とこれにもとづく発言（５０％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業時エクササイズ時間をしっかりとります。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに，急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は，予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
授業外でどうしても教員へアクセスが必要な場合，fksmhs@gmail.com へご相談ください．

【担当教員の専門分野】
経営戦略とイノベーション

【研究テーマ】
戦略とイノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学説史で学ぶ経営戦略』（文真堂），2022.5.　・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016.　・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteriesfor Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013.・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂），2012.・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010.・「事業の多様化と経営成果―時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009.

【Outline (in English)】
(Course outline) This course deals with essential knowledge on business administration. We focus on the management of organizations and strategies. (Learning Objectives) The goal of this course is to learn essential academic concepts and theories related to the management of organizations and strategies. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to consider real life businesses from academic concepts and theories. The study time will be four hours for a class. (Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on exercise assignments (50%) and semester-end examination (50%).

MAN500F1 － 0108

会計学基礎

筒井　知彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、会計学の入門的な内容を学ぶ。財務諸表 (貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書) の仕組みと見方、資産評価、収益や費用の認識と測定、財務分析の手法を学ぶ。学習を通じて財務諸表を読めるようになること、また、実際の財務諸表データを利用して基本的な財務分析を行えるようになることを目的とする。

【到達目標】
①貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書が読める。
②基本的な財務指標の知識が増える。
③企業の財務データを利用して基本的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
①講義と質疑応答、ディスカッションにより進めます。
②第 12 回～第 14 回では各学生に財務分析のプレゼンテーションを行ってもらい、それをもとにディスカッションをします。
③毎回、リアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の全体の概要を説明します。
第 2 回	財務諸表の見方 (その 1)	貸借対照表の構造および役割等について講義し、具体的な事例で見方を学びます。
第 3 回	財務諸表の見方 (その 2)	損益計算書の構造、役割および貸借対照表との関係等について講義し、具体的な事例で見方を学びます。
第 4 回	財務諸表の見方 (その 3)	キャッシュ・フロー計算書の構造、役割並びに貸借対照表および損益計算書との関係等について講義し、具体的な事例で見方を学ぶ。
第 5 回	財務諸表の見方 (その 4)	財務諸表を利用した分析手法を講義し、具体的な事例で実践します。
第 6 回	制度会計 (その 1)	わが国の制度会計 (金融商品取引法会計・会社法会計・税務会計) の概要を理解します。
第 7 回	制度会計 (その 2)	わが国の制度会計 (金融商品取引法会計・会社法会計・税務会計) の相互の関係と、国際的基準の影響について講義します。
第 8 回	利益計算の構造 (その 1)	伝統的な利益計算構造と財務会計の諸概念について講義します。
第 9 回	利益計算の構造 (その 2)	資産・負債アプローチに基づく利益計算構造と財務会計の諸概念について講義します。
第 10 回	利益計算の構造 (その 3)	伝統的な利益計算と資産・負債アプローチに基づく利益計算が現代の企業会計においてどのように統合されているかを理解します。
第 11 回	経営分析 (1)	具体的な事例により、収益性、効率性、安全性を分析します。
第 12 回	経営分析 (2)	財務分析のプレゼンテーション
第 13 回	経営分析 (3)	財務分析のプレゼンテーション
第 14 回	経営分析 (4)	財務分析のプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
①財務分析の手法に関する資料は復習してください。
②また、各自が選んだ企業の財務データについて、レポートをまとめてもらう予定です。
③それをもとにプレゼンテーションを行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】
Hoppii により講義資料を配布します。

【参考書】
特に指定はしませんが、会計学または財務会計の入門書が参考になります。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション 40 %およびレポート 60%により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例の紹介を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
講義は ZOOM によりオンラインで実施しますのでソフトをダウンロードしておいてください。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 財務会計
< 研究テーマ> 会計規制論
< 主要研究業績>
①『企業分析入門』(共訳，東京大学出版会，2001 年 3 月)
②『財務会計通論』(分担執筆, 税務経理教会，2009 年 3 月)
③『収益の会計』（日本証券アナリスト協会）

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class focuses on financial literacy and aims to provide students with the knowledge, understandings and a range of skills that enables them to make basic financial analysis.
（Learning Objectives）
① Understand the basic accounting concepts and rules.
② Describe and apply the basic techniques of financial statement analysis.
（Learning activities outside of classroom）
Review each lesson’s Power Point.　Preparing for your presentation and report.
（Grading Criteria /Policy）
Presentation:30% , Report:70%

ECN500F1 － 0110

経済学基礎

宮澤　信二郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人や企業などの意思決定プロセスやそれらの相互作用に関する学問体系であるミクロ経済学についての講義を受け，問題演習を行う。経営学の諸分野を学ぶ上で基礎となるミクロ経済学の考え方・分析手法を身につける。

【到達目標】
以下のような事項について理解し，応用できるようになる。
（1）企業は何をどれだけ使って，何をどれだけ販売しようとするのか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすのか。
（2）モノの値段がどのように決まるのか。また，その決定にどのような要因がどのような影響を及ぼすのか。
（3）短期的な意思決定と長期的な意思決定の違いは何か。
（4）人々の行動が相互に影響を及ぼしあうような状況ではどのように意思決定したらよいのか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基礎となる理論について講義した後に問題演習を行う。講義の際には，聴くだけにならないようにするため，考えるきっかけを与えたり，理解を確認したりするような質問を投げかける。問題演習の際には，各自が自ら考える時間を確保するとともに，必要に応じて，正解に導くような助言を与える。
この授業は対面で実施予定だが，社会状況や受講者の事情によっては，オンラインで実施する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション／需要供給と市場均衡（1）	ミクロ経済学の特徴と全体像を解説した後にこれを学ぶ意義について議論します。続いて，教科書 4 章に基づいて，需要と供給の振る舞いおよび需要と供給による取引内容（数量・価格）決定メカニズムについて学びます。
第 2 回	需要・供給と市場均衡 (2)	教科書 5 章に基づいて，価格の変化が需要と供給に及ぼす変化の程度（弾力性）が取引内容の変化に及ぼす影響について学びます。最後に，第 1 回と第 2 回の内容に関する問題演習を行います。
第 3 回	生産の費用	教科書 13 章に基づいて，企業による生産に関わる費用について学びます。
第 4 回	競争市場における企業	教科書 14 章に基づいて，競争市場における企業の生産量決定について学びます。続いて，第 3 回と第 4 回の内容に関する問題演習を行います。
第 5 回	効率性と市場の失敗／独占	教科書 7 章に基づき，取引内容の望ましさの指標として，余剰という概念を学びます。更に，市場取引により効率的な結果（余剰の合計が最大になるような結果）が実現する場合とそうならない場合について学びます。続いて，教科書 15 章に基づき，独占企業の生産量決定について学びます。
第 6 回	寡占	教科書 17 章に基づき，市場の企業数が 2 社以上だが少数である場合の企業行動について学びます。続いて，第 5 回と第 6 回の内容に関する問題演習を行います。
第 7 回	まとめ／試験	全体のまとめを行います。続いて，期末試験を実施し，解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は事前に以下のテキストを読んでくることが求められます。また，授業後に学習内容を復習することが求められます。
本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『マンキュー経済学Ｉミクロ編（第 4 版）』，マンキュー（足立ほか訳），東洋経済新報社，2019 年，4000 円＋税

【参考書】
［1］伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣，2012 年
［2］安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣，2013 年
［3］芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣，2009 年
［4］神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社，2014 年
＊［1］と［2］は上記の教科書よりも易しいテキスト，［3］と［4］は上記教科書よりも難しいテキストで，易しい順になっています。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加・貢献，問題演習への取り組み）40 %，期末試験 60 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は開講していません。一昨年度以前の受講者の意見などを踏まえ，問題演習に十分な時間を取りたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
資料は学習支援システムで配付します。また，教科書準拠のオンライン教材を使用します。学習支援システムやオンライン教材を利用できるような端末（PC，タブレット端末，スマートフォン等）が必要となります。

【その他の重要事項】
特に前提となる知識・能力はありません。この授業ではマクロ経済学は（ほとんど）扱いません。マクロ経済のトピックスに興味のある方は『日本経済基礎』の履修を検討してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞応用ミクロ経済学（特に，企業金融論，産業組織論）
＜研究テーマ＞
企業金融と市場競争の相互作用に関する研究
＜主要研究業績＞
[1] "Financial Contract and Capital Allocation: A Comparison between Market-based Finance and Bank Finance" 経営志林 第 55 巻第 2 号，2018 年
[2]「企業間信用に関する一考察―銀行と供給者との間の利害衝突を考慮して―」 経営志林　第 53 巻第 4 号，25 － 52 頁，2017 年
[2]「EU 国家補助規制の考え方の我が国への応用について」（大久保直樹氏ほかと共著）競争政策研究センター共同研究報告書 CR03-13 2013.
[3]「公的金融と市場競争―産業組織論アプローチ―」 フィナンシャル・レビュー 133, 147-168 2013.
[4] "Optimal borrowing structure: An explanation of multiplicity of large-share creditors and asymmetry among them," Journal of The Japanese and International Economies 26, 434-453 2012.
[5]「国家賠償と求償に関する経済分析」，社会科学研究　第 62 巻第 2 号，55 -　79 頁，2011 年.

[6]「偏波弁済の詐害行為取消しに関する分析―法と経済学の視点から―」（藤澤治奈氏との共著），新世代法政策学研究　第 10 号，351 - 369 頁（担当部分），2011 年.（倒産・再生法制研究奨励金賞（トリプルアイ・高木賞）（奨励賞）（財団法人民事紛争処理研究基金）受賞）
[7]「情報財の価格差別と著作権保護」，知的財産法政策学研究　第 24 号，229-257 頁，2009 年.
[8] "Innovative interaction in mixed market: An effect of agency problem in state-owned firm," Economics Bulletin 12, 1-8, 2008.

【Outline (in English)】
[Course outline]
Students take a lecture on the basics of microeconomics, which studies individuals' decision-making and its interaction.
[Learning Objectives]
Students should learn microeconomic methods of thinking and analytical techniques.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours understanding the course content.
[Grading Criteria /Policy]
The final grade will be decided based on the term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

FRI500F1 － 0116

ｅ-ビジネス論

入戸野　健

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを活用したビジネスモデルの仕組みと関連するシステムの構築方法について技術的な側面を踏まえその基礎から理解する。

【到達目標】
主要なインターネットサービスのビジネスモデルの構成やそれらの実現に必要な Web 技術について説明できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
具体的には BtoC サービスを中心に取り上げ、検索サイト、インターネット通販、SNS などを運営する企業のビジネスモデルを考察しながら、それらの構成要素となるインターネット広告、ユーザのネットワークデータの分析法、知識に関する技法などの考え方について理解を深めて行く。文献研究および事例研究（演習）では担当者を決めて発表をしてもらう。受講者の希望に応じて特定の項目を重点的に取り上げることもあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	e ビジネスと電子商取引	e ビジネスについて概観し従来の電子商取引 (e コマース) からの変遷について解説する。
第 2 回	インターネットビジネスモデル	インターネットを活用したサービスや企業のビジネスモデルについて考察する。
第 3 回	ネットワーク技術の基礎	インターネットの仕組みやネットワークサービスに関する技術的な基礎知識について説明する。
第 4 回	Web サイトの構築と最適化	e ビジネスを展開するためのサイト構築法とその最適化 (SEO) について解説する。
第 5 回	知識に関する技法	機械学習、Deep Learning、AI などといった知識に関する技法とその応用について考察する。
第 6 回	文献研究	最近のトピックから文献を選定し輪読を行う。
第 7 回	事例研究 (演習)	具体的な企業やネットワークサービスを取り上げて事例研究を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
予習よりも復習として各回で得た知識を授業後に各自整理しておくことが重要。但し、輪読や事例研究 (演習) の担当者は発表資料等の準備を事前に十分に行う必要がある。

【テキスト（教科書）】
全体を通じたテキストは使用しない。講義資料を毎回配布する。

【参考書】
授業の進捗に合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (40%) : 授業への参加意欲や学習態度を評価する。

発表と議論への参加 (60%) : 分担の発表とそのディスカッションへの参加状況を評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例をより多く取り上げるようにしたい。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 計算機科学、ネットワーク技術、計算機統計学
< 研究テーマ> Web データ解析、確率的シミュレーションモデル
< 主要研究業績>
① “An Approach to the Modeling of Abstraction Systems for Collective Text”, The 9th Conference of the Asian Regional Section of the IASC: Book of Abstracts (2015).
② “Association Rule Generation and Mining Approach to Concept Space for Collective Documents”, Proceedings of the 59th World Statistics Congress of the International Statistical Institute (2013).
③ “Evaluation of Sequential Approaches to Image Restoration Using Monte Carlo Methods”, Bulletin of the International Statistical Institute, 55th Session Contributed Papers (2005).

【Outline (in English)】
(Course outline) This course aims for giving fundamental understanding on mechanisms of business models utilizing the Internet and technological methods of constructing its relative systems.
(Learning Objectives) The goal is to be able to explain the structure of the business models of major Internet services and the Web technologies required to construct and realize them.
(Learning activities outside of classroom) It will be important for each student to organize the knowledge obtained in each class after the class as a review. Those in charge of literature reading and case studies need to prepare presentation materials well in advance.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and assigned presentation and participation in those discussion (60%).

MAN500F1 － 0142

定性的方法論

田路　則子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術論文を定性調査によって書くための方法論を体系的に学ぶ。ケースタディ（事例分析）、エスノグラフィ（参与観察等）、歴史アプローチにおける、フィールドワーク、データ分析、理論構築、記述までのプロセスを学習する。さらに、秀でた研究を読むことにより、理解を深める。

【到達目標】
修士または博士論文作成を見据えた、定性的方法論を修得する。方法論はマーケティング領域以外にも共通であり、戦略論や組織論の論文作成を予定している学生の履修も歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
理論書を読んで理解した上で、サンプル論文を読み、理論構築の実際を確認していく。教員が用意したサンプル論文にこだわらず、読みたい論文を学生が持ち込み、皆で読んで評価するという参加型の講義にしたい。
第一週の講義はオンライン ZOOM で実施をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	問題ある修士論文の例/理論書「実証研究の方法」藤本隆宏
2 回	実証研究における理論構築	理論書「実証研究の方法」藤本隆宏/「クチコミ」田路の修士論文
3 回	ケース・スタディ	理論書「ケーススタディの方法」R・K イン 序− 4 章/
4 回	ケース・スタディ	理論書「ケーススタディの方法」R・K イン　5-6 章
5 回	ケース・スタディ	「イノベーションの資源動員と技術進化」松本陽一
6 回	ケース・スタディ	理論書「ケース・スタディのアプローチ」横澤
7 回	ケース・スタディ	「小売国際化プロセス」矢作敏行 3,5 章
8 回	歴史的アプローチ	「組織は戦略に従う」A・D・チャンドラー Jr. 序-2 章
9 回	歴史的アプローチ	「組織は戦略に従う」A・D・チャンドラー Jr. 3,6,7 章
10 回	質的データ分析ーコーディングの手法	理論書「質的データ分析法」佐藤郁哉 1-8 章/「看護師の倫理的ジレンマ」のコーディングのサンプル
11 回	質的データ分析ーインタビューの方法	インタビューのロール・プレイ
12 回	エスノグラフィ	「暴走族のエスノグラフィー」佐藤郁哉　1, 終章
13 回	エスノグラフィ	「洗脳するマネジメント」ギデオンクンダ 3、解説章
14 回	エスノグラフィ	「京都花街の経営学」西尾久美子　書籍&ビデオ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、リーディングに対して、簡単なメモを作成してくる。およそ 4 時間程度の準備が必要となる。

【テキスト（教科書）】
「ケーススタディの方法」　R・K イン　千倉書房
「質的データ分析法」　佐藤郁哉　新曜社

【参考書】
「組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門」佐藤郁哉　有斐閣
「組織行動の調査方法」　E・F ストーン　白桃書房
「創造的論文の書き方　」伊丹敬之　有斐閣
「リサーチマインド経営学研究法」　藤本隆宏他、有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
課題に対するメモ提出と授業への貢献
課題提出６０％、議論４０％

【学生の意見等からの気づき】
自身の研究計画の経過を紹介し、受講生間で意見交換することは有意義であった。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略、技術経営
＜研究テーマ＞
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「ハイテク・スタートアップの成長」
「ハイテク産業集積のエコシステム」
＜主要研究業績＞
①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子, 白桃書房, 2020 年.
②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻 3,pp172-184,2017.
③「WEB ビジネスにおけるスタートアップの成長要因―首都圏における定量調査と事例分析―」田路則子・新谷優『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第 31 巻,pp.63-67,2018.
④ “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,”
Noriko Taji, Technology,Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol.14,pp.263-287,2014.
⑤『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子• 露木恵美子, 東洋経済新報社,2010.
⑥「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻,5 号,pp211-231,2009.
⑦『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子, 白桃書房,2005.

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】: Students learn several methodologies of qualitative research; case study, historical approach and ethnography.They can realize the process of field work, data analysis, theory construction and writing. In order to deepen understanding methodologies, they must read outstanding papers and books.
【Learning activities outside of classroom】: Students have to submit small reports every week.
【Grading Criteria /Policy】: small reports(60%) and class contribution(40%)

MAN500F1 － 0122

外国語経営学特殊講義 1

ジョナサン・エイブル

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Managerial Communication for International Business.
This course aims to provide professionals with the tools they need to communicate in English in a variety of real life environments. The focus will be on communication and therefore speaking and listening are the core skills.

【到達目標】
This course aims to promote confident practical use of English in a Business Environment.
Environments explored will include up and down chain of command communication, dealing with visitors, problem solving in a team and dealing with foreign clients at home and abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
Effective English language communication has become an essential tool in the global business environment. This course will lead students in maximizing their English skills for business situations.
The emphasis is on practice and confidence-building through personal and interpersonal communication.
Argument, decision making and critical thinking in business situations form the core of the classes, which will focus on student-led activities with the instructor as facilitator. Activities will include presentation, practice meetings, debates and discussions. There will be a modicum of written assignment.
All classes are conducted in English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and general overview	Orientation and first exercises
Week 2	Getting to know you	Greetings and goodbyes.
Week 3	Socialising 1	Making small talk.
Week 4	Socialising 2	Manners, etiquette and food.
Week 5	Presentation 1	Individual presenatations to introduce yourself.
Week 6	Transport	How to get around foreign coutries.
Week 7	Travel	Destinations and describing places.
Week 8	Presentation 2	Small group presentations to practise cooperation and structure.
Week 9	Corporate language.	Interpreting and eliminating ’jargon’.
Week 10	Company vocabulary.	Understanding different corporate stuctures.
Week 11	Instructions.	Getting people to do what you want.

Week 12	Presentation 3	Group presentations on themes at from work done so far.
Weel 13	Review.	Discussion of problem areas and resolution.
Week 14	Final assessment.	Self-assessment and interview exercises.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】
No speciific text book as materials will be provided in the class.

【参考書】
Various online services will be used including BBC, TED and Lingiahouse.

【成績評価の方法と基準】
Attendance is mandatory in this group-dynamic oriented classroom environment.
Continuous assessment by the instructor is key.
Participation and attitude 60%
Reports 20%
Final self-assessment and interview 20%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
Managerial Communication for International Business.
This course aims to provide professionals with the tools they need to communicate in English in a variety of real life environments. The focus will be on communication and therefore speaking an listemnng are the core skills.

MAN500F1 － 0123

外国語経営学特殊講義２

ジョナサン・エイブル

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Managerial Communication for International Business.
In the second part of this course we will focus on the langauge and structure of Business and Companies. Through constant discussion and exchange in the classroom we will de-mystify the means of communication employed in international compnaies and business environments.

【到達目標】
The aim of this class is to make clear the various elements of business communication that can cause difficulty when working internationally.
It is also important to be able to express our own working practices for our overseas clients and colleagues.
Self-expression with confidence is the key to this, and our goal in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
Effective English language communication has become an essential tool in the global business environment. This course will lead students in maximizing their English skills for business situations.
The emphasis is on practice and confidence-building through personal and interpersonal communication.
Argument, decision making and critical thinking in business situations form the core of the classes, which will focus on student-led activities with the instructor as facilitator. Activities will include presentation, practice meetings, debates and discussions. There will be a modicum of written assignment.
All classes are conducted in English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to Part Two	Introducing materials and planning.
Week 2	Jobs 1	Describing duties and resposibilites.
Week 3	Jobs 2	Applications and interviews.
Week 4	Companies 1	Corporate structures.
Week 5	Companies 2	Examining individual companies.
Week 6	Presentation 1	Your company. Presenting fictitious companies to the public.
Week 7	Meetings 1.	Vocabulary and structure.
Week 8	Meetings 2.	Practical exercises.
Week 9	Negociations.	Bargaining and the structure of a negociation.
Week 10	Marketing.	The language of selling.
Week 11	Advertising,	The power of persuasive English.

Week 12	Presentation 2.	A marketing campaign.
Weel 13	Review	Discussion and resolution of issues arising from the class.
Week 14	Final assessment.	Self-assessments and interviews.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】
No speciific text book as materials will be provided in the class.

【参考書】
arious online services will be used including BBC, TED and Lingiahouse.

【成績評価の方法と基準】
Attendance is mandatory in this group-dynamic oriented classroom environment.
Continuous assessment by the instructor is key.
Participation and attitude 60%
Reports 20%
Final self-assessment and interview 20%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
Managerial Communication for International Business.
In the second part of this course we will focus on the langauge and structure of Business and Companies. Through constant discussion and exchange in the classroom we will de-mystify the means of communication employed in international compnaies and business environments.

MAN700F1 － 0001

博士演習ＩＡ（履修登録用代表コード）

経営学専攻　専任教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅰ A, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop Ⅰ A.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を報告する
第２回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第３回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第４回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第５回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第６回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第７回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第８回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第９回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける

第 11 回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第 12 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によって授業計画は修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

MAN700F1 － 0001

博士演習ＩＡ

坂上　学

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅰ A, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop Ⅰ A.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 3 回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 4 回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 5 回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 6 回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 7 回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 8 回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 9 回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 10 回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける

第 11 回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第 12 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によって授業計画は修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

MAN700F1 － 0001

博士演習ＩＡ

北田　皓嗣

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅰ A, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop Ⅰ A.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 3 回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 4 回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 5 回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 6 回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 7 回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 8 回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 9 回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 10 回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける

第 11 回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第 12 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によって授業計画は修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

MAN700F1 － 0002

博士演習ＩＢ（履修登録用代表コード）

経営学専攻　専任教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅰ B, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop Ⅰ B.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 3 回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 4 回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 5 回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 6 回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 7 回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 8 回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 9 回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告

第 10 回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第 11 回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第 12 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることが想定される。

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

MAN700F1 － 0002

博士演習Ⅰ B

坂上　学

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習Ⅰ B では、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅰ B, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop Ⅰ B.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 3 回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 4 回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 5 回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 6 回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 7 回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 8 回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 9 回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告

第 10 回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第 11 回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第 12 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることが想定される。

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

MAN700F1 － 0002

博士演習Ⅰ B

北田　皓嗣

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習Ⅰ B では、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅰ B, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop Ⅰ B.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップⅠ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 3 回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 4 回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第 5 回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 6 回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 7 回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第 8 回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第 9 回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告

第 10 回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第 11 回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第 12 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることが想定される。

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

MAN700F1 － 0003

博士演習ⅡＡ（シラバス用代表コード）

経営学専攻　専任教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡＡでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goal of the present seminar, Ⅱ A, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告

第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar Ⅰ A will be carried out.

MAN700F1 － 0004

博士演習ⅡＢ（シラバス用代表コード）

経営学専攻　専任教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡＢでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goal of the present seminar, Ⅱ B, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告

第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar Ⅰ B will be carried out.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ（シラバス用代表コード）

経営学専攻　専任教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ（シラバス用代表コード）

経営学専攻　専任教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0003

博士演習ⅡＡ

西川　英彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡＡでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goal of the present seminar, Ⅱ A, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告

第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar Ⅰ A will be carried out.

MAN700F1 － 0004

博士演習Ⅱ B

西川　英彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習Ⅱ B では、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ B のシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goal of the present seminar, Ⅱ B, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告

第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar Ⅰ B will be carried out.

MAN700F1 － 0003

博士演習ⅡA

小川　憲彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠAのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goal of the present seminar, Ⅱ A, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告

第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar Ⅰ A will be carried out.

MAN700F1 － 0004

博士演習Ⅱ B

小川　憲彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習Ⅱ B では、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ B のシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goal of the present seminar, Ⅱ B, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告

第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar Ⅰ B will be carried out.

MAN700F1 － 0003

博士演習ⅡA

新倉　貴士

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠAのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goal of the present seminar, Ⅱ A, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告

第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar Ⅰ A will be carried out.

MAN700F1 － 0004

博士演習Ⅱ B

新倉　貴士

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習Ⅱ B では、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。
ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ B のシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goal of the present seminar, Ⅱ B, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 3 回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 4 回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第 5 回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告

第 6 回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 7 回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 8 回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第 9 回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 10 回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar Ⅰ B will be carried out.

MAN700F1 － 0005

博士演習Ⅲ A

田路　則子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

田路　則子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

金　容度

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
完成されている各章の論文が博士論文全体の体系的な構成につながるように、集中的な指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

MAN700F1 － 0006

博士演習Ⅲ B

金　容度

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
完成されている各章の論文が博士論文全体の体系的な構成につながるように、集中的な指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

西川　英彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

新倉　貴士

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

西川　英彦

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

新倉　貴士

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

長岡　健

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

長岡　健

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

安藤　直紀

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。
なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける

第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
適宜、論文等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. Students should submit a certificate showing that they are the principal author when the publication is co-authored.
However, unless they passed the first step or step one of Doctoral Workshop I, same practice of Dissertation Seminar I will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar II will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop II as well.
(Learning objectives)
The goals of the doctoral seminar, III A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to make presentations at academic conferences on the contents of their doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals following the advice of their instructor.
(Grading criteria/policies)
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

安藤　直紀

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。
なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける

第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
適宜、論文等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. Students should submit a certificate showing that they are the principal author when the publication is co-authored.
However, unless they passed the first step or step one of Doctoral Workshop I, same practice of Dissertation Seminar I will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar II will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop II as well.
(Learning objectives)
The goals of the doctoral seminar, III B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to make presentations at academic conferences on the contents of their doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals following the advice of their instructor.
(Grading criteria/policies)
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

金　瑢晋

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

金　瑢晋

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

横山　斉理

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第 2 回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 3 回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 4 回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第 5 回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 6 回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 7 回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第 8 回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第 9 回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第 10 回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第 11 回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第 12 回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告

第 13 回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第 14 回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0007

博士コースワークショップⅠA

経営学専攻　専任教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップⅠAでは、中間報告会での報告内容が、ステップ１のクリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
The goal of this class is to pass the first step or step one of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on a submitted research proposal including (1) issues and research questions based on the critical literature review of previous studies on your fields of subjects, (2) methods you will adopt, (3) the dissertation organization, (4) the writing schedule.
For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員による批判や助言をもらい、報告会参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生も研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第 3 回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第 4 回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 5 回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける

第 6 回	博士コース中間報告会①	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、7 月第 1 土曜日に開催予定である。
第 7 回	博士コース中間報告会②	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、7 月第 1 土曜日に開催予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You should steadily progress your research in a planned way. Preparation for the requisite presentation in the workshop as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals is needed. After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should sort tasks and improve your studies continuously for your dissertation.

【テキスト（教科書）】
Not specified

【参考書】
Not specified

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, presentations, responses in the Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to take the next class of Dissertation Workshop Ⅱ A and/or Ⅱ B. Note that students who passed the Dissertation Workshop Ⅰ A examination do not have to take Dissertation Workshop Ⅰ B.

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。
In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】
The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that students make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.
The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve yourself via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.
Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

MAN700F1 － 0008

博士コースワークショップＩＢ

経営学専攻　専任教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップＩＢでは、中間報告会での報告内容が、ステップ１のクリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
The goal of this class is to pass the first step or step one of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on a submitted research proposal including (1) issues and research questions based on the critical literature review of previous studies on your fields of subjects, (2) methods you will adopt, (3) the dissertation organization, (4) the writing schedule.
For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員による批判や助言をもらい、報告会参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生も研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第 2 回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第 3 回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第 4 回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 5 回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける

第 6 回	博士コース中間報告会①	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している
第 7 回	博士コース中間報告会②	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You should steadily progress your research in a planned way. Preparation for the requisite presentation in the workshop as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals is needed. After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should sort tasks and improve your studies continuously for your dissertation.

【テキスト（教科書）】
Not specified

【参考書】
Not specified

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, presentations, responses in the Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to take the next class of Dissertation Workshop Ⅱ A and/or Ⅱ B. Note that students who passed the Dissertation Workshop Ⅰ B examination do not have to take (next year's) Dissertation Workshop Ⅰ A.

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。
In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】
The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that students make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.
The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve yourself via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.
The research proposal is examined and assessed by supervisors and other faculties and judged whether the step requirements are satisfied or not.

MAN700F1 － 0009

博士コースワークショップⅡA

経営学専攻　専任教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会での報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数教員からの批判、助言、質問等を受けられる良い機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップⅡAでは、中間報告会での報告が、ステップ２のクリアに求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
The goal of this class is to pass the second step or step two of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on the submitted papers including both a literature review study and at least one (empirical) study equivalent to one chapter of dissertation. For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments of your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students and participants through Q and A sessions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生、研究生は、研究科長の許可を得たうえで参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第 2 回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第 3 回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第 4 回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第 5 回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する

第６回	博士コース中間報告会①	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、７月第１土曜日を予定している。
第７回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、７月第１土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You should steadily progress your research in a planned way. The preparations for the requisite presentation in the workshop, as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals, are expected. After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should sort tasks and continuously improve your studies for your dissertation.

【テキスト（教科書）】
Not specified

【参考書】
Not specified

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, qualities of presentation, responses in Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to take the next series of Dissertation Workshop Ⅲ A and/or Ⅲ B.
Note that students who passed the Dissertation Workshop Ⅱ A examination do not have to take Dissertation Workshop Ⅱ B.

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
博士コースワークショップⅠ A またはⅠ B において、A-評価以上の修得者のみ、履修可能である。
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。
In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】
The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that students make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.
The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve yourself via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.
The requirements of Dissertation Workshop Ⅱ A are to write (1) a review article of previous studies and (2) at least one (empirical) article equivalent to one chapter that will constitute your dissertation.

MAN700F1 － 0010

博士コースワークショップⅡ B

経営学専攻　専任教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会での報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数教員からの批判、助言、質問等を受けられる良い機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップⅡＢでは、中間報告会での報告が、ステップ２のクリアに求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
The goal of this class is to pass the second step or step two of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on the submitted papers including both a literature review study and at least one (empirical) study equivalent to one chapter of dissertation. For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments of your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students and participants through Q and A sessions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生、研究生は、研究科長の許可を得たうえで参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第２回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第３回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第４回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第５回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する

第 6 回	博士コース中間報告会①	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している。
第 7 回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You should steadily progress your research in a planned way. The preparations for the requisite presentation in the workshop, as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals, are expected.
After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should sort tasks and continuously improve your studies for your dissertation.

【テキスト（教科書）】
Not specified

【参考書】
Not specified

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, qualities of presentation, responses in Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to take the next series of Dissertation Workshop Ⅲ A and/or Ⅲ B.
Note that students who passed the Dissertation Workshop Ⅱ B examination do not have to take (next year's) Dissertation Workshop Ⅱ A.

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
博士コースワークショップⅠＡまたはⅠＢにおいて、A-評価以上の修得者のみ、履修可能である。
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。
In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】
The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that students make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.
The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve yourself via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.
The requirements of Dissertation Workshop Ⅱ B are to write (1) a review article of previous studies and (2) at least one (empirical) article equivalent to one chapter that will constitute your dissertation.

MAN700F1 － 0011

博士コースワークショップⅢＡ

経営学専攻　専任教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員からの指導、助言、あるいは批判や疑問を受けることができる機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。
博士コースワークショップⅢＡでは、中間報告会での報告で、ステップ３のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】
The goal of this class is to pass the third step or step three of the dissertation examination. In order to do that, you are required to complete the first version of the overall doctoral dissertation including an (empirical) study constituting the principal chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals. In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author, should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に至るまでの中間的な成果を中間報告会で発表し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。
なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生は研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「サーベイ論文と構成章 (論文)」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章 (論文)」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第 2 回	博士論文全体構成の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章 (論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第 3 回	博士論文全体構成の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章 (論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第 4 回	主要章の報告①	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する

第 5 回	主要章の報告②	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第 6 回	博士コース中間報告会①	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7 月第 1 土曜日を予定している。
第 7 回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7 月第 1 土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You should steadily progress your research in a planned way. Preparation for the requisite presentation in the workshop, as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals, is expected.
After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should try to resolve the problems pointed out and improve the manuscript of your dissertation and complete it.

【テキスト（教科書）】
Not specified

【参考書】
Not specified

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting (the examination committee of doctoral dissertation) of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, qualities of presentations, responses in Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A- (A minus) credit will be entitled to submit their doctoral dissertation to the examination committee. Note that students who passed the Dissertation Workshop Ⅲ A examination do not have to take Dissertation Workshop Ⅲ B.

【学生の意見等からの気づき】
『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
博士コースワークショップⅡＡまたはⅡＢにおいて、A-評価以上の修得者のみが履修可能である。
受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。
In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】
The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that the student make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.
The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve your study via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.
The requirements of Dissertation Workshop Ⅲ A/B are (1) to write a paper equivalent to the principal chapter of your doctoral dissertation, and (2) to complete the overall doctoral dissertation.

MAN700F1 － 0012

博士コースワークショップⅢＢ

経営学専攻　専任教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員からの指導、助言、あるいは批判や疑問を受けることができる機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅢＢでは、中間報告会での報告で、ステップ３のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

The goal of this class is to pass the third step or step three of the dissertation examination. In order to do that, you are required to complete the first version of the overall doctoral dissertation including an (empirical) study constituting the principal chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals. In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author, should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に至るまでの中間的な成果を中間報告会で発表し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生は研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章 (論文)」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章 (論文)」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第２回	博士論文全体構成の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章 (論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第３回	博士論文全体構成の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章 (論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第４回	主要章の報告①	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第５回	主要章の報告②	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第６回	博士コース中間報告会①	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している。
第７回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You should steadily progress your research in a planned way. Preparation for the requisite presentation in the workshop, as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals, is expected.

After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should try to resolve the problems pointed out and improve the manuscript of your dissertation and complete it.

【テキスト（教科書）】

Not specified

【参考書】

Not specified

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting (the examination committee of doctoral dissertation) of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, qualities of presentations, responses in Q and A sessions, and others.

Successful applicants given higher than A- (A minus) credit will be entitled to submit their doctoral dissertation to the examination committee. Note that students who passed the Dissertation Workshop Ⅲ B examination do not have to take (next year's) Dissertation Workshop Ⅲ A.

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップⅡＡまたはⅡＢにおいて、A-評価以上の修得者（ステップ２の合格者）のみが履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

In addition, all doctoral students who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the meeting. Master's course graduate students and research students may participate with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】

The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that the student make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.

The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve your study via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.

The requirements of Dissertation Workshop Ⅲ A/B are (1) to write a paper equivalent to the principal chapter of your doctoral dissertation, and (2) to complete the overall doctoral dissertation.

法政大学
HOSEI University